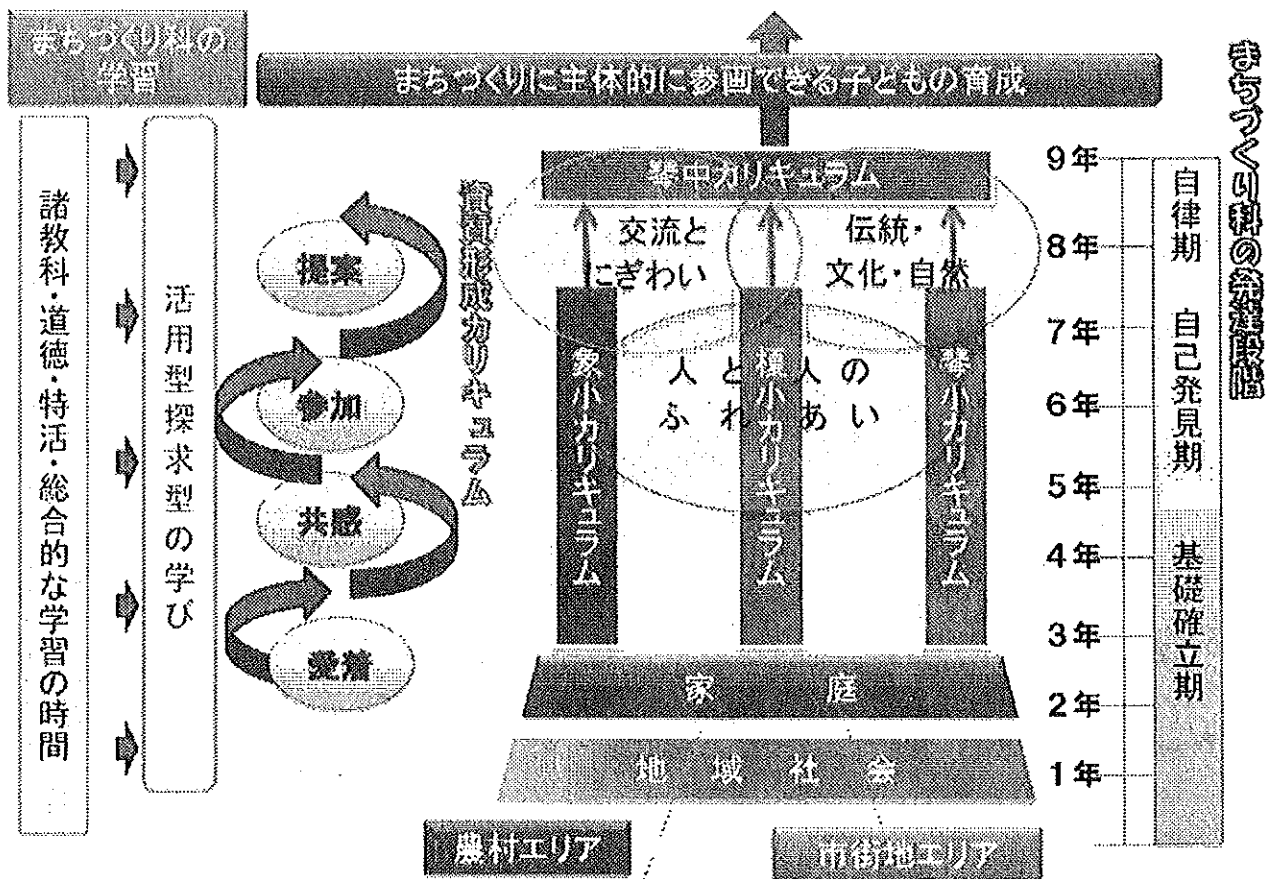


平成22年度 現職教育「まちづくり科」

実践資料集



琴平町立榎井小学校



1 研究開発課題

新教科「まちづくり科」を通して、郷土を愛し、まちづくりに主体的に参画できる子どもを地域と一体となって育てる。

2 研究の概要

小・中学校9年間を通して、発達の段階の課題を明確にして、まちづくり教育を推進する。実際にまちづくりにかかわり、まちの変容と自己効力感を実感することで、地域社会を担う一員として必要な資質を幅広く養う。

まちづくり教育を行うために、小学校では国語科・社会科・生活科・家庭科・総合的な学習の時間を一部削減、中学校では国語科・社会科・美術科・外国語科・総合的な学習の時間・選択教科・特別活動の一部削減し、新設教科「まちづくり科」を教育課程に位置付ける。

具体的には、初めの4年間（基礎確立期：小1～小4）を自分と自分のまちを知る時期ととらえ、まちについて調べたり、必要な基礎的な能力を身に付けたりする。次の3年間（自己発見期：小5～中1）を地域と学校が一体となって体験的な学びを発展させる時期ととらえ、自らの視野を広げるまちづくりの実践を推進する。最終の2年間（自律期：中2～中3）はまちづくりに参画する学習を深め、まちづくりに貢献しようとする意欲や態度を育てる。

この「まちづくり科」の実施を通して、地域へのかかわりの中で、子どもの成長を評価し、その教育効果について提言する。

まちづくり科

郷土を愛し、まちづくりに主体的に参画できる子どもの育成

目的

郷土について知り、公共のために役立つ活動やまちづくりの実践等、積極的で主体的なかわりを通して、郷土を愛する心や社会の形成に寄与する心構えを育て、郷土をよりよくしていこうとまちづくりに参画する態度を育成する。

単元の流れ

段階及び領域

対象に動きかける

自律期
中学2・3年



対象の背景を探る

自己発見期
小学5年～中学1年

人と人との
ふれあい

交流と
にぎわい

伝統・文化
自然



対象との出会い

基礎確立期
小学1年～4年

町内での活動

学ぶべき教材や人材が地域に豊富にある。少子高齢化の進展が顕著であり、地域全体としてふるさとを大切にする子どもに育ててほしいという願いがある。

子どもの勤労・ボランティア・文化体験等が不足しており、人や地域を大切にする心や態度が十分に育っていないと言えない。

町内に3小学校、1中学校があり、位置的にも敷の上でもまとまりやすい。これまでも小中の連携を図った教育活動を推進してきた。

まちづくり科の学習目標及び学習内容

教科の目標		郷土について知り、公共のために役立つ活動やまちづくりの実践等積極的に主体的なかかわりを通して、郷土を愛する心や社会の形成に寄与する心構えを育て、郷土をよりよくしていくとまちづくりに参画する態度を育てる。		
ねらい		領 域		
		人と人とのふれあい	交流とにぎわい	伝統文化・自然
		誰もが大切にされ、しあわせで豊かに生活できるまちづくりをめざして、一人ひとりの人権意識を高め、誰もが住みよいまちにするために積極的に行動しようとする意欲や態度を育てる。	まちたんけんやまちの人々の仕事調べ・仕事体験や観光調べを通して郷土のすばらしさや自慢を見つけ、開かれた住みよいまちづくりに提案したり、まちづくりに参画したりしようとする意欲や態度を育てる。	まちに古くから伝わる伝統文化と自然環境についての調べ学習や体験学習を通して先人の努力を知り、郷土に愛着と誇りを持ち、それを守り受け継ぎ発展させようとする意欲や態度を育てる。
目 標		地域と家族や自分について知り、友だちとともに地域や家族について調べ、郷土の福祉や観光についての基礎的な知識を身に付けるとともにまちづくりの基礎となる身近な体験をする。		
基礎確立期	一 二 年	● 家族や自分の身のまわりの人や自然、場所などとの関わりを楽しみ、まちのお気に入りやまをまとめたり伝えたりすることを通して自分のまちだと意識することができる。 ● 家族や地域の一員として自分たちができていることをする。(クリーン作戦・お気に入りの散歩コース紹介・昔の遊びの紹介など) 【関・態】人や自然、場所等との関わりを楽しみ、進んでまちのじまんを見つけようとする。 【思・判】めあてをもって活動・体験し、聞いたり、比べたり、調べたりして考えを深める。 【表・技】発見したまちのよさを分かりやすく工夫してまとめたり、人に伝えたりする。 【知・理】まちの伝統文化や自然の様子、それを支える人々のすばらしさが分かる。		
		◎ 誰とでもなかよくすることができる。 ◎ 家族や近所の方にお世話になっていることがわかる。 ○ 身近な人々	◎ 身の回りのじまんを見つめることができる。 ○ 地域のお祭り	◎ 古くからある身の回りのじまんを見つめることができる。 ○ こんぴら船々、榎井小唄 ○ 身近なまちの自慢
	三 四 年	● 友だちとともにまちの伝統文化や産業、自然などについて調べ、まちの特色やよさ、人々の働きを理解し、まちの人々の思いや願いに共感することができる。 ● 地域のために自分ができることをする。(まちの自慢マップ、地域のPR、クリーン作戦) 【関・態】まちの人たちの思いや願い、くらしの様子を意欲的に調べ、共感することを通して、自分のまちを大切にしようとする。 【思・判】調べたことをもとにまちの特色やよさなどを考え、自分ができることを見つける。 【表・技】まちの人の気持ちを聞いたり、友だちと調べたりしたことを工夫してまとめ、表現する。 【知・理】まちの伝統文化や産業、自然のよさ、人々の働きを理解している。		
		◎ 互いの違いを認め合い、相手の気持ちを考えて行動する。 ◎ まちのために仕事をしている人がいることがわかる。 ○ 安全を守る人々	◎ 商店街や特産物・農産物について調べ、まちの特色やよさ、人々の思いや願いがわかる。 ○ 地区のまち自慢 ○ お祭り ○ 昔のこんぴら参り	◎ 昔からまちにあるものや先人の知恵や努力について調べ、人々の思いや願いがわかる。 ○ 地域に残る古いもの ○ 地区の自然
目 標		郷土についてより深く知り、まちづくりの実践を行う中で、自らの生き方を発見し、まちづくりに参画しようとする態度を育てる。		
自己発見期	五・ 六 年・ 中 一	● よりよいまちづくり(バリアフリー・金毘羅歌舞伎など)について調べ、それに携わった人々の努力や協力関係を理解し、思いや願いに共感することを通して、自分の関わり方を考えることができる。 ● 地域のために発信したり、自分たちができていることを実践したりする。(子ども議会、金毘羅歌舞伎のPR、琴平まちのバリアマップ) 【関・態】まちの「人」「もの」「こと」に関心を持ち、積極的に調べ、よりよいまちづくりに向けた活動に進んで取り組もうとする。 【思・判】まちが発展してきた理由を考え、それらに対する自らの関わり方を適切に判断する。 【表・技】多様な人や資料から情報を収集し、分かったことや提案内容の方法を工夫してまとめる。 【知・理】よりよいまちづくりに向けに行われた継続的な努力や多くの人の協力関係を理解している。		
		◎ 友だちの悩みをみんなの悩みとして共に考え、よりよい生活にするために意見を言うことができる。(人権集会) ◎ 人にやさしいまちにするために自分たちができていることをする。 ○ 人にやさしいまちづくり ○ 子ども会議 ○ 人にやさしいまちづくり	◎ 金毘羅歌舞伎などに携わっている人々の努力や協力を理解し、自分の関わり方を考える自分のできごとを実行する。 ○ 金毘羅歌舞伎によるまちおこし ○ 琴平まちのまちおこし ○ 琴平まちの全体像	◎ 金丸座やその歴史などについて調べることを通して、復活に携わったまちの人々の思いや願いを理解する。 ○ 金丸座の歴史と復活 ○ まちにある日本文化 ○ ふるさと学習に向けて
目 標		自己を見つめ、将来のあるべき姿を模索するとともに、郷土を愛し、その発展に貢献しようとする心や態度を育て、まちづくりに主体的に参画する。		
自立期	中 二 ・ 三	● まちにかかわる「人」「もの」「こと」について調べ、それに携わった人々の努力や協力関係、地域の課題を理解し、地域の発展を願い、自分のかかわり方を多様に考えることができる。 ● 地域の改善に向けて課題を見つけ、自分たちができていることを実践するとともに集団にはたらきかけようとする。 【関・態】まちの一員としての自覚を持ち、まちづくりに積極的に関わり貢献しようとする。 【思・判】まちにかかわる「人」「もの」「こと」について学習したことを関連させ、まちづくりの企画・運営について根拠ある提案をする。 【表・技】まちづくりに関して他者とコミュニケーションを図り、学習したことを表現方法を工夫して伝える。 【知・理】まちの「人と人とのふれあい」「交流とにぎわい」「伝統文化」についての知識を身に付けている。		
		◎ 社会のかかえる悩みをみんなの悩みとして共に考え、よりよい社会にするために意見を言うこととする。 ◎ 人にやさしいまちをめざして、周囲の人とかかわり考え、コミュニケーションができる。 ○ だれもが住みやすいまちづくり	◎ 社会をよりよくしている人の努力や協力を理解し、自分の将来を見つめ、自分の夢やまちの未来に向けて、努力しようとする。 ○ 琴平まちの仕事体験 ○ まちづくりへの参画	◎ まちの文化や自然などについて調べ、見つけたまちのよさを地域に広めることができる。 ○ 文化としての金毘羅歌舞伎

学 年	学 期	領 域		
		人と人とのふれあい	交流とにぎわい	伝統・文化・自然
1	1	○身近な人々(20) ・ 家族 ⊗安全マップで地区の危険場所の紹介(6年)		○身近なまちの自慢(3) ・ 春日神社の自然 ⊗ 散歩コースを紹介(2年)
	2	・ 近所の人 ・ 近所の子ども SOS		○こんびら船々、榎井小唄(3) ○身近なまちの自慢(4) ・ 春日神社の秋の自然
	3	・ 昔の遊び(地域の人) ・ 幼稚園児		
		⊗まちづくりフェスティバル(全学年交流)(2)		
2	1			○身近なまちの自慢(10) ・ 学校の近くの古いもの(春日神社、旗岡神社、お旅所) ⊗散歩コース紹介(1年)
	2		○地域のお祭り(20) ・ 春日神社(旗岡神社) ・ 大井神社 ・ こんびらさん(お十日・神事場)	⊗榎井の自慢をマップで紹介(3年) ・ 高燈籠
	3		・ クリーン作戦	⊗榎井の自慢の写真展(4年)
		⊗まちづくりフェスティバル(全学年交流)(2)		
3	1		○校区のまち自慢(45) ・ 昔からの商店街 ・ 商店 ・ 醤油、味噌、酒、小麦 ⊗榎井の自慢をマップで紹介(2年)	○地域に残る古いもの(15) ・ 神社 ・ 寺
	2		⊗うどん作り(琴平の小麦、水、醤油)と味見(5,6年)	・ 長谷川佐太郎生家跡
	3	○安全を守る人々(10) ・ 消防団 ・ 子どもSOS ・ 警察		⊗榎井の自慢写真展(4年)。
		⊗まちづくりフェスティバル(全学年交流)(2)		

学 年	学 期	領 域		
		人と人とのふれあい	交流とにぎわい	伝統・文化・自然
4	1		○昔からのこんびら参り(10) ・こんびら五街道	○校区の自然(10) ・出水 ○地域に残る古いもの(35) ・灯籠, 丁石, 鳥居 ・呑象楼 ・こんびらさん
	2		○お祭り(15) ・春日神社 ・大井神社 ・旗岡神社 ・お十日 ・祭りに関わる人々の願い	◎榎井の自慢写真展 (1, 2, 3, 5, 6年生)
	3	◎まちづくりフェスティバル(全学年交流)(2)		
5	1		○こんびら歌舞伎によるまちおこし(32) ・こんびら歌舞伎 ・こんびら歌舞伎を支えた人々	○金丸座の歴史と復活(8)
	2		○琴平町の町おこし(30) ・琴平町の観光 ・こんびらさんと観光 ◎琴平の小麦, 水, 醤油を使 ったうどん紹介(3年) ・琴平町の PR	○まちにある日本文化(8) ・書院 ◎榎井の自慢写真展(4年)
	3	◎まちづくりフェスティバル(全学年交流)(2)		
6	1	○人にやさしいまちづくり(66) ・安全マップ ◎安全マップで地区の危 険場所の紹介(1年) ・車椅子体験 ・高齢者疑似体験 ・バリアフリーマップ ・高齢者との交流		
	2	・運動会や人権集会に招 待 ・人権集会 ・子ども会議 ◎人権劇(小・中の交流)	◎琴平の小麦, 水, 醤油を使 ったうどんの紹介(3年)	
	3	◎こんびらクイズまつり(小・中の交流)(2)		
		◎まちづくりフェスティバル(全学年交流)(2)		
				◎榎井の自慢写真展(4年) ・呑象楼の紹介

榎井小学校 まちづくり科 カリキュラムの系統性

<えない大すき～身のまわり・近所>

1年 まちづくり科 カリキュラムの系統性

- ① 1年で、身近な地域のことを探検して気づき、地域の温かさや良さを感じるようにする。
「春日神社・旗岡神社」「子どもSOS」
- ② 2年では、1年の気づきを更に深めて、「町のじまん」「おきにいりの散歩コースをしようかいしょう」という単元を通して、自分の気づきや思いを大切にしながら地域の概要をとらえることができるようにする。

<えない大すき～地域・まち～>

2年 まちづくり科 カリキュラムの系統性

- ① 1年で、地域を身近にとらえられるような体験をする。春日神社や地域の子どもSOSについてなど絞って、地域のもの・自然を見つけたり、人との交流を図ったりする。
- ② 2年では、更に地域を広げて、もっとまちのものや自然・人のことを知ろうとする意欲を育てる。参画意識を高めるために「おすすめの散歩コース」をつくり、他学年に紹介する活動を工夫する。自分でコースを選び、選んだ理由が言えるということで、まちへの思いをはっきりさせる。祭りについても昔から続いているすばらしさや思いを調べ、まちへの愛着を高める。
- ③ 3年では、2ねんで学習したもののの中から古い物へ目を向ける。

<えないの自慢を見つけよう～まるお商店のひみつ～>

3年 まちづくり科 カリキュラムの系統性

- ① 2年で身近なまちの自慢を見つける活動を通して、学校の近くの古いものや地域のお祭りについて学習した。
 - 2年で、自慢を知らせる活動をしたり、お祭りに関わっている人々の願いをインタビューしたりして、自分たちにできることを考え、地域のクリーン作戦をした。
- ② 3年では、2年の学習を思い出し他の地域の人に自慢できることを探そうと課題を設定した。そして、榎井の自慢を「古いもの」「きれいな水」「麦」の3つにまとめ詳しく調べた。さらに古い建物である醤油屋に目をつけて調べ、「なぜ昔から醤油が作られているか」を考えたり、インタビューしたりして、店の人の思いや願いを知り、みんなに知らせようという意識を高めるために。
 - 3年で榎井の自慢の「醤油」を知らせるためのチラシを作る。また、醤油のおいしさを知ってもらうために、5,6年生にうどんと一緒に醤油の味見大会を開く。さらに、フェスティバルでは、地域の方や異学年の友だちにも広める。
- ③ 4年生では、写真展を開いて榎井の自慢を知らせる。そして、古いものが残っているわけを知り、自分たちが行動に移すことの大切さを学ぶ。
 - 榎井の自慢である「呑象楼」のことを広めたり、守ったりする活動を考えて実行する。

<榎井の自慢をアピールしよう～榎井のじまん写真展「呑象楼」～>

4年 まちづくり科 カリキュラムの系統性

- ① 3年で、まち自慢を見つける活動を通して、榎井の自慢「古い物が残っていること」「水がゆたかなこと」を学習した。

- 3年で、榎井の自慢「しょうゆ」を知らせるためにちらしを作ったり、榎井のしょうゆのおいしさを知らせるために、5、6年生にうどんといっしょにしょうゆの味見大会をしたりした。
- ② 4年生では3年の学習を思いだし、「榎井の自慢」を知らせるために、写真に撮って写真展を開こうという大きな課題を設定した。そして、「呑象楼」「春日神社」「大井神社」について詳しく調べ、なぜ、古い物が残っているのかを考えることを通して、地域の人々の願いから行動に移すことの大切さを知り参画意識を高める。
- 榎井の自慢である「呑象楼」を残すために、呑象楼の掃除をしたり、クイズを作りなおして呑象楼に張ったりする。知らせるために全校生の前で日柳燕石の漢詩を吟じたり、子ども議会に提案したりする。遠い親戚の人には呑象楼まんじゅうを配って話をする。
- ③ 5年生では、琴平町の「古い物」「金丸座」やそこで行われている「こんぴら歌舞伎」をとりあげる。
そして、観光の町として、大勢の人に来てもらうためにという視点で町を見直させる。
- 実際に何ができるか考え、実行する。

<観光のまち琴平～こんぴら歌舞伎とこんぴらさん～>

5年 まちづくり科 カリキュラムの系統性

- ① 4年で、まちの中（榎井校区）のお気に入りの場所を撮影した。
- ② 5年生では、榎井校区から琴平町全体に自慢の視点を広げるとともに、季節の移り変わりによるまちの変化もお気に入りのに加える。春のお気に入りとか自慢したいことは、歌舞伎であるという意識付けをおこなう。歌舞伎にどのような参加（準備や片付け段階で）ができるか。
- ③ こんぴらさんの観光客を季節毎に比べてみる。春の時期と秋の時期を比べると、秋の方が少ないことがわかる。そこで少ない季節に観光客を増やす行事等の工夫を考える。
- ④ もっとだれでも（子ども、障害をもっているお年寄り）があがりやすくするための工夫や方法について考える。（石段の掃除、道案内、写真、補助等）

<みんなが住みやすいまち～人に優しいまちことひら～>

6年 まちづくり科 カリキュラムの系統性

- ① 6年生では、5年の「こんぴら歌舞伎」で大勢の人に来てもらうために観光客に“優しい”という観点で学習したことを受けて、琴平に住んでいる人に優しい町とはどういうものか考えていく。
- ② 障がいをもつ人や高齢者、小さな子どもたちが心地よく生活するための設備や施設をさがしたり、疑似体験を通して生活の不便さを実感させたりする。そして、地域の安全マップやバリアフリーマップを作ったりする。さらに、高齢者や障がいをもつ人と交流したりすることにより、自分たちにできることはなにかを考え、高齢者が元気で楽しくなるようにと「榎小キッズいきいき塾」を開催する。
- ③ 中学校では、小学校での学習をより深化させ、人間関係を深める活動を通して、優しい町づくりを考えていく。

1年「好きな場所・好きな物・好きな人を見つけよう」(伝統・文化・自然)

1 単元計画 (総時数 7時間)

まちのイメージを広げる。

○イメージマップを書き、身近なまちに関心を持つ。 (1時間)

学校のまわりを探検する。

○学校のまわりを探検して、好きな場所・好きな物・好きな人を見つけてカードに書く。 (1時間)

○一番紹介したいところを選んで絵や文で表し、マップに貼る。 (1時間)

○おうちの人に一番紹介したいところを理由をつけてお話できるように練習する。 (2時間)

自分の家の近くを探検する。

○自分の家の近くを探検して、好きな場所・好きな物・好きな人を見つけてカードに書く。 (家庭)

○見つけたことを発表し、マップに貼る。 (1時間)

おうちの人に発信する。

○おうちの人にも好きな場所を聞いてマップに加える。 (1時間)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○自分のまわりの場所・物・人を選んで進んで見つけようとする。 〈観察・ワークシート〉 ○自分が見つけた好きな場所・物・人をマップに貼ったりおうちの人に知らせたりできる。 〈カード・表現物〉	○自分の見つけた場所・物・人をカードに書くことができる。 〈カード〉	○友だちと協力して、マップを作っていくことができる。〈表現物〉 ○発表の仕方・聞き方を学び、マップに貼りながら聞き合う。 〈観察〉 ○自分の聞きたいことをインタビューすることができる。〈観察〉	○自分のまわりにある場所・人・物を見つけ、自分のまわりには、素晴らしいものがたくさんあると気づくことができる。〈テスト〉 ○インタビューの仕方が分かる。〈テスト〉

1年「まちのおどりを踊ろう」(伝統・文化・自然)

1 単元計画 (総時数 3時間)

まちのおどりを知る。	○まちのおどりを調べる。 (家庭) ○まちには、どんなおどりがあるか話し合う。 (1時間)
こんぴら船々を練習する。	
○こんぴら船々の踊りを練習する。 (1時間) ○踊りを発表し合って、こんぴら船々の踊りの特徴を見つける。 (1時間)	おうちの人に発信する。
	○おうちの人と一緒に踊る。 (家庭・講習会)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○まちのことを伝える歌や踊りを調べようとする。 〈観察〉 ○こんぴら船々の踊りを練習できる。 〈観察・表現〉	○踊りの特徴を書くことができる。 〈ワークシート〉	○友だちと協力して、踊りを覚えていくことができる。 〈観察・表現物〉	○まちには、自慢の歌や踊りがあることを知り、どんなことを自慢しているのか見つけることができる。 〈テスト〉

1年「お世話になっている人との交流」(人と人とのふれあい)

1 単元計画 (総時数 10時間)

学習計画を立てよう

- 自分たちの安全を守るものを写真をみて話し合う。 (1時間)
- かけこみ110番について知りたいことについて話し合い、調べる計画を立てる。 (1時間)

子どもかけこみ110番の人について調べよう

- 子どもかけこみ110番の看板を見つけ、地図に表わす。 (1時間)
- 子どもかけこみ110番の人に聞きたいことをまとめ、練習する。 (1時間)
- 学校の近くのお店に行ってインタビューをする。 (1時間)
- 自分の家の近所にある子どもかけこみ110番の人にインタビューをする。 (家庭)
- 聞いたことをまとめ、さらに知りたいことを考える。 (2時間)
- ゲストティチャーに、知りたいことを聞いたり、身を守る方法について教えてもらい、擬似体験をする。 (1時間)

だいすき えないのまち

- 自分たちにできることを考える。 (1時間)
- ゲストティチャーにお礼の手紙を書く。 (1時間)
- 子どもかけこみ110番のお店や家に新しい看板を届ける (随時)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○近所の子どもかけこみ110番について自分が知りたいことを書き、発表できる。 (ワークシート)	○自分の知りたいことをインタビューし、わかったことや思ったことをまとめることができる。 (観察)	○子どもかけこみ110番の人たちがしていることを知り、困った時にどうすればよいか練習できる。 (役割表現・観察)	○自分たちは、まわりの人に世話になっていることが分かり、感謝の手紙を書くことができる。 (手紙)

1年「幼稚園と交流しよう」(人と人とのふれあい)

1 単元計画 (総時数 10時間)

幼稚園の子どもたちと交流する準備をしよう。

○幼稚園の子どもたちに小学校のことを教えてあげるために、どんなことをするか話し合う。
(1時間)

○交流に備えて、準備をする。
(3時間)

幼稚園の子どもたちと交流する。

○幼稚園の子どもたちを迎えて交流する。
(1時間)

○交流の感想を書き、幼稚園へ送る。
(1時間)

幼稚園の子どもたちを小学校に迎える準備をする。

○幼稚園の子どもたちの入学に向けて準備をする。
(4時間)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○幼稚園の子どもたちにどんなことをしたらよいか、考えることができる。 〈発表〉	○幼稚園の子どもたちが喜んで讃歌できるように、自分たちができるところを考える。 〈観察〉	○幼稚園の子ども達と楽しく交流することができる。 〈観察〉	○幼稚園の子どもたちの様子や自分たちの気持ちを感想に書くことができる。 〈感想〉

1 年「地域の人と昔の遊びをしよう」(人と人とのふれあい)

1 単元計画 (総時数 4 時間)

昔の遊びを調べよう。

○昔の遊びについて知っていることを話し合う。

(1 時間)

昔の遊びをやってみよう。

○やってみたい昔の遊びをいろいろ体験する。

(2 時間・生活科)

○自分のめあてをもって体験する。

(2 時間・生活科)

○地域の人に昔の遊びを教えてもらう。

(1 時間)

○地域の人や保護者、他の学年の友だちと昔の遊びをいっしょにする。

(2 時間)

(まちフェスティバル)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○昔の遊びについて知っていることや知りたいことを進んで考えることができる。 (発表)	○自分のしたい遊びを工夫しながら練習することができる。〈観察〉	○地域の人や他の学年の友だちと一緒に昔の遊びをして交流することができる。〈観察〉	○いろいろな昔の遊びがあることが分かる。〈観察・ワークシート〉

2年「おすすめの散歩コースを見つけよう」(伝統と文化・人と人のふれあい)

1 単元計画 (総時数 20時間)

学習計画を立てる。

- 榎井のまちをよく知るために、探検の計画を立てる。 (1時間)

探検して散歩コースをつくる。

- 榎井のまちを探検する。(コース1) (1時間)
- コース1の中から、おすすめの散歩コースをつくる。 (1時間)
- 榎井のまちを探検する。(コース2) (1時間)
- コース2の中から、おすすめの散歩コースをつくる。 (1時間)
- 榎井のまちを探検する。(コース3) (1時間)
- コース3の中から、おすすめの散歩コースをつくる。 (1時間)

1年生や友だちに散歩コースを紹介する。

- 1年生におすすめの散歩コースを紹介する。 (1時間)
- 家の近くの散歩コースを見つける計画を立てる。 (1時間)
- 家の近くの散歩コースを友だちに紹介する。 (1時間)

おうちの人に散歩コースを紹介する。

- 散歩コースのクイズを作る。 (2時間)
- まちで出会った人を劇で紹介する計画を立てる。 (3時間)
- おうちの人に散歩コースについて紹介し、一緒に散歩する。(まちづくりフェスティバル) (2時間)
- 散歩コースをきれいにする。 (3時間)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○まち探検で、まちの好きなどころを3つの観点(もの・自然・人)から見つけることができる。 〈観察・ワークシート〉	○自慢するために、紹介したいことを選ぶことができる。〈ワークシート〉 ○選んだ理由を考えることができる。 〈ワークシート〉	○写真や絵を活用してコースをつくることをできる。 〈観察・ワークシート〉 ○聞いている人が分かるように、順序に気を付けて発表の仕方を考えることができる。 〈観察〉	○まちの人がまちを大切に思っていることが分かる。 〈発表・テスト〉 ○散歩コースにあったものの様子を知ることができる。 〈テスト〉 ○散歩するために、きれいなまちが大切であると分かる。〈発表〉
○自分が見つけた自慢のもの・自然・人を1年生や友だち・おうちの人に進んで発表できる。 〈観察〉	○まちをきれいにするために、散歩コースを掃除することができる。 〈観察〉		

2年「おまつりしんぶんを作ろう」(交流とにぎわい)

1 単元計画(総時数 10時間)

○ お祭りについて調べる計画を立てる。	第1次 学習計画を立てよう。	(1時間)
○ お祭りについて、知っていることを発表する。 ○ もっと知りたいことをまとめる。 ○ もっと知りたいことを家の人に聞いて発表する。 ○ もっと知りたいことを4年生に聞いて発表する。 ○ 地域の方からお祭りの話を聞く。	第2次 聞き取りをして調べる。	(5時間)
○ 新聞を作る計画を立てる。 ○ 今まで調べたことをもとに、新聞を作る。 ○ お祭り新聞を発表する。	第3次 新聞を作る。	(4時間)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○地区の祭りや「お十日」などの行事に興味をもち、進んで参加することができる。 (発言・日記)	○自分が知らせたい行事について分かったことや見つけたことを新聞に文章や絵でかくことができる。 (新聞)	○自分が知らせたい行事の様子を文章や絵、写真を使って分かりやすくまとめることができる。 (新聞・観察)	○参加した町の行事について使われているものや様子について理解することができる。 (テスト)
○調べた行事の内容を一生懸命書こうとする。 (観察)			○「お十日」について行われている場所や様子、意味などを理解することができる。 (テスト)

3年「榎井のじまんを見つけよう！」(交流とにぎわい)

1 単元計画(総時間 24時間)

学習計画を立てる⑨

- 榎井の町にあるものを発表する。(1時間)
- 榎井の町で自慢になりそうなものを考える。(1時間)
- 探検と発表の計画を立てる。(1時間)
- 地図の名前を考える。(1時間)

榎井の自慢を調べる⑩

- 東西南北に分かれて榎井の町を探検し、榎井の自慢を見つける。(4時間)
- 見つけたことをマップに書き込んだり、まとめたりする。(2時間)
- 榎井の町の自慢を3つのキーワードでまとめる。(2時間)
- 紹介したいことについてもう一度調べに行ったり、お家や地域の人にインタビューしたりしてくわしくまとめる。(3時間)

榎井の自慢マップをつくる⑥

- 写真や言葉で「榎井の自慢マップ」を作る。(4時間)
- 発表の練習をする。(3時間)
- 1・2年生に榎井の自慢を紹介する。(2時間)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○ 榎井の自慢できることを町で探検して見つけることができる。〈ワークシート〉 ○ 家の人に聞いたり、町の人にインタビューをしたりして榎井の町の自慢について調べることができる。〈ワークシート〉 ○ 1・2年生に分かるように発表を工夫することができる。〈観察〉	○ 榎井の町を探検したりインタビューをしたりして調べたことから、榎井の自慢「きれいな水」「古いもの」「小麦」にまとめることができる。〈観察〉	○ 榎井の自慢できるものを白地図に書き込み、文章にまとめることができる。〈ワークシート〉 ○ 榎井の自慢を地図や絵、写真などを使って分かりやすく発表することができる。〈観察〉	○ 榎井の町の自慢に何があるか理解している。(テスト)

3年「榎井のじまんを知らせよう！」（交流とにぎわい）

1 単元計画（総時間 32時間）

榎井のしょうゆと小麦について調べる計画を立てる。⑤

- まちの古いものの写真から丸尾商店を取り上げ課題をつかみ、気付いたことや不思議に思ったことをカードに書いて整理し、学習計画を立てる。（3時間）
- KJ法を身につけさせる。（2時間）

丸尾本店・丸尾商店について調べる。⑭

- 長谷川佐太郎について調べ、年表にまとめ、佐太郎の地域に対する想いに共感する。（2時間）
- 丸尾商店と長谷川佐太郎の関係について調べる。（2時間）
- 丸尾商店を見学してインタビューしたり、しょうゆの作り方を調べたりする。（5時間）
- なぜ榎井でお醤油を作るようになったのか考え、地域の特色に気付く。（1時間）
- 人気があるかについて調べたり、その理由を考えたりする。（4時間）

自分達ができることをしよう。⑬

- 丸尾醤油をうどんにかけて味見をし、アピールしようという意欲をもつ。（1時間）
- 自分達でうどんを作り、丸尾醤油をかけて味見会で振る舞う。（5時間）
- 学習したことをパンフレットや、ポスターにまとめアピールする。（4時間）
- 丸尾商店の人にお礼の手紙を書く。（1時間）
- 自分達で見つけた榎井の自慢を、劇やクイズ、ポスターで地域の人や他学年の友だちに紹介する。（2時間）

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○ 小麦や醤油作りについて知りたいことや疑問をもち、目的意識を持って見学したりインタビューしたりすることができる。〈観察・ワークシート〉 ○ インタビューやアンケートの内容を考えることができる。〈ワークシート〉 ○ 榎井のしょうゆのよさを知らせるためにイベントの準備やレポート作りに進んで取り組むことができる。〈ワークシート〉	○ レポートなどに伝えたことをまとめるとき、丸尾しょうゆ店の良さを選ぶことができる。〈メモ、表現物〉 ○ 昔からしょうゆを作っている理由から榎井のよさを考えることができる。〈ワークシート〉	○ 榎井のしょうゆについて調べたことを絵や文章でまとめることができる。〈表現物〉 ○ 榎井のしょうゆのよさをアピールするためのパンフレットを文章や絵の構成などを工夫して作るすることができる。〈表現物〉	○ しょう油が琴平町の豊かな水によって作られていることが分かる。〈テスト〉 ○ 長谷川佐太郎や丸尾商店との関係について理解し、地域の人のためにつくしたことが分かる。〈テスト〉 ○ しょうゆを作っている人の思いや願いがわかる。〈表現物〉

3年「榎井のじまんを見つけよう！～わたしたちの安全を守る人々～」（人と人とのふれあい）

1 単元計画（総時間 14時間）

安全を守る人々

- うちの人の安全に対する願いを聞いたり、地域の安全を守っている工夫を調べたりする。（4時間）
- 安全を守る人々の安全を守るための工夫や苦勞を聞きく。（3時間）
- お礼の手紙を書く（2時間）
- ポスターやマップにまとめる。（5時間）

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○ うちの人の安全に対する願いを聞いたり、地域の安全を守っている工夫を調べたりしようとする。＜観察・ワークシート＞ ○ 消防署方や警察の方々にお礼の手紙を書こうとする。＜表現物＞	○ 自分たちの安全を守るために地域の人々が気をつけていることに気づく。＜ワークシート＞	○ お礼の気持ちを手紙に書くことができる。＜手紙＞	○ 安全を守るために地域の人々が働いていることが分かる。（テスト）

4年「榎井の自慢をアピールしよう！」(伝統と文化・交流とにぎわい)

1 単元計画 (総時数70時間)

第1次 めあてをもち、計画を立てよう (3時間)

- 写真を使って榎井の自慢について思い出し、めあてを決める。 (2時間)
- デジタルカメラの使い方を知り、写真を撮る練習をする。 (1時間)

第2次 地域に残る古いものを調べよう (16時間)

- 古い建物や灯籠、神社等榎井に残る古いものを調べる計画を立てる。 (2時間)
- グループに分かれ、榎井の古いもの自慢をデジタルカメラで撮り、いわれなどを調べる。 (10時間)
- 調べたことの発表会をして、ふるさと歴史マップに位置づける。 (2時間)
- 新たな疑問をもとに、呑象楼を詳しく調べる計画を立てる。 (2時間)

第3次 呑象楼や日柳燕石について調べよう (21時間)

- 「呑象楼が何の建物か」を見学したり、役場の人の話を聞いたりして調べる。 (2時間)
- 「日柳燕石」について家の人に聞いたり、資料を使って年表でまとめたりして調べる。 (4時間)
- どのようにして「呑象楼」に高杉晋作が来たのか道しるべを手がかりに調べる。 (2時間)
- 「なぜ呑象楼が今の時代まで残っているのか」について話し合う。 (1時間)
- 「呑象楼」を大切にするために自分たちができることを話し合う。 (1時間)
- 「呑象楼」や「日柳燕石」についてのクイズを作り、呑象楼に掲示する。 (6時間)
- 「燕石会」の人に日柳燕石が作った漢詩や詩吟を教わる。 (4時間)
- 町の文化祭で詩吟を発表する。 (1時間)

第4次 お祭りについて調べよう (11時間)

- 大井神社や春日神社について、家の人や地域の人に聞く計画を立て、インタビューすることを決める。 (2時間)
- 秋祭りについて調べたことをまとめる。 (2時間)
- 調べたことを発表し合う。 (1時間)
- 地域の祭りに参加し、その様子や人々の思いを調べる。 (随時)
- 地区ごとに違うちょうさについて調べ、準備・片づけなど保存するために多くの人が携わっていることが分かる。 (4時間)
- 家の人やお祭りに携わる人の話をまとめ、お祭りに対する地域の願いや思いについて知る。 (2時間)

第5次 榎井のまちの写真展を開こう (19時間)

- どこを榎井の自慢にするか決め、写真を撮る方法や展示の仕方を考える。 (1時間)
- 写真を飾る額を作る。 (4時間)
- グループに分かれて、自慢になるベストショットを写真枠で考えながら撮る。 (2時間)
- ベストショットのアピール文を書いて発表し合い、榎井のまちのベストショットを選ぶ。 (4時間)
- お世話になった人に礼状や写真展の招待状を書く。 (3時間)
- 写真展の準備をする。 (3時間)
- 写真展を開き、地域の人や他学年の友だちに榎井の自慢を知らせる。(まちフェスティバル) (2時間)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○ 榎井の町に残る古いものについて意欲的に調べ、ワークシートに記入する<観察・ノート> ○ 「呑象楼」や「日柳燕石」について調べたり、まちの人たちの願いや思いに共感したりして、榎井のまちを大切にしようとする。<観察・ノート> ○ お祭りについて意欲的に調べ、参加するだけでなく、支える人々の思いに気づいて自分の町を大切にしようすることができる。<手紙・発言>	○ 調べたことをもとに歴史ある行事や町並みの特色やよさなどを考え、「お気に入りの写真」を選ぶ。<写真> ○ 地域の人話を聞くことによって、祭りを続けていくためには、たくさんの人が関わっていることに気づき、人々の願いを考えることができる。<表現物>	○ 調べて分かったことを年表や地図に書き入れることができる。<ワークシート> ○ 自分の考えの大事なことをはっきりとさせ理由をつけて分かりやすく発表できる。<観察> ○ 友だちの意見をメモを取りながら聞き、それに対して自分の感想を言うことができる。<発表・観察> ○ 呑象楼クイズをパソコンで観光客に分かりやすいカードに作ることができる。<クイズカード>	○ 日柳燕石がどんな人で、なぜ呑象楼が今も残されているかが分かる。<テスト> ○ こんぴらさんは、昔から全国の人に慕われその人たちの通った道がこんぴら五街道として残っていることが分かる。<テスト> ○ 昔から残る史跡やお祭りを大切に受け継いでいる人たちの努力があることが分かる。<質問・観察>

5年「こんぴら歌舞伎大芝居の歴史を知り、できることを考えよう」

(交流とにぎわい)

1 単元計画 (総時数 28 時間)

こんぴら歌舞伎大芝居を鑑賞して興味をもち、学習計画をたてよう

- | | |
|-------------------------------|--------|
| ○ 金陵の郷の清掃をし、歌舞伎の準備をする。 | (3 時間) |
| ○ 琴平町の春の様子を予想する。 | (1 時間) |
| ○ 琴平町の春の様子を見学に行く。 | (3 時間) |
| ○ 歌舞伎を鑑賞する。 | (4 時間) |
| ○ 歌舞伎について疑問や感想をもち、学習の見通しをたてる。 | (1 時間) |

こんぴら歌舞伎大芝居について知ろう

- | | |
|--------------------------------------|--------|
| ○ こんぴら歌舞伎大芝居の人気について知るために、調べたい項目を考える。 | (1 時間) |
| ○ インタビューの方法を考えて、校内の先生に聞く | (1 時間) |
| ○ 金丸座へいき、お客さんにインタビューする。 | (3 時間) |
| ○ データをグラフや表にまとめ考察する。 | (2 時間) |
| ○ 金丸座やこんぴら歌舞伎大芝居の歴史について知る。 | (2 時間) |
| ○ 歌舞伎を支える人たちについて知る。 | (2 時間) |

琴平町の人たちのすばらしさを知り、こんぴら歌舞伎大芝居に参加しよう

- | | |
|--------------------------------|--------|
| ○ 町の人による準備や片付けを知る。 | (1 時間) |
| ○ こんぴら歌舞伎大芝居のために自分にできることを実践しよう | (4 時間) |

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○こんぴら歌舞伎の魅力や金丸座の仕掛けなどを調べたり、家族に聞き取り調査をしたりすることができる。 <観察, ワークシート> ○役場の人の話を熱心に聞き、話の内容に対する自分の考えを持つことができる。 <ワークシート>	○こんぴら歌舞伎を大切にする人の行動の理由をこれまでの経緯や聞き取り調査などから考えることができる。 <ワークシート> ○自分たちができることを、現状に合わせて考えることができる。 <ワークシート>	○こんぴら歌舞伎のために自分たちができる方法を考え、実践できる。 <行動観察> ○こんぴら歌舞伎を多くの人に知ってもらうための作品づくりができる <作成物>	○こんぴら歌舞伎の歴史やしかけなどが分かる。 <ワークシート> ○なぜ大切にしてきたかという琴平町民の願いや思いが分かる。 <ワークシート>

5年「琴平町を香川県一の観光地にしよう」

(交流とにぎわい)

1 単元計画 (総時数 21時間)

秋の琴平町の様子を調べよう

- こんぴらさんの秋の様子を調べる (3時間)
- こんぴらさんや琴平町の様子を春の時と比較する。 (1時間)

たくさんのお客さんがくる条件を考えよう

- 春と秋との違いを比較し、原因を考える。 (0.5時間)
- グラフを見て、行事が大切であることが分かる。 (0.5時間)
- さらにお客さんを増やす条件や工夫を考える。 (3時間)
- 現実に近いような計画案を多面的に考え、計画のたてかたを学ぶ。 (1時間)

たくさんのお客さんを呼ぶための計画を立てよう

- 観光客を集める計画を立てる。 (1時間)
- 条件に合うように計画を精選し見直す。 (1時間)

プレゼンテーションをして琴平町の魅力を高める方法を確認しよう

- プレゼンテーションできるように計画をまとめる。 (5時間)
- 担任に発表し計画の修正をして、計画→実行→評価→改善のサイクルの有用性を学ぶ。 (2時間)
- できあがった計画を校内の先生にアピールする。 (2時間)
- 学習のまとめをする。 (1時間)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○ 季節によってかわる琴平町の様子を調べることができる。 ＜観察，ワークシート＞ ○ 観光客やこんぴらさんに関係する人に積極的にインタビューできる。 ＜観察，ワークシート＞	○ 経験や知識などから，観光客が集まる条件を考えることができる。 ＜ワークシート＞ ○ 町づくり計画の町民の考えに対する自分の意見を展開できる ＜観察，ワークシート＞	○ 観光客を集めるための表現ができる。 ＜観察，作成物＞ ○ わかりやすく伝える意見提案の方法で表現できる。 ＜観察，作成物＞	○ 琴平町で行われている行事がわかる。 ＜ワークシート＞ ○ なぜこんぴらさんに人が集まるかを，条件とつなぎながら説明ができる。 ＜観察，ワークシート＞

5年「歌舞伎役者になろう」

(交流とにぎわい)

1 単元計画 (総時数 21時間)

歌舞伎をアピールする方法を考えよう

- 観光客を集める工夫と関連づけて歌舞伎をアピールする方法を考える。 (1時間)
- 金丸座の見学をして木戸芸者の存在を知る (3時間)

木戸芸者を知って、練習しよう

- 木戸芸者について知る。 (1時間)
- 木戸芸者の練習をする (5時間)

木戸芸者になって発表しよう

- 木戸芸者の技を用いてできる歌舞伎のアピール方法を考える。 (1時間)
- 集会での具体的な発表内容を考えて練習する。 (6時間)
- 集会で発表する。 (2時間)

1年間のまとめをしよう

- 1年間のまちづくりで学習したことを、歌舞伎・観光・アピールというキーワードをつなぎながらまとめる。 (2時間)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○ ＜観察，ワークシート＞ ○ ＜観察，ワークシート＞	○ ＜ワークシート＞ ○ ＜観察，ワークシート＞	○ ＜行動観察，作成物＞ ○ ＜行動観察，作成物＞	○ ＜ワークシート＞ ○ ＜観察，ワークシート＞

6年「みんなが住みやすい町『ええなあ、いい町琴平町』をつくろう」

(領域：人と人とのふれあい)

1 単元計画 (総時数 68時間)

「人にやさしい町」について考えよう (4時間)

- 「住みやすい町」について考え学習計画を立てる。 (2時間)
- 「人にやさしい」とはどういうことか考える。 (2時間)

小さい子のために安全マップを作ろう (8時間)

- 通学路などの危険箇所を探して地図にまとめる。 (4時間)
- 安全に過ごすために気をつけることを考える。 (1時間)
- 1年生に紹介する計画を立てる。 (1時間)
- 安全マップで地域の危険箇所を紹介する。 (2時間)

バリアフリーを見つけよう (6時間)

- 榎井にあるバリアフリーを探して地図にまとめる。 (4時間)
- バリアフリーの設置場所をもとに、町のバリアフリーについてまとめる。 (2時間)

障がいをもつ人について調べよう (3時間)

- 障害をもつ人について知る。 (2時間)
(ヘレン・ケラー、乙武洋匡さん、星野富弘さん、辻井伸行さんなど)
- 高齢者の生活上の不便さを調べる。 (1時間)

体験しよう (車いす・高齢者) (12時間)

- コースを決めたり、体験のねらいを確認したりする。 (2時間)
- 車いす体験をする。 (3時間)
- 車いす体験についてまとめる。 (1時間)
- 高齢者疑似体験をする。 (3時間)
- 高齢者疑似体験についてまとめる。 (1時間)
- 議会の仕組みを知り、子ども議会に提案することを考える。 (2時間)

高齢者と交流しよう (23時間)

- 福祉に関する町の取り組みを調べ、高齢者の実態を知る。 (4時間)
- 高齢者と交流する。(げんき塾に参加する)〈Ⅰ〉 (2時間)
- 町の取り組みの意義を考える。 (1時間)
- 高齢者と交流する。〈Ⅱ〉 (2時間)
- 自分たちにできることを考える。 (2時間)
- プレゼンテーションの準備をする。 (2時間)
- プレゼンテーションをして、交流会の内容を決定する。 (2時間)
- 交流会の準備・練習・リハーサルをする。 (5時間)
- 交流会を行う。 (2時間)
- 実践をもとに、住みやすい町についてまとめる。 (1時間)

小中交流会をしよう (6時間)

- 交流会のねらいや内容を知り、計画を立てる。 (1時間)
- 準備や練習をする。 (3時間)
- 交流会に参加する。 (2時間)

榎小まちづくりフェスティバルをしよう (6時間)

- 発表内容を計画・準備・練習・リハーサルをする。 (4時間)
- まちづくりフェスティバルを開催する。 (2時間)

2 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○ 地域のバリアフリー化されているところを進んで調べようとする。〈観察〉 ○ 高齢者との交流方法を進んで多様に考えることができる。〈発表〉 ○ 地域の危険箇所を進んで調べようとする。〈観察〉	○ 自分たちにできることと町へのお願いを明確にして、子ども議会へ提案することを考えることができる。〈ワークシート〉 ○ 町のよさや改善点をまとめ、自分たちにできることを考える。〈発表・ワークシート〉 ○ 高齢者が楽しく元気になる交流内容を考えることができる。〈発表・ワークシート〉	○ 地図記号を工夫してバリアフリーマップにまとめることができる。〈マップ〉 ○ プレゼンテーションの仕方を知り発表内容や方法を工夫してプレゼンすることができる。〈観察・発表〉 ○ 高齢者が分かりやすい説明の仕方ができる。〈フリップ・発表〉 ○ 地図記号を工夫して安全マップにまとめることができる。〈マップ〉	○ バリアフリー化されているところの特徴が分かる。〈発表・ワークシート〉 ○ インタビューや調べ学習をもとに町の取り組みや高齢者の実態が分かる。〈発表・ワークシート〉 ○ アンケート結果などから、高齢者や障がいをもつ人にとって住みやすい町とはどんな町かが分かる。〈テスト〉

<>の中は評価方法

3 参画態度を培う

(1) 参画態度とは

子どもたちの「まちづくり」への参画態度を高めることは、子ども自身が「このまちに住んでいるんだ」「自分もこのまちの住民だ」「このまちの問題を解決するのに何とか自分でもできることをしたい」と段階をおって主体的にまちに働きかける実践的な態度を高めることである。

そこで、まちづくり科の参画態度を「愛着・共感・参加・提案」ととらえ、基礎確立期・自己発見期・自立期と段階をふまえて適切に身につけるように単元構成を行う。

①愛着…主客未分化な愛着の段階

まちの環境への親しみを深める学習を設定し、何度でも対象とかかわることを通して、場所や人への親密感を強める。

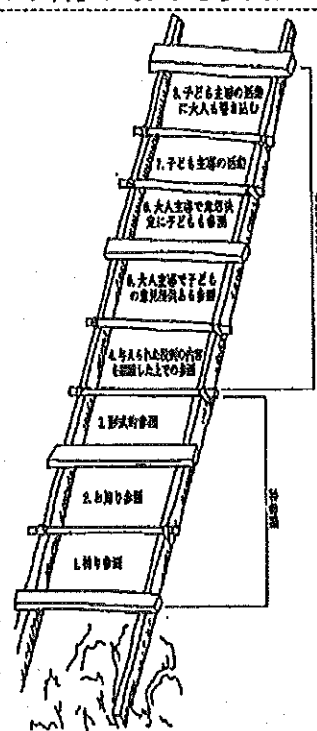
②共感…客観的に対象を見つめることができる資質

「なぜ～なのだろう」と対象に対する疑問について主体的に調べ、「～だ」と共感することを通して、「～ために～しよう」という行動につなげていく。

「まちがすき」「人がすき」「ものがすき」という気持ちが、このまちに住んでいるほこり、自慢となり、自分から「このまち（人、もの）のために～しよう」という行動につながる。

＜子どもの参画を示すロジャー・ハート氏の「参加の梯子」と「まちづくり科」における参画＞

子どもの参画を示すロジャー・ハート氏の「参加の梯子」	「まちづくり科」における参画の例	
	まちへの参加	活動への参加
8 子ども主導の活動に大人も巻き込む	・ 子ども議会（提案したことの実行）	
7 子ども主導の活動	・ 子ども議会（中）	・ 「榎小キッズいきいき塾」開催 ・ 散歩コースの紹介
6 大人主導で意思決定に子どもの参画		・ 「吞象楼」を残すために「～」をする（詩吟等） ・ 「まるおしょうゆ」を知らせるために試食会開催 ・ 榎井の散歩コースを作って2年生を案内する
5 大人主導で子どもの意見提供のある参画	・ 子ども議会（小）	
4 与えられた役割の内容を認識した上での参画	・ まちのクリーン作戦への参加	



(出典：Roger A. Hart, "Children's Participation: From Tokenism to Empowerment" (梯子のメタファは、Sherry Arnstein, 1969, "Eight Rungs on the Ladder of Participation" による。))

▲図4 子ども参画を示す
ロジャー・ハート氏の「参加の梯子」

③参加…「まちづくり科」では、ロジャー・ハート氏の「参加の梯子」の④段目以上の参加をめざしており、段階があがるに従って子どもの主体性は高まっていく。普段の授業は、⑤段目と考えられるが、基礎確立期でのまちへの参加については①段階からでも可能だと思われる。

④提案…現地のニーズや問題点を汲んだ改善案を練って提案できるようにする。

(2) 参画態度を高める指導の工夫

【参画態度を培う単元構成】

主体的にまちに働きかける実践的な態度を培うためには、愛着・共感をもち、「自分たちができることはないか」と子どもが主体的に参加できるようにしたり、地域やまちに貢献することを意識した活動をくり返し組んだりすることが必要である。そこで、次の5点に留意して単元構成をすることにした。

- a 子どもの「知りたい」「なぜだろう」を大切にしたい問題解決的な学習を展開する。
- b 体験学習を多く取り入れ、子どもの地域における「人・もの・こと」に対する興味・関心がもてるようにする。
- c 身近な人、近所の人、地域の人、「～を知っている人」「～をしている人」などの人の思いや願いを知る・せまる活動を取り入れる。
- d 自分たちが学習したことや思いを他の人に伝えたり、自分たちができることを話し合ったりする活動を取り入れる。
- e 地域やまちに貢献する活動（「～のために～しよう」）を組み、実践化が図れるようにする。

ア 目標からどのようにして参画態度を培うかを考え、「～のために」という目的を明確にして体験活動をくり返し組む。

<「～のために」という目的をもった活動>

学年	「～のために」	交流活動など
● 家族や地域の一員として自分たちができることをする。 (クリーン作戦、散歩コースの紹介など)		
1年	○「大好きな場所を大切にするために」	○ 春日神社の掃除 (1, 2年で)
2年	○「大好きな場所を大切にするために」	○ 春日神社の掃除 (1, 2年で)
	○「大好きな散歩コースを1年に知らせるために」	○ おすすめの散歩コースを1年に紹介 (いっしょに歩いて案内する)
● 地域のために自分ができることをする。 (地域の自慢紹介・クリーン作戦など)		
3年	○「榎井の自慢を1, 2年に紹介するた	○ 作成した榎井の自慢マップを使って1, 2年に

	めに」 ○「まちの自慢小麦・水・醤油を紹介するために」	紹介 ○ うどんを作り味見会をして5, 6年に紹介
4年	○「呑象楼を大切にするために」 ○「まちの自慢をアピールするために」	○ 呑象楼の清掃・詩吟・クイズ作り・募金 ○ 「榎井の自慢写真展」を開いて、他校と交流 ○ 榎井の自慢コースを作成し、観光案内
● 地域のために発信したり、自分たちができることを実践したりする。 (こんぴら歌舞伎のPR, 琴平町のバリアマップ, クリーン作戦など)		
5年	○「こんぴら歌舞伎に参加するために」	○ 「金陵の郷」の掃除
6年	○「住みよいまちにするために」 ○「1年が安全に集団登下校できるために」	○ 子ども議会で提案 ○ 安全マップを作成し危険箇所を紹介

イ 体験活動に至るまでに愛着・共感を高め、「～のために」「～しよう」と意識が持てるように組む。

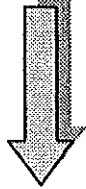
ウ 子どもの興味・関心を大切にし、伝え合ったり、発表したりする場を設定し、その方法や技能を身につけさせて主体的に子どもが参加できるようにする。

- ① 子どもの疑問、調べたいことをもとに学習計画を立てる (KJ法など)
- ② 授業後のふり返りで新たな疑問、調べたいことなどから学習問題を作る
- ③ 調べたり、検証したりする方法を身につけさせる
 - 資料・本・インターネットでの調べ方
 - アンケート・インタビュー・聞き取り調査などの仕方 (教師・家族・近所の人・地域の人・専門の人・観光客など)
 - 実演・実験など
- ④ 活動の計画 (企画) を子どもに任せる
- ⑤ 参画するための技能を身につけさせる
 - 計画 (企画) する方法
 - ・ 目的を明確にする (誰を対象にするのか, 「～のために」するのか)
 - ・ 目的が分かる命名をする
 - ・ 内容を考え, 修正する
(知っているもの, 本・インターネットで調べる・してみる・専門家に聞いてなど)
 - 知らせたり, 提案したりする方法
 - ・ プレゼンテーション, ポスターセッションなど
 - ・ 学級新聞, 報告書, パンフレットなど

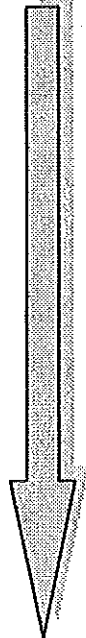
＜「～のために～しよう」という気持ちをもたせる単元の大きな流れ＞

愛着・共感

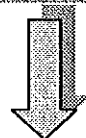
体験を通して
課題をつかむ



調べる
検証する
表現する



調べる・検証する・表現する体験
をふまえて
「～のために」自分たちが
できることを自主的・主体的に
考えて実行する



参加・提案

教材に出会う、地域探検をするなどの
体験をして気づいたこと、不思議に
思ったことなどから課題をつかむ。

★ KJ 法などを使って意見をまと
め、学習計画が立てられるように
する。

★ 調べたり、検証したり、表現し
たりする方法を身につけさせる。

- ・ インターネット、本、資料な
どを使って
- ・ アンケート、インタビュー、
聞き取り調査（教師・家族・近
所の人・地域の人・専門の人・
観光客など）
- ・ 表現物（新聞・パンフレット・ポ
スターなど）

◎ 「なぜ、おいしいのか」「なぜ、
古いものが今そこにあるのか」な
ど背景にある地域の人々の思
い・願いにせまる。

◎ 自分は「～のために」何ができ
るか考えさせる。

★ 「～のために～しよう」という
意見を自分たちで整理・決定し
たり、どのようにするかなどを話し
合ったりする方法を身につけさせ
る。

＜伝え合う場＞

友だちとの交流

- ・ 話し合う
- ・ ワークショップなど

地域の人との交流

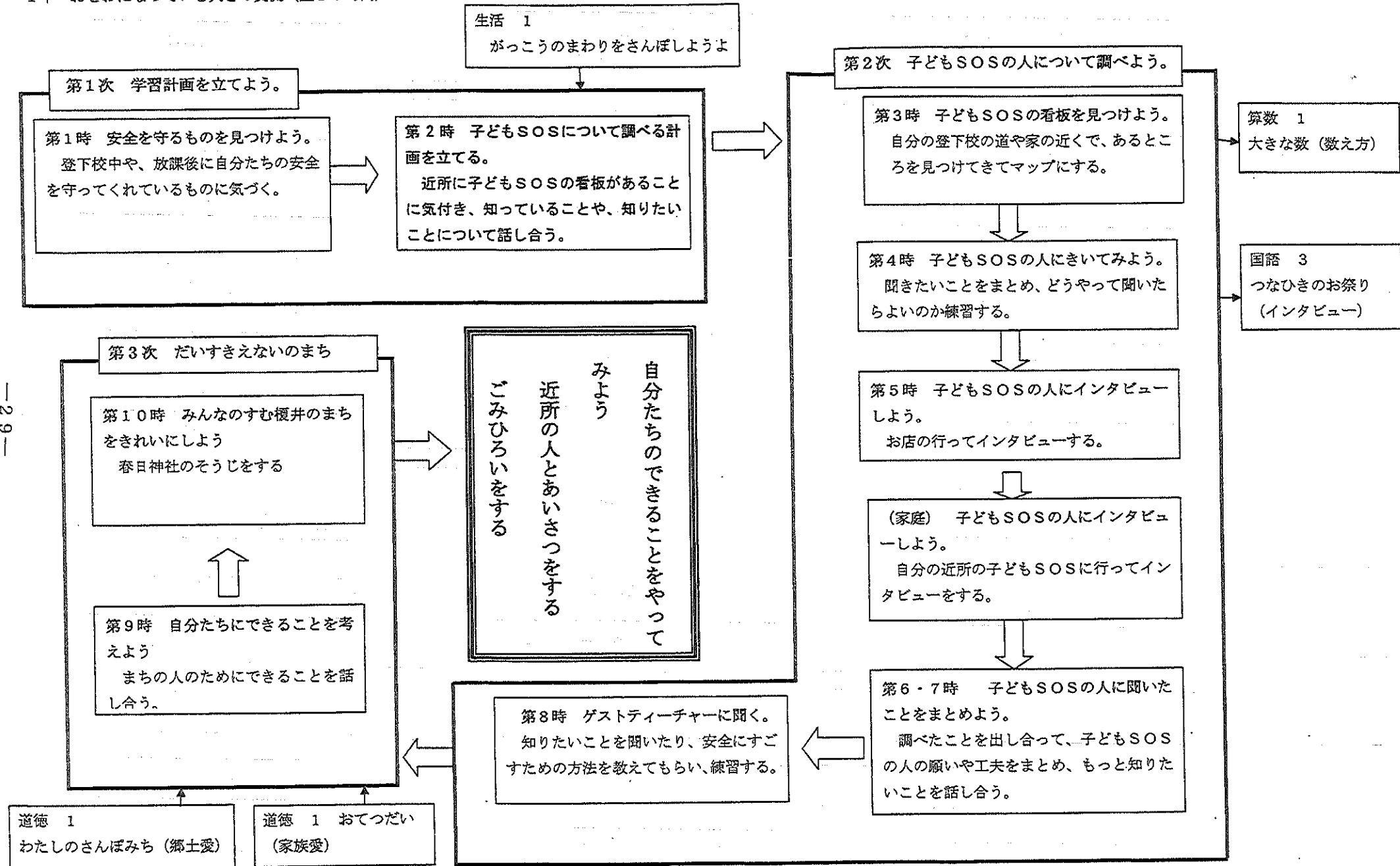
- ・ インタビュー
- ・ 話を聞く
- ・ 教わるなど

＜目的をもった
発表の場＞

友だちに
他の学年の人に
他の学校の人に
地域の人に

- ・ HP、ポスターセッション、
プレゼンテーション、
試食会など
- ・ 新聞、パンフレット、
ポスターなど

1年 お世話になっている人との交流 (全10時間)



2年 おすすめのさんぽコースを見つけよう！(全10時間)

生活2年 町をたんけんしよう

国語1年 いろいろなふね(説明文)

第1次 学習計画を立てよう。

第1時 榎井の町をよく知るために、探検の計画を立てよう。

自分の家の位置を確かめたり、これから探検したいコースを決めたりする。

第3次 散歩コースを見つけよう。

第10時 家の近くの散歩コースを友だちに紹介しよう。

おうちの人と一緒に見つけた散歩コースを学級で発表する。

第9時 家の近くの散歩コースを見つける計画を立てよう。

家の近くでどこを散歩するか計画を立てる。

第8時 1年生に散歩コースを紹介しよう。

おすすめの散歩コースと一緒に歩きながら紹介する。

第2次 探検して、散歩コースをつくろう。

第2時 榎井の町を探検しよう。
(コース1)

コース1をみんなで探検し、心の残ったことをワークシートに書いておく。

第3時 コース1の中から、おすすめの散歩コースを見つけよう。

散歩コースを考え、写真や絵を使って友だちに説明できるようにまとめる。

第4時 榎井の町を探検しよう。
(コース2)

コース2をみんなで探検し、心の残ったことをワークシートに書いておく。

第5時 コース2の中から、おすすめの散歩コースを見つける。(本時)

散歩コースを考え、写真や絵を使って友だちに説明できるようにまとめる。

第6時 榎井の町を探検しよう。
(コース3)

コース3をみんなで探検し、心の残ったことをワークシートに書いておく。

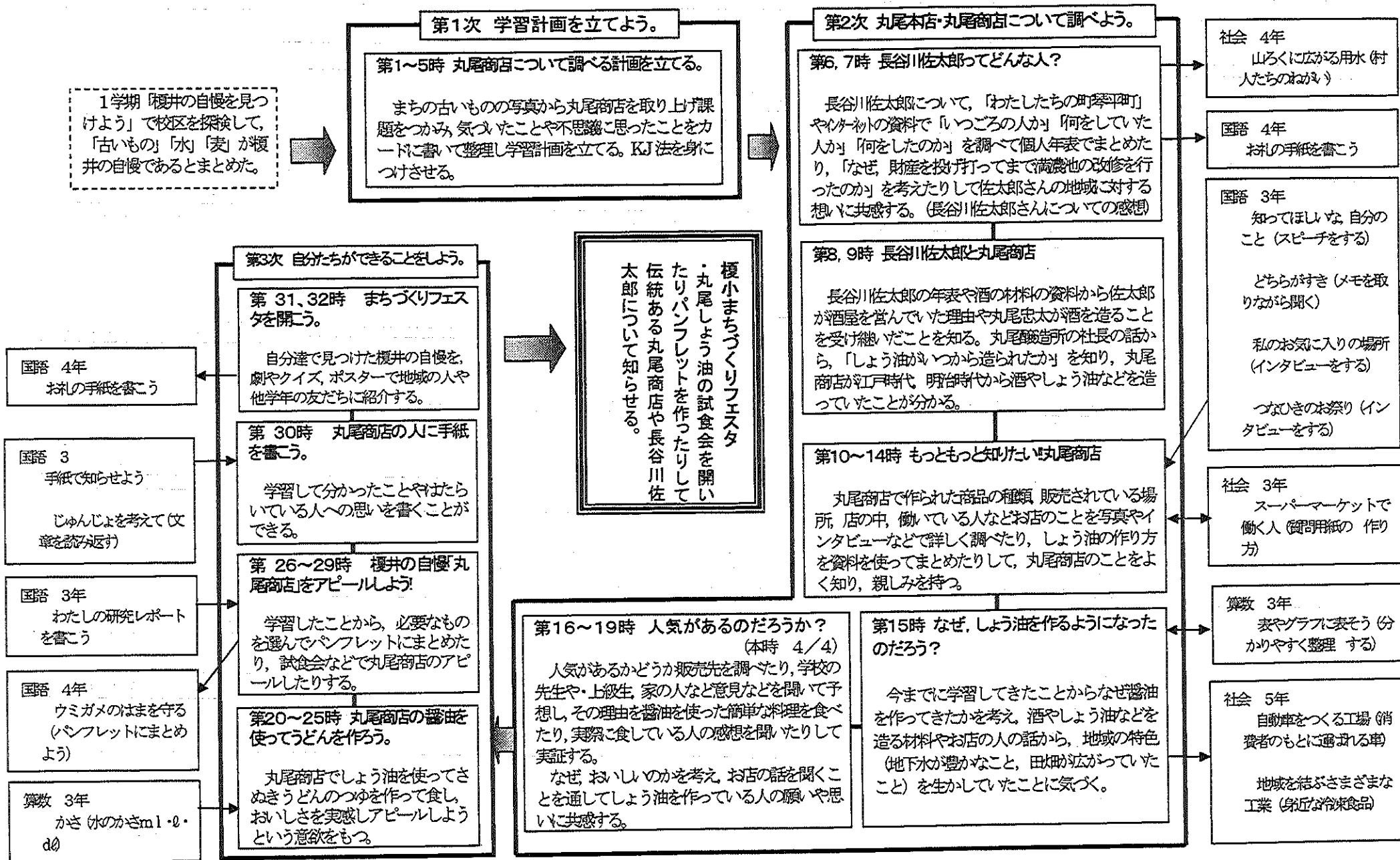
第7時 コース3の中から、おすすめの散歩コースを見つける。

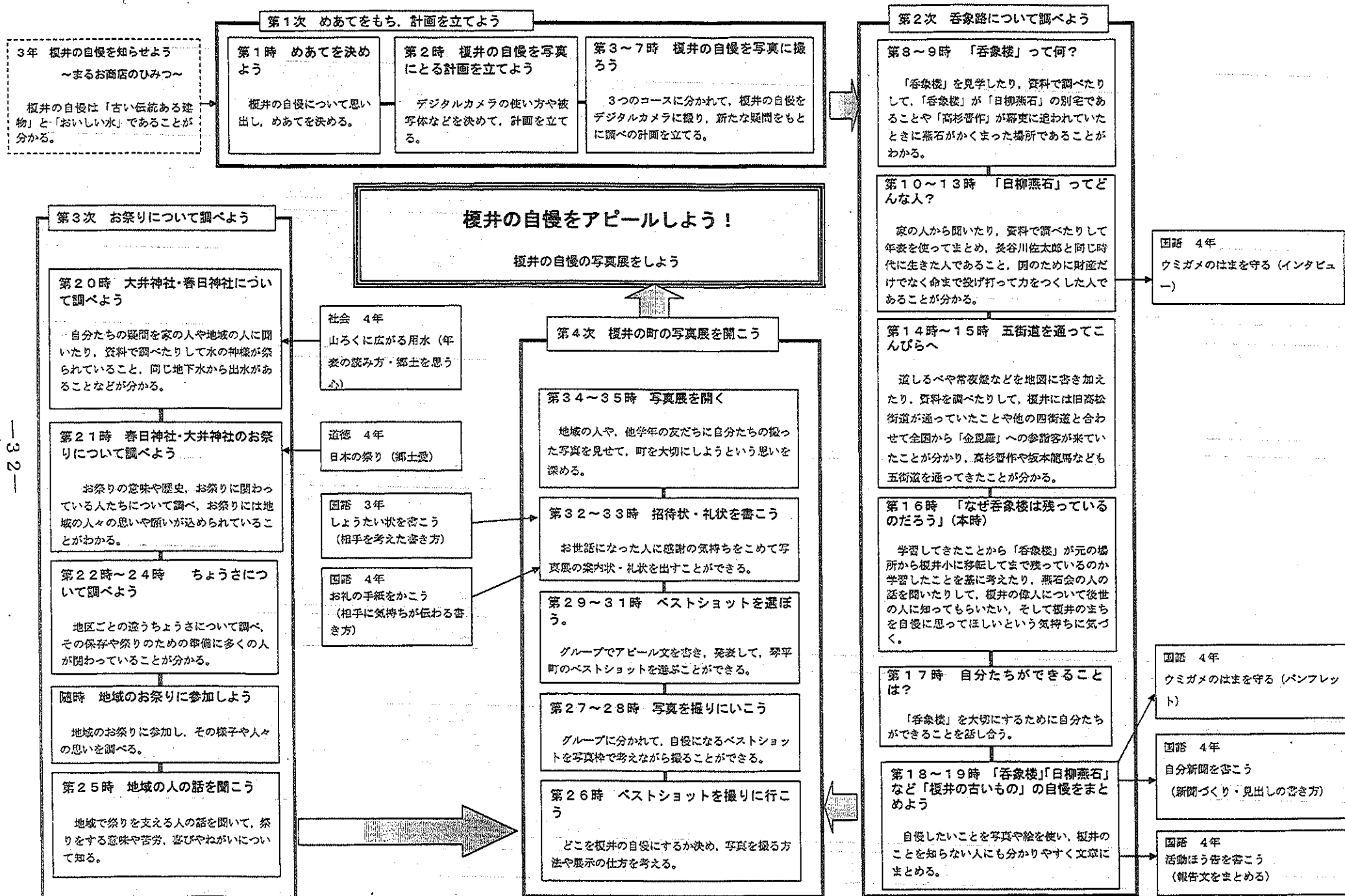
散歩コースを考え、写真や絵を使って友だちに説明できるようにまとめる。

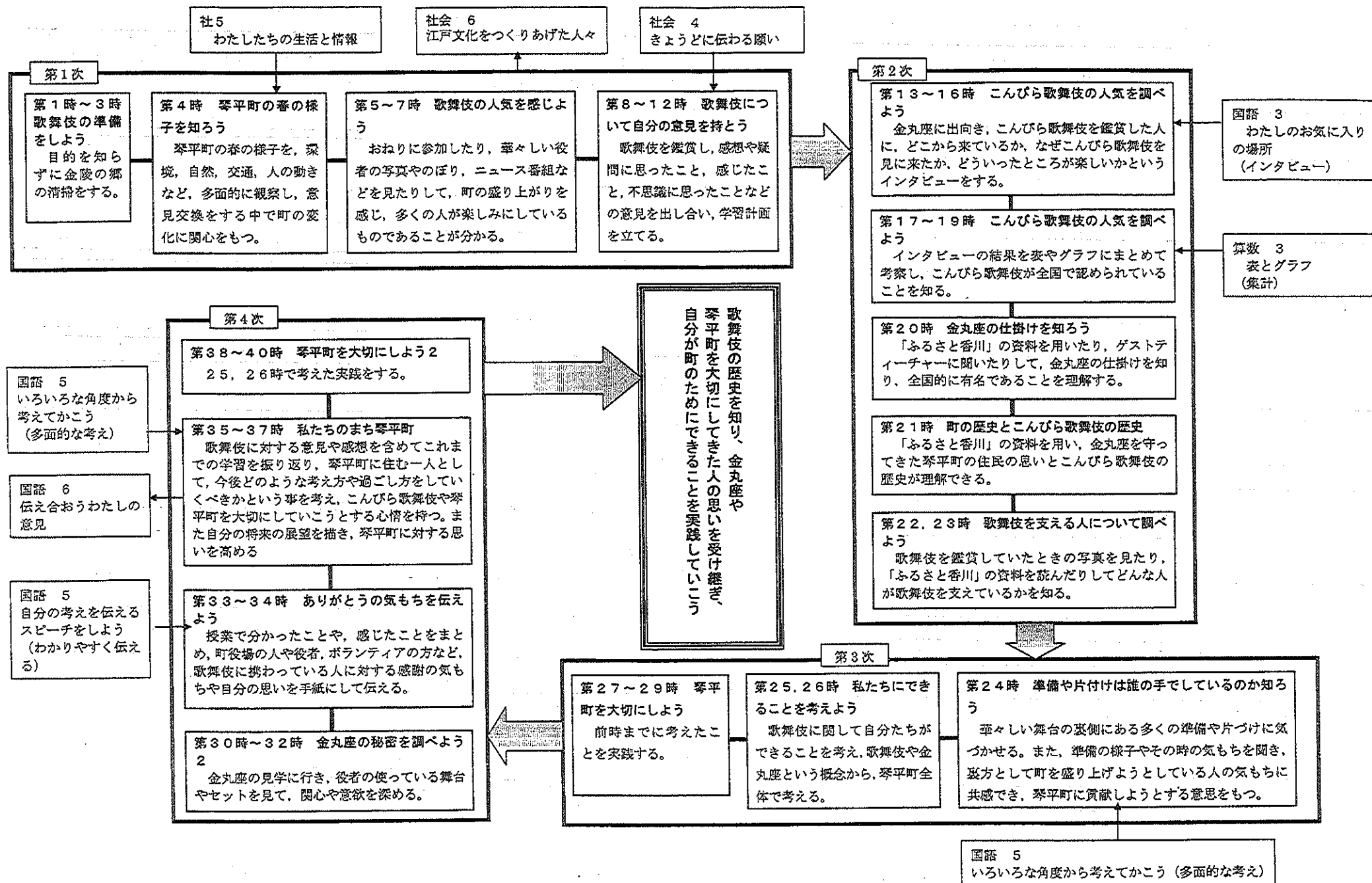
おすすめの散歩コースを見つけよう。
・見つけた散歩コースを家族や町の人、1年生に紹介しよう。

社会3年
わたしたちのまち
みんなのまち

社会4年
のこしたいもの
つたえたいもの







国語 6
依頼の手紙を書こう
（書き方）

第1次 テーマをもとに学習計画を立てる

第1～2時 テーマを決めよう

どんなまちにしたいか学級の意見を KJ
法でまとめ、話し合いで決める。

第3時 「人にやさしい」とは

人にやさしいとはどういうことか
考え、調べる計画を立てる

第2次 バリアフリーを見つけよう

第4～7時 桜井のまちを調べよう

まちのバリアフリーを見つけ写真
にとり、地図にまとめる。

第8時桜井のバリアフリーについてまとめよう

バリアフリーは、人がよく利用するところや人
が多い場所に設置してされていることに気づく。

第5次 自分たちができることをしよう

第41～42時 小さい子にもいい町にするために自分た
ちができることをしよう

～と交流しよう。
危ないところを知らせよう

第39～40時 高齢者にとって住みやすい町にするため
にできることをしよう。

高齢者にとって住みよい町にするために自分たちがで
きることを考える。

社会 6
わたしたちのくらしと日本国憲法（基
本的人権の尊重）

みんなが住みやすい町
「ええなあ～いい町琴平町」
にするために
・子ども議会に提案しよう
・お年寄りとなかよくなるよう
・危ないところを知らせよう

第4次 まちの高齢者となかよくなろう

第35～38時 高齢者として楽しく交流しよう②

高齢者と楽しく交流し、お年寄りの理解を深める。

第33～35時 高齢者として楽しく交流しよう②

本時（1/3）

お年寄りとふれあう会の計画を立て、ゲームの内容を考え
て、実際にしてみたり、アドバイスをもらったりして高
齢者との交流の仕方を工夫する。

第31～32時 高齢者と交流しよう①

高齢者とふれあうために「頭のげんき塾」や「体のに参
加し、ゲームをしたり、インタビューをしたりして自分
ができることやしたいことを具体的に考える。

国語 3年
招待状を書こう
国語 4年
お礼の手紙を書こ
う

第20～23時 役場や社会福祉協議会が主にお
年寄りにしていることを調べよう

資料で調べたり、インタビューをしたりして
まちがお年寄りのために何をしているのかを
調べ、自分たちができることを考える。

第3次 琴平のまちは、障害のある人やお年よりにやさし

第9時 障害って？お年寄りって？

ヘレンケラーや乙武洋匡の本を読んだり、お年寄
りにインタビューをしたりして生活上の不便さを知る。

第10～13時 車いす体験をしよう

車椅子でいつも歩く道を通ったり、公民館や店に行
ったりして、琴平町の道路、建物などハード面で危険
だったり、不便だったりすることやソフト面でまちの
人がやさしいことに気づく。

第14～17時 高齢者疑似体験をしよう

高齢者疑似体験をして、高齢者になったときの体と
心の状態を体験し、高齢者への理解を深める。

第18～19時 子ども議会に提案することを考えよう

車いす体験や高齢者疑似体験など1学期に学習した
ことから「いいまち琴平」づくりに提案することを考
えよう

（夏季休業）

- ・ バリアフリーについて調べる。
- ・ 琴平のまちのバリアフリーをもっと調べる。
- ・ お年寄りにインタビューする。

国語 6年
伝え合おう わた
しの意見（分りや
すく話す）

国語 6年
気持ちのよい話し
方をしよう（言葉遣
い）

社会 6年
長く続いた戦争と
人々のくらし

社会 6年
わたしたちの願いを
実現する政治

社会 6年
市議会をたずねる

第1学年 まちづくり科学習指導案

学習指導者 川村 泰子
小林 篤正

1 単元

お世話になっている人と交流しよう～子どもかけこみ 110 番ってなあに？～

(領域：人と人とのふれあい)

2 単元について

- (1) まちづくり科でとらえる 1 年生の発達段階の課題は「基礎確立期」である。その目標は「地域と家族や自分について知り、友だちとともに地域や家族について調べ、郷土の福祉や観光についての基礎的な知識を身に付けるとともにまちづくりの基礎となる身近な体験をする」ことである。

その中で 1 年生の「人と人とのふれあい」領域では、家族や地域の一員として自分たちのできることをするようめざしている。そこで生活科等と関連付けながら 1 学期には「学校の大好きなところを見つけよう」2 学期には「こんびら舟々を踊ろう」という単元を通して身近な家族や、学校の人へと児童の体験からの気づきをもとに学習を進めてきた。本単元では、さらに地域の人への関心を広げる学習である。

榎井地区には、「子どもかけこみ 110 番」に登録している家が 64 軒ある。また児童の登下校を見守ってくださっている交通指導員さんや地域の方々が多い。本単元ではそういった方々と実際に話したり、ふれ合ったりして交流をもつ。その活動を通して榎井のまちのよさや温かい人間関係にふれることができ、まちに対する愛着をもち、これからまちづくりに参画していく意識の芽生えとなる学習であると考ええる。

(2) 事前のアンケート

(11 月 15 日調査 男子 12 名、女子 13 名 計 25 名)

1 自分のことが好きですか。

好き 14 名 まあまあ好き 7 名 どちらかといえば好きではない 0 名 すきではない 4 名

2 榎井のまちが好きですか。

好き 21 名 まあまあ好き 4 名 どちらかといえば好きではない 0 名 すきではない 0 名

3 自分がお世話になっている人がいますか。

いる 17 名 いない 8 名

・ いると答えた者 (複数回答)

○家族 18 名 ご飯を作ってくれる 看病をしてくれる 勉強・宿題をみてる など

○学校の人 7 名 勉強を教える 一緒に遊んでくれる (友だち、5 年生)

給食の片付け (6 年生) など

○近所の人 3 名 ものをくれる 遊んだり、家に入れてくれたりしてくれる

○その他の人 3 名 ピアノ、そろばんの先生 猫をみせてくれる

児童は、大体において榎井の町には好意をもっており、家族や地域の中で大切にされていると感じているようである。ただ、具体的にだれに、どのように大切にされているかと問うと、今の段階では家族や学校の人という狭い範囲しか認識ができていない。地域 (近所) の人に気付いている児童は 3 名であり、自分たちを見守ってくれているという意識はもっていない。

そのため、登下校中のあいさつも、上級生を見習って、教師に教えられたとおりに行っているにすぎないと考えられる。

(3) 単元を通して以下のようなことに気を付けて指導し、資質や能力を育成する。

① まちやまちづくりに対する興味・関心をもたせるために

「まち」に関心を持たせるために、簡単な地図の見方を教えて、校区の地図に自分の家や通学路のしるしを入れたり、知っているところを見つけたりさせる。さらに、見つけた子どもかけこみ 110 番の看板がある場所を一緒に書きくわえていくことで、「どんな人がいるのだろうか。」「何か所くらいあるのだろうか。」「どうやって守ってくれるのだろうか。」等の疑問を持てるようにする。

活動の後には、感想とともにさらに知りたいことを書きとめさせたり、話させたりすることで自分なりの課題をもって次の活動に進めるようにする。

単元を通してどのように学習を進めていくのかを「計画表」として提示しておき、学習の見通しが持てるようにする。

② コミュニケーション能力を育成するために

インタビューをする際には、児童からでた知りたいことを教師が整理しておき、児童が自分の知りたいことをはっきりと認識できるようにする。

インタビューのしかたについては、あいさつやお礼など手順を知らせて、教室で友だちや教師を相手に練習をして慣れておくようにする。そして、学校の近くのお店に全員でいき、インタビューの体験をする。

子どもかけこみ 110 番の人との交流は、1 回だけではなく複数回経験させたい。そのために保護者に協力を依頼して、自分の家の近所や通学路にあるかけこみ 110 番のところへインタビューに行かせる。聞いてきたことを発表し合うことでちがうところ、同じところをまとめていくことができるようにする。

③ 実践化に向かうようにするために

子どもかけこみ 110 番の人にインタビューして分かったことをまとめ、さらに自分たちの安全を守ってくれている人の話を聞いて、身を守る方法を教えてもらい擬似体験をする。その活動を通して毎日のあいさつの大切さに気付かせる。そのような気付きをもとに自分たちが守ってくれている人のためにできそうなことを 1 年生なりに考えさせ、実行させる。

3 単元の目標

(1) 子どもかけこみ 110 番の人に関わって、自分たちが知りたいことを調べようとする。

(関心・意欲・態度)

(2) 自分たちの知りたいことをインタビューし、分かったことや思ったことをまとめる。

(思考・判断・表現)

(3) 子どもかけこみ 110 番の人たちがしていることを知り、自分たちを守ってくれていることが分かる。

(技能)

(4) 自分たちは、まわりの人に世話になっていることが分かり、感謝の手紙をかくことができる。

(知識・理解)

4 単元計画 (10 時間)

第1次 学習計画を立てよう。 (2 時間)

- 自分たちの安全を守るものを写真をみて話し合う。(1 時間)
- かけこみ 110 番について知りたいことについて話し合い、調べる計画を立てる。(1 時間)

第2次 子どもかけこみ 110 番の人について調べよう。 (6 時間)

- 子どもかけこみ 110 番の看板を見つけ、地図に表わす。(1 時間)
- 子どもかけこみ 110 番の人に聞きたいことをまとめ、練習する。(1 時間)
- 学校の近くのお店に行ってインタビューをする。(1 時間)
- 自分の家の近所にある子どもかけこみ 110 番の人にインタビューをする。(家庭)
- 聞いたことをまとめ、さらに知りたいことを考える。(2 時間)
- ゲストティチャーに、知りたいことを聞いたり、身を守る方法について教えてもらい、擬似体験をする。(1 時間) 本時

第3次 だいすき えないのまち (2 時間)

- 自分たちにできることを考える。(1 時間)
- 子どもかけこみ 110 番の人にお礼の手紙を書く。(1 時間)

※ 他教科とのつながり

- 1 年国語 はきはきあいさつ (気持ちのよいあいさつ)
- 1 年国語 はなしたいなききたいな (話すこと 聞くこと 簡単な話型)
- 1 年国語 きいてきいて よんでよんで (話したいことを文型にそって書いて、話す)
- 1 年国語 みんなにしらせよう (感想を書いて知らせる)
- 1 年国語 のりもののことをしらべよう (調べる物を選んで調べる)
- 1 年算数 大きいかず (100 までの数)
- 1 年生活 がっこうのまわりをさんぽしようよ (町探検)
- 1 年生活 だいすき (家族の仕事)
- 3 年国語 いろいろなお祭りについてしらべよう (インタビューのしかた)
- 4 年国語 お礼の手紙をかこう (お礼の手紙を書く)

5 本時の学習計画

(1) 目標

- 自分の聞きたいことをきちんと尋ねたり、相手の話を目をみてしっかりと聞いたりして、まちの人の思いを知ることができる。
- 身を守る方法について知り、やってみることで日頃からまちの人とあいさつを交わすことの大切さに気付くことができる。

(2) 学習指導計画

学習活動	予想される児童の反応	支援・評価T1 支援・評価T2
1 学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。	- こまったときにたすけてくれるよ。 - えないの子どものためにある。 - ふだんからみまもってくれている。 - えないに64かしょある - みんながげんきに大きくなってほしいとおもってしてくれている。	T1 ゲストティーチャーの紹介をして名前を掲示する。 発) 子どもかけこみ110番ってなんだろう。 T2 発表に合わせてわかったことを掲示する。 T1 主に、子ども110番の人の気持ちや願いに着目し、人との関わりに気付くようにする。
2 ゲストティーチャーに、質問をする。	知らない人にさそわれたとき 近くに110番がないとき けがをしたとき こわいめにあったらどうしたらいいかかんがえよう。 子ども110番に行くといいよ。 あせて入っていったらいいかといってくれたよ。 大きな声で助けを呼ぶんだよ。 名前もいうのかな。	発) どんどこころかわかったね。「こまったとき」とはどんなときですか。一番心配なことは? 助) こわいめに遭いそうになったらどうするの? - 教えてもらったことを板書する。 - 児童とゲストティーチャーとの交流の際には、名前が呼び合えるよう、名札を用意する。
3 身を守る対処法を教えてもらって、やってみる。	①助けてという。②落ち着いたら、名前・学校・住んでいるところ・住所をいう③相手の特徴をいう 落ち着いたら、自分の名前や、特徴などをいえばいいんだな。うまくできるかな。	T 先に教師が子ども役でゲストティーチャーとのやりとりを見せる。 - グループに分かれて一人ずつが体験できるようにする。 - 命を守る練習だから真剣に取り組むように約束をする。
4 感想を話し合う。 ・ゲストティーチャーから思いを聞く。	やってみて、どうしたらよいかよくわかったよ。 やさしくきいてくれたので、安心したよ。 でも、急にこんなことがおこったら、できるかな	T1 各グループの様子をみて、児童に助言する。 T2 各グループの様子をみて、児童に助言する。 助) いざというときに本当にできるのかな。 ゲストティーチャーには、いつも見守ってけていることや、普段からあいさつをして顔をあわせておくことを話してもらう。
5 今日の学習をふりかえって、これからどうするかをワークシートに書く。	そうか。普段からあいさつをすることは大切なんだな。 子ども110番の人だけでなく、ぼくたちのことを守ってくれている人がいるんだな。 これからは、困ったときには大きな声で助けを呼ぼう。ふだんから、まちの人にあいさつをしておぼえてもらおう。 自分たちのことを考えてくれる人がいる榎井のまちはいいな。	助) 困った時だけでなく、ふだんからしておくことがあるんだね。 評) まちの人々の気持ちが分かり、これから自分がどうすればよいか書くことができたか。(ワークシート、つぶやき) A まちの人が大切に思ってくれていることからあいさつなど自分のことをしようと書くことができる。 B まちにはやさしい人がいて見守ってくれていることを書くことができる。

⑥ こわいめにあったらどうしたらいいかかんがえよう。

子ども 110 ばんって？

- こまったときにいったらたすけてくれる。
- えない（ことひら）の子どものためにある。
- ふだん（ふつうのとき）からみまもってくれている。
- えないに 64 かしょある。
- えないのみんながげんきに大きくなってほしいとおもってしてくれている。

・子ども 110 ばんにいく
・大きなこえでさけぶ
・「たすけて」という
・名まえをいう

たすけて！

お店にかけこんで話している絵

（とくちょうをいう）
おとこの人だったよ
車のいろは〇〇だったよ

（おちついたら）
名まえは〇〇です
えない小学校 1 ねんです
△△にすんでいます

店

警察

学校

家

かんそう

・よくできた
・むずかしかった
・大きいこえがでなかった
・やさしくきいてくれてあんしんした

こんどから

ふだんから

- ・あいさつをする。
- ・どこに 110 ばんのいえがあるのかしらべておく。

おもったこと

えないのまちの人は、やさしいな

さとうさん

かねこさん

たなかさん

大にしさん

てらおかさん

- じょうずに入ってこれなくてもいいよ。
こまったときはいつでもきてね。
- いつも、みんなのことを見まもっているよ。
- ～～にいるから、かおをおぼえておいてね。
- これからあったらあいさつをしてね。
- えない小学校の子どもたちがげんきにあんぜんにすごせるようにねがっているよ。

☆ お願いしているゲストティーチャー

佐藤さん（町生涯教育課長・育成センター所長）

田中さん（子どもかけこみ 110 番）

大西さん（少年補導員）

寺岡さん（交通指導員）

金子さん（育成センター）

時刻	教師の支援 (発問・助言など)	子どもの反応
1:55	はじめます。 最初にみんなの勉強のため来てくれた人を 紹介します。 今日はこの5人の先生と勉強します。	はい。
2:00	(挨拶) みんなは今までは子どもかけこみ110番 の勉強をしましたね。子どもかけこみ11 0番で何だったかな。 調べて分かったことあったな。すごいこと は。 そこにいる人はどんなことを思っているの かな。 挨拶してくれている人は何人かいますね。	榎井の子どもたちを助けるため。 悪い人がいたら入るところ。 110番は64件もあることです。 みんなが元気に大きくなってほしい 普段から挨拶してくれる。
2:05	困っていることはどんな時ですか？一番心 配なことは？	悪い人に誘われた時です。 知らない人につけられた時です。 悪い人に追いかけられた時です。
2:07	め：こわいめにあったらどうしたらいいか かんがえよう。(ワークシート配布) みんなでめあてを読みましょう。	近くに110番が無かった時。
2:10	知らない人がついてきたらみなさんどうし ますか。 行ってどうしますか。(絵を見ながら) 何を 言ったらいいのだろうか。 何ていうん。せ～の。 次何言いますか。 落ち着いたら訳をいいますね。それからこ の後はどうしたらいいか分かる人。 分からんな。駆け込んだ後どうすればよい か今日は先生方に教えてもらいましょう。	名前とめあてをワークシートに書 く。 110番の中に入ります。 110番のところや警察に行きま す。 助けてください。 (みんなで) 助けて～。 変な人がいるんですけど助けてくだ さい。 …。
2:16	(大西さん) 「変な人に追いかけられたんです」といっ てそのあと「君誰？」となるからどうする まず名前次に榎井小学校の1年生ですと言 いますね。次に榎井は広いからみんなの何 を知りたいんだろう。 ていうのを聞かれたら？	榎井小学校の〇〇です。 何歳？ 家はどこにあるんですか。 住んでいるところは琴平町です。

時刻	教師の支援（発問・助言など）	子どもの反応
2:23	一番いいのは琴平町榎井〇〇番地ですと言うのがいいですね。 じゃあ次は？電話番号と？ じゃあこのことをすべて答えられるようにしておいて下さい。 まずみんなは逃げてとにかく110番まで行くように頑張って下さい。 最初に川村先生とローソンの田中さんとやってもらいます。（演技） というふうにします。この時に車や服も覚えとったら言って下さい。でも逃げるのが一番です。 そしてローソンのお店から警察、学校、家へ連絡してくれます。 ではグループに分かれて110番の先生方に伝える練習をしましょう。 （川村先生と小林先生の演技）	香川県です。 電話番号です。 うちの人の名前を言います。
2:29	みんな、はい逃げて。 感想を聞きます。どうでしたか？ 恐かったけど、ちゃんと言って安心したんですね。ちゃんとできた人？ もうちょっと覚えておくといいいことはありましたか？	各グループに分かれて練習をする。 名前、学校名を伝えられる。 電話番号は知らない人が多い。 不審者の服や帽子、車の色を伝えるやさしく聞いてもらいました。 安心しました。 ドキドキしました。恐かったです。
2:40	家の電話番号を言うか学校の先生に連絡して下さい。（佐藤さん） 今日勉強したことを忘れないで下さい。（大西さん） どこでもいいので110番の安全なところへ駆け込んで下さい。（寺岡さん） 青色のパトカーにいつも乗っていますので挨拶してくれるとうれしいです。（金子さん） 自分の名前や小学校をはっきりと言えるようにしてほしいです。（田中さん）	家の電話番号です。 番地です。 お父さんの名前です。
2:44	みなさん分かりましたか？じゃあこれからどうすればよいかを書いて下さい。	（ワークシート記入）

時刻	教師の支援（発問・助言）	子どもの反応
2:50	じゃあえんぴつを置いて下さい。 これからはどうしたらいいですか？ 大きな声で急に言いなさいと言われても難しいと思います。そのために普段から？ みんなが言ってくれたことは何かが起こった時に知っといたらいい？ 急には言えないので普段から準備しておいた方がいいですね。それから？ そうですね。普段から挨拶しておいた方がいいですね。みんなできる？ みんなのことを普段からやさしく見守ってくれています。だからみなさんも普段から挨拶や電話番号など連絡先を言えるように準備しておくといいですね。 これで終わります。	大きな声ではっきりと言う。 起こる前です。 こういうことを紙に書いておく。 挨拶をしたいです。 やさしく言ってくれて安心しました。 はい。

単元名	お世話になっている人と交流しよう～子どもかけこみ110番ってなあに？～		
授業者	川村康子	記録者	篠原多恵子
記 録			
<授業者より> ○ GTには子どもが安心するような声掛けをお願いしていた。手を握ったりやさしく聞いてくれたりしてくれた。(川村) ○ 予想通りの反応が出てこなかったり、あがったりして子どもの言葉をうまくつなげなかった。(川村) ○ 時間がオーバーしてしまったので、どこをどのようにすればよかったか、その工夫があったと思うが……。 (川村) ○ 不審者の役をしたが、ジャンパーを着ればよかったかなあと考えた。(小林) ○ いっしょにして勉強になった。(小林) <質問> Q 不審者が来て110番の場所に行く方法は？ 一人ずつすることをねらっていたのか。 A 一人ずつすることになっていた。 <討議> 【導入】 ○ 前時までのことを忘れていたので、助言しながら思い出させるのはよかった。但し、時間は短縮できたのではないか。 ○ 子どもに必要感ややりたい気持ちを起こさせるための方法として、早い段階で不審者に登場してもらって、担任が対応できないところを見せて、こんな時どうすればよいかを考えたりGTに尋ねたりすることもできる。 【GTとの関わり】 Q 1年の目標の身近な人々ということから考えてGTを身近な人ととらえられたか。 A 田中さんはよく知っているので、身近な人と思っているだろうが、他の人はそうではないだろう。 Q 身近な人ととらえられるためにはどうすればよいか。 A 来て下さることを楽しみにしたり、名前を尋ねようとしていたりしていた。今日お会いしたので少しは覚えているだろう。 今日をきっかけにこれからつなげていきたい。 ○ 5人は多いかと思ったが、よかった。田中さんが「逃げるのが大切。」と言って下さったこともよかった ○ 教師の迫真の演技がよかった。GTが5人いたこともよかった。ただ子どもたちが一斉にGTのところの行って並んでいる状態だったので、一人一人が臨場感をもって行うにはどうすればよかったかと思った。 ○ ワークシートが1年生にとって高度だった。○×で記入して振り返らせたり、家に持って帰らせ「今日こんな勉強をしたよ。」と言わせたりすることで、子どもができなかったことをこれからこうしようと考えたり家庭との連携を図ったりできる。 ○ GTが5人いたことで子どもたちの待つ時間があまりなかった。また、友だちのやっていることを見ることができ、参考になっていた。GTが紙を見ながら適切にアドバイスしたり			

やさしく話しかけたりしていた。

- GTをどなたの願いするか、どんなことを話してもらうか、どんな場面で登場していただくかなど事前の準備が大変だが、効果的だった。感想で、子どもから「〇〇のことを覚えていたらよかった。」とか「〇〇のことを聞いておこう。」などの声が聞かれたので、問題意識をもって活動できていたと思う。
- 110番の看板の位置をもう少し明確にしておけばよかった。GTは事前に打ちあわせをしていたことを言ってくれていたが、緊張しているのはGTにサポートする必要があった。
- 制服を来て下さっていたり、「青いパトロールカーで見守っているよ。」と言って下さったりしていたので、立場をはっきり紹介してあげればよかった。
- 1年生なりの学習規律が整っていた。身を守ることを通して通してあいさつまでつなげるのは少し難しいのでは……。また、町の人への思いを書くのも難しいと思う。
- 目標が高度だった。評価のAはかなり難しいのでBでいいと思う。
- 時間短縮するためのは、導入をもっと要領よくしたり、婦警さんとのやりとりをなくして説明だけにしてもらったりするとよかったのでは……。
- GTが言ってくれたことを板書していたので大切なことを確認することに使ったらよかったのでは……。
- GTの言葉の中の「あいさつをしてくれたらいいなあ。」を取り上げたらよかった。
- 教師が緊張している子どもたちにやさしく声かけをしていた。子どもたちとGTがうまくつながっていた。また、平田さんの「あいさつ」のことを取り上げたのがよかった。

<校長先生の指導>

- 導入では子どもたちに必要感を感じさせることが大切である。
- 「先生を助けなくちゃ。」という考えになってしまったのでは。
- 立場の違う5人がGTだったので、それぞれの立場で場面を設定してやらせる方法もある。
- 体験をさせるときは始める前にやり方を一人一人がきちんと把握してからするようにさせる必要がある。
- 笛とか防犯ベルの話をしてよかったのかな。
- ワークシートが難しかった。「おかあさんあのね」とか、チェック式にするなど具体的にすればよかった。
- 毎日していることを思い出させる手段が必要。

第2学年 まちづくり科学習指導案

学習指導者 T1 守谷 久美子
T2 小林 篤正

1 単元名 「おすすめのさんぽコースを見つけよう！」(領域: 伝統と文化・人と人のふれあい)

2 単元について

- (1) まちづくり科の基礎確立期(小1～4)の目標は、「地域と家族や自分について知り、友だちとともに地域や家族について調べ、郷土の福祉や観光についての基礎的な知識を身に付けるとともに、まちづくりの基礎となる身近な体験をする」である。

1年生では、学校の周りを探検したり、安全を守ってくれる人やお年寄りとの交流を図ったりして、地域と自分のつながりを身近なものとしてとらえられるような学習を展開してきた。2年生では、1年生で学んだことをもとに、榎井のまちや琴平町へと視野を広め、もっと地域に親しみ、地域のことを調べようとしたり、分かったことを知らせようとしたりする意欲を育てることによって、町への愛着心をいっそう高めることができる。

そこで、本単元では、まず、榎井のまちをもっとよく知るために「榎井のもの・自然・人」に目を向け、まちをしっかりと歩く体験をさせる。知ること・調べることから始め、さらに、その中から、「おすすめの散歩コース」を見つけさせていくことによって、自分で選択したり理由を説明したりしながら、まちに積極的に関わっていく場を設定することとした。特に、人とのふれあいが町への親しみを深めるので大事にしたいところである。このように、「榎井の物・自然・人」について、自分なりにまとめて「散歩コース」を見つけ、友だちや地域の人と交流したり、もっと身近な地域の散歩コースを見つけていこうとしたりする活動を通して、子ども達はさらに榎井の町に関心を持ち、もっと関わろうとしていくと考える。

(2) 事前のアンケート

(5月27日調査 男子10名、女子17名、計27名)

○榎井の町は好きですか。

好き22名 どちらかといえば好き4名 どちらかといえば好きでない1名 好きでない0名

○どんなところが好きですか。

町の人1名 お店・商店街・コンビニ10名 神社2名 学校7名 本屋4名
大井神社の広場1名 広くて楽しい1名 住んでいるところ1名

○榎井の町で、よく遊びますか。

よく遊ぶ19人 どちらかといえば遊ぶ5人 どちらかといえば遊ばない1人 遊ばない2人

○どんなところで遊びますか。

旗岡神社4名 大井神社の広場7名 お店2名 春日神社2名
(いこいのさと2名 土器川2名 じんじば1名 家7名)

○榎井の町でよく行くところはどこですか。

スーパー23名 本屋1名 ゲーム屋1名 ない1名 (イオン1名)

○榎井の町は、一言で言うと、どんな町とかんじていますか。

楽しい町10名 お店がいっぱいある町2名 神社の町2名

[以下1名] 友だちいっぱい町 遊べる町 緑の町 元気な町 琴平の中の町

働く人がいっぱい町 小さい町 広い町 本屋がある町

子どもがいっぱい町 みんなと遊べる町 こんびらさんの町 いろいろなものがある町

アンケート調査より、ほとんどの児童が「榎井のまちを好きだ」と感じているが、自分の生活の場が好きだから、まちも好きだという理由が大きいようだ。また、遊びについては、家の中で過ごすことが多く、外ではあまり遊ばないし、子どもの遊ぶ場所も少ないことが分かる。榎井のまちについては、「こんなものがあるな」という捉え方をしており、まちのよさとしてはまだ意識されていない。

(3) 単元を通して以下のようなことに気をつけて指導し、資質や能力を育成する。

① まちやまちづくりに対する興味・関心を高めるために

一人ずつが簡単な地図を持ち、学校や自分の家を拠点にして、どこを学習しているのかはっきりさせることによって、探検をしようという意欲を高める。そして、まちを探検するときには、「榎井のもの・自然・人」の3点からまちの好きなどところを見つけようという目当てをもたせて、まちをしっかりと探検する体験活動を充実する。探検して気付いたことだけでなく、もっと知りたいことをはっきりさせて、家族や地域の人に聞き取りをするなど、積極的な取り組みを工夫する。また、もっと知りたいことを、進んで調べた児童をしっかりと賞賛する。

② 他者とかかわろうとする意欲とコミュニケーション能力を育成するために

まちのよさ・おもしろさとして分かったことを友だちに紹介するために、国語の説明文で学習したように、写真や絵を活用して「おすすめの散歩コース」を説明し、おすすめの理由を「～だから」という言葉を使って話し、友だちとの交流を図る。また、地域の人との交流も意図的に取り入れ、榎井の町への思いなども語ってもらいながら関わっていくようにする。

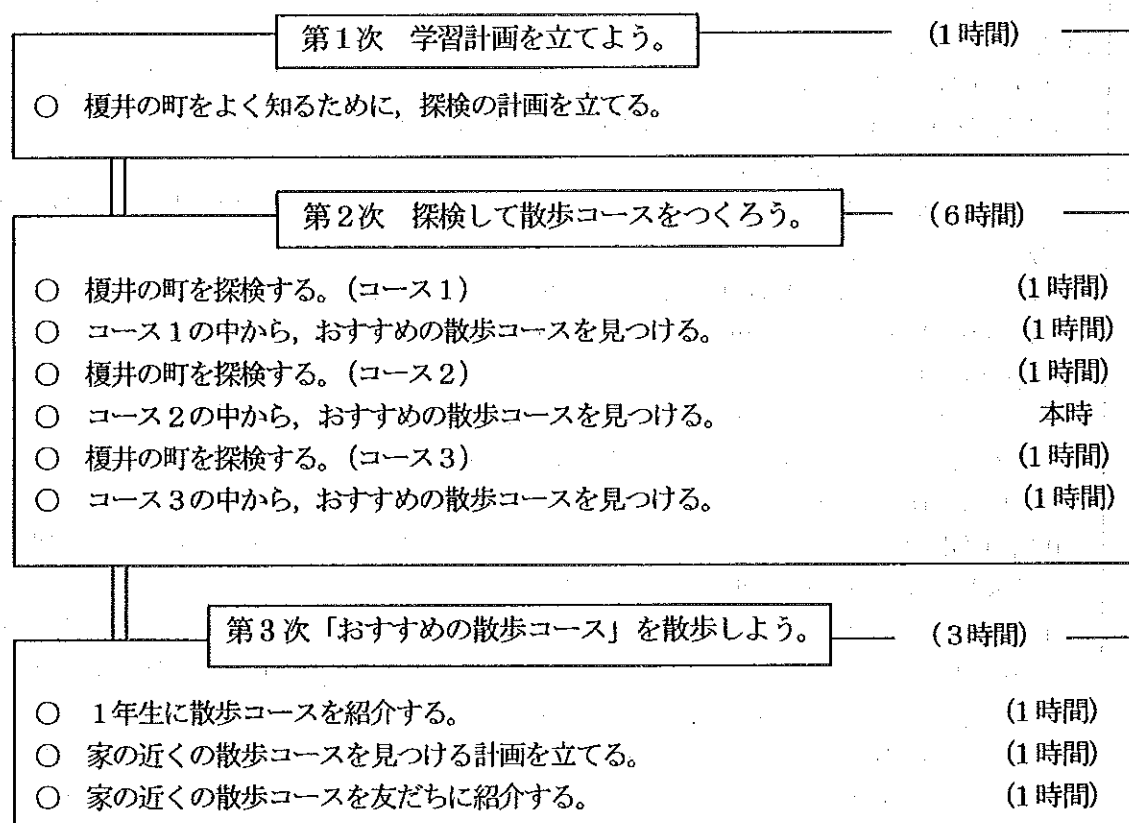
③ 実践化に向かうようにするために

自分たちが作った「おすすめの散歩コース」を、友だちに紹介したあと、1年生と一緒に散歩コースに出かけて説明をする。次に、家族・地域の人などにも紹介し、さらに、授業で学んだことを生かして、家の近くの散歩コースも家族と一緒に見つけて、学校で紹介しあう場を設ける。

3 単元目標

- 町探検で、町の好きなどところを3つの観点から見つけようとする。 (関心・意欲・態度)
- 大好きな町を知らせるために、紹介したいことを選び、選んだ理由を考えることができる。 (思考・判断)
- 写真や絵を活用して、「おすすめの散歩コース」を作り、友だちと紹介しあうことができる。 (技能・表現)
- 町には、今まで知らなかったもの・自然がたくさんあり、自分たちの町を大切に思っている人があることが分かる。 (知識・理解)

4 単元目標 (全10時間 本時 5/10)



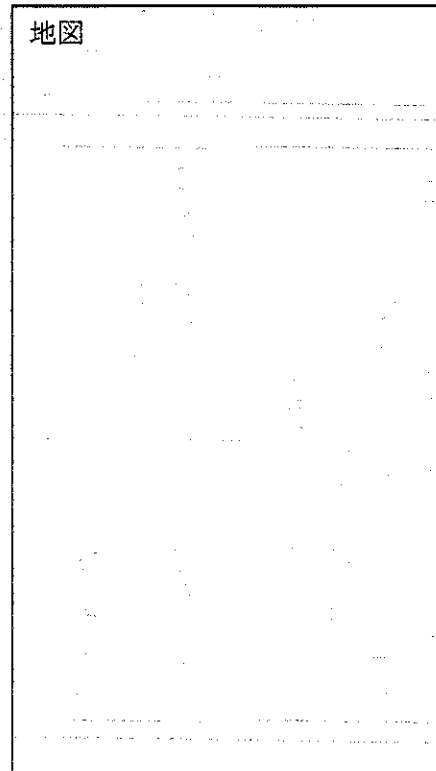
5 本時の学習指導

- (1) 目標 ・ 探検した場所の中からお気に入りの場所を選んで、おすすめの散歩コースをつくることができる。
 ・ どうして選んだのか理由を言うことができる。

(2) 学習指導過程

	学習活動	児童の反応	教師の支援
課題把握 ／ 自力解決 ／ みがき合い ／ まとめ	1 今日の散歩コースを確認し、学習課題を掴む。	今日のコースには、どんなもの・自然・人があったかな。クイズをしよう。 友だちに紹介したいものがあったよ。	T1 導入で写真クイズをし、コースの様子を思い出せるようにする。 T2 写真を「物・自然・人」に分けて貼っていく。 発) どんなことをおすすめしたいか考えて、散歩コースを見つけよう。
	2 自分のおすすめ散歩コースを見つける。	④おすすめ散歩コースをつくろう。 古い物や珍しい物があったよ。 この季節の自然を見つけたよ。 やさしい人を見つけたよ。 写真や絵を並べてみよう。どんなコースが楽しいかな。 どうしておすすめなのか、友だちに分かるように、理由を書こう。	・散歩コースは、三つのことを入れて書き、友だちにも紹介するので、おすすめのものを選んで5個ぐらいに絞らせる。 ・写真を選んだり絵に描いたりしたものを並べることによって、どのように組み合わせれば、楽しいコースになるのか考えさせる。やり方が分からない児童には、T2が個別指導をする。
	3 友だちに説明する。	友だちに聞いてもらおう。 古いものをおすすめするよ。 めずらしいからおすすめするよ。 やさしい人がいるからおすすめするよ。 友だちが選んだ理由もわかったよ。おもしろいな。	・おすすめの理由については、三つの観点に分けたヒントカードを用意しておく。(古いから、大きいから、めずらしいから、挨拶をしてくれるから・好きだから等を掲示) ・T1・T2がグループに分かれて発表の仕方を指導しながら、理由をつけてはっきり説明しようとしている児童を賞賛する。
	4 町の人やおうちの人の思いを知る。	今日のコースに住んでいる町のは、自分の町のことをどう思っているのかな。 ・自分たちが聞いた話 ・おうちの人から聞いた話 町の人だけでなく、おうちの人、自分の住んでいる町が好きなんだな。町を大切に思っているんだな。 もっと自分の町を調べていきたいな。	評) 自分のおすすめの散歩コースを絵や写真を指しながら発表できたか。 A 三つの観点から選び、理由をはっきりさせて、発表している。 B 好きだからという理由で発表している。 ・町の人やおうちの人、自分の町が好きで、みんなが楽しく過ごせるような町にしたいと願っていることを知らせる。 ・次にしたいことを確認し、次時のめあてをもたせる。

(3) 板書計画



おすすめのさんぽコースを見つけよう。

〇〇〇 えないのまち

第2黒板 ヒントコーナー
もの
しぜん
人

もの

しぜん

人

写真

おすすめ
のりゆう

しらべた
こと

榎井の町に対
する
町の人言葉
(探検や調べ
学習で聞いた
こと)

授業記録 (6 月 30 日 水曜日) まちづくり科 授業者 (守谷 久美子)

時刻	教師の支援 (発問・助言など)	子どもの反応
13:55	学習活動1 第2コースをいっしょに歩いてみます。 ・お菓子屋さんの前を通ったよ。 ・おなかですいたなあ。 ・さあ引き返すよ。 ・学校到着 もの しぜん ひと と黒板に板書> < それでは今日もクイズを出します。 ・第2コースですよ。 ※<T2が操作> ※・じゃあ映すよ。 ・何というところでしたか。 ・ちょっと待って。ここに人が映っていたんだけど、これは誰だったかな ・次、どうぞ。 ・「ワールド」というお店でしたね。 ・これ誰か知ってる? ・3年生と1年生のおうちの人が出てきてくれたけど、聞きたいのはこの人です。 ・このお店のお母さんで、ケーキを売っている人でしたね。 ・では、次。 ・なごみの家を詳しく言える人。 ・たくさんのおじいちゃんおばあちゃんがいましたね。 ・では、次。 ・ローソンって何。 ・コンビニと言われている店だね。詳しくは調べてくれている人がいるので、後で教えてね。 ・これは? ・マルナカ行ったことある人。 ・次。 ・呑象楼は調べてくれている人がいるのでちゃんと案内に書いてね。 ・るきあさんの家の裏にお宝があったよね。 ・こんな木も見つけました。 ・これは確か去年行ったよね。 ・これは? ・ここにいないけど、お話を聞いた人がいましたが・・・。 ・なごみの家の人にも話を聞いたね。 ・これだけ用意しました。もっとたくさん見つけた人もいと想います。	<全員立って、「さんぽ」の音楽に合わせて足踏みしながら歌う。> <テレビからの写真映像を見ながら、発表する。> ・呑象楼のお菓子屋さん ・トージュウのお菓子屋さん ・シオタのお店 ・シオタのお店の人です。 ・ケーキを売っているワールド屋さんです。 ・3年生の人 ・1年生の三宅さんのお母さんです。 ・なごみの家です。 ・おじいちゃんやおばあちゃんが住んでいるところです。 ・ローソンです。 ・コンビニです。 (自然が出てほしいわ。) ・マルナカ ・はあい。 ・呑象楼です。 (日柳燕石) ・御旅所の木です。 ・るきあさんの家の近くの木です。 ・御旅所の木です。 ・ギフトのお店です。 ・公民館の人です。 ・

(13分)

授業記録 (6 月 30 日 水曜日) まちづくり科 授業者 (守谷 久美子)

時刻	教師の支援 (発問・助言など)	子どもの反応
14:08 (17分)	学習活動2 今日もさっそくお薦めの散歩コースを作ろう。 <学習問題の「1年生にしょうかいしよう」を 板書> <「() えないの町」を板書> ・みなさんはどんな榎井の町を紹介してくれ るか楽しみです。 <プリントを出すことを指示> ・写真や絵を使って、必ずお薦めの理由も書 いてね。 ・調べたこともあったら貼って下さい。 ・今日はみどりのコースです。歩いたところ だよ。 ・いつものように後ろに写真とかあります。 ・3つ見つけてまだ時間のある人は4つ5つ と見つけていいですよ。 <ファイルの中の物を出すように指示> ・貼ってから書いてもいいよ。 ・順番はどちらでも。 <T1・T2 机間巡視> ・なごみの家をしたい人は絵を描いてね。 ・理由をしっかりと書いてよ。 ・3つか4つくらいでいいですからね。 ・25分がきたら練習します。	<写真を取りに行く。> <写真を貼ったり文を書いたりする。>
14:25 (8分)	・できた人いますか。 ・できた人同士で練習しましょう。 ・廊下で練習してもらいましょう。	・はい。 <終わった児童から廊下で2人組になって発 表の練習をする。>
14:33 (5分)	学習活動3 じゃあみんなに発表してみよう。 ・発表の仕方を見てみましょう。 ※<T2が黒板を移動させて見せる> ・よく分かったね。1年生の子が「連れて行 ってね。」と言ってくれると想います。	<全体の前で発表をする。> ・私は「楽しい榎井のまち」を紹介します。 1番目はワールドのお店の人です。お薦め の理由は、お薦めのケーキをやさしく教え てくれるからです。2番目は御旅所の本で す。気持ちいいからです。調べたら大きな 桜の木があるので、春になると桜の花がさ れいだからです。3番目はトージョーのお 菓子屋さんです。めずらしいお菓子を売っ ているからです。調べたら呑象楼という名 前のお菓子を売っていました。4番目はシ オタのお店です。いろんな服を売っている からです。調べたら小・中・高校の制服や 体操服を売っているからです。5番目はシ オタの人です。いろんなことを話してくれ たからです。

授業記録 (6 月 30 日 水曜日) まちづくり科 授業者 (守谷 久美子)

時刻	教師の支援 (発問・助言など)	子どもの反応
	・ちょっと頭の中では難しかったけどすばらしいですね。 ・完成したら1年生の子を連れて行ってあげたいと思います。	・私は「やさしい榎井の町」を発表します。1番目は、るきあさんの家の裏の木です。お薦めの理由は、榎の木で大きいからです。とても大きくてめずらしい木です。2番目はワールドです。お薦めの理由は、ケーキやお菓子をいっぱい売っているお店だからです。3番目はシオタの人です。お薦めの理由は、制服や体操服をいっぱい売っているお店だからです。お店の中まで入らせてくれたからです。4番目は呑象楼です。お薦めの理由は、古い建物だからです。榎井小学校の隣にあります。玄関の横にクイズがあるからです。調べたら日柳燕石の別宅。一階は本がたくさん置いてあります。2階は壁が回ったり刀が振れないように天井が低かったり戸が右は開かずに左にしか開かないなどの仕掛けがある。2階でお酒を飲むと杯に象頭山がぼっかり浮かぶから象頭山を飲む呑象楼と名付けられた。燕石は逃げてきた高杉晋作を呑象楼にかくまって助けてあげた。そのために牢屋に入れられた。 <拍手が起こる>
14:38	ところでみなさん、ここはどんなところですか。 ・やさしいをつけた人いますか。 ・やさしいの題をつけた人、何人かいますね。 ・ちょっと聞いてみよ。 ・誰がやさしいの。 ・しっかり教えてくれました。	・価値がありそうなものばかりです。 ・いろんなものがある榎井の町 ・ようこそやさしい楽しい榎井の町 <何人か手を挙げる> ・地域の人
14:40	学習活動4 シオタのお店の人は町のことをどう言っていましたか ・どんなところが好きだったか覚えてる？ シオタのおじさんは町のどんなところをが好きと言っていましたか。 ・これに書いとるなあ。 ・みんなちゃんと宝物もつとるやん。 ※< T 2が「友だちいっぱいなどのカードを貼る> ・ギフトのお店の人は ・ワールドのお店の人は ・なごみの家の人は ・「やさしい人が多い。」と言っていたね。	・ ??? <ファイルから見つける。> ・友だちいっぱい。 ・町の人がいい。 ・みんななかよし ・優しい人が多い。

授業記録 (6 月 30 日 水曜日) まちづくり科 授業者 (守谷 久美子)

時刻	教師の支援 (発問・助言など)	子どもの反応
14:40	ちょっと待ってよ。公民館のおじさんは何をしていたかな。 ・どこを ・自分の家ではないね。町の周りを掃除していたね。みんなどう思う。 ・どんな気持ち ・優しい気持ちだと思う？ ・自分の家ではないけど、榎井の町がきれいになってほしいというのはやさしい気持ちだと思う では、あなたは どう 思いますか。 ・友だちがいっぱいだと思いますか。 ・町の人がいいと思う？ ・みんな仲よしだと想う人 ・やさしい人が多いと思う人 (7分) おうちの人はどう思っているかな。 ・おうちの人に聞いてみたことがあるよね。 ・おうちの人「榎井の町好きですか。」で「はい。」と答えている人。 ・おうちの人ことばの中に「やさしい町だ」とか「親切的な町だ」ということばがある人 ・どうもおうちの人も榎井の町が・・・。 ・すばらしいやさしさに囲まれていろんなものが大きなまるで包まれたよ。 <黒板を大きなまるで囲む> 榎井の町みなさんはどうですか。	・そうじ ・町のまわり ・やさしい ・きれいになってほしい。 ・榎井の町が、きれいになってほしいからです。 ・やさしい気持ちです。 ・はい。 ・はあい。 ・はあい。 ・はあい。 ・はあい。 <ファイルを見て調べる> ・はい。 ・はい。 ・榎井の町を ・好き ・やさしい町だと思っている。 ・好き
14:53	・ええなあと思ってくれたところがあったらうれしいです。	

単元名	おすすめのさんぽコースを見つけよう！		
授業者	守谷 久美子	記録者	美濃 珠美
記 録			
守谷先生より	低学年の町づくり科は生活科の町探検を突出		
	させたもの。子供たちは町は家の近く、買い物		
	など知らないことが多い。探検を通して人との		
	関わりなどいろいろな発見ができた。個人の		
	楽しみを生かしたいということからおすすめ		
	を絞って理由をあげていった。公民館のそうじ		
	をしている姿→町が好きだから町のためにする		
	姿を見て町への参画態度を深めていこうとした		
	が時間が不十分だった。		
質問	・第2黒板に書いている説明などの提示の意図は？		
	町づくり科のみのヒントに使えたらという思いで提示		
	・探検は何回？		
	第一コースは4回、第二コースは2回 絵を描くのは難しい		
	ので写真を多く使用。毎回異なるめあてを持った。		
	・探検する店は決めていた？		
	インタビューの方法は決めていたが場所は飛び込みで決め		
	ていなかった。		
	・子供の調べ学習は？		
	自分の調べたいことを親と相談しながら書いてきた。		
	今回はもの・人・自然に分類したが本来はもの・出来事・人		
	であると思う。		
	・「～榎井のまち」にやさしいはつながらないのでは？		
	子供は建物や自然の背景に優しい人を見ているので人がい		
	てこそ物がつながる。「おいしさ」も優しい人たちに作られて		
	いることを次回の授業でつなげたい。		

記 録

・ 3つのコースのネーミングを自分や友だちのものと比較確認することで町のイメージがさらに固まっていく。

・ どんぞうろうの調べ学習など4年内容は2年内容の発展であることを実感した。→他学年との交流もしてみても

・ 特別支援の子供の発表の場もあり、他の子が温かい拍手をしていてよかった。

・ 散歩コースを紹介するのは1年生だけ？

上学年にも紹介することで上学年のモチベーションも高められる。低学年は日頃から上級生にしてもらうことが多いが発信できることがあることも大切である。

・ 低学年の子供が説明をするときには写真を取り入れると内容が伝わりやすい。写真や色分けなどを効果的に使用していた

・ 視覚的な資料（ヒント・写真・話型）が多々あり子供たちがスムーズに学習に取り組んでいた。

・ 教師が学び方を身につけさせるのは大切であり、次の単元時にはスムーズに取りかけられたり、たくさんのアイデアも出てきたりするのではないかな。

資料が多いことは子供の選択肢が多く自分の思いを自由に活用できる。遅れがちな子供の配慮はヒント黒板など工夫がされていた。

・ 子供たちに人の優しさを伝えていくと本当に町が好きになるのではないだろうか。

教頭先生より

・ 物・自然＋人、背景として捕らえた方がよい。

・ 同じ探検を3、4学年で扱う場合は時間の概念(散歩コースの周り方)などを組みあわせて気づかせ学ぶ。

記 録

- ・ 2人の発表時に子供が発表した写真を取り上げて子供は全員の方をみて発表できたらよかった。

校長先生より

- ・ 町づくり討議が前進している。2年から3年への交流は子供たちからでてきたものでとても意義がある。

- ・ 町づくり＝教育の革命

以前は地域と切り離されていたが、生活科ではなく町づくり科として店の人と話すことで「町ってすごい」という町への思い（郷土への誇り）が芽生えていく。

- ・ 話型カードやヒントカードを提示することで他教科との関連を図ったり子供の学習意欲や学力も高めたりすることになる。

- ・ 愛着があってこそ提案はできる。

第3学年 まちづくり科学習指導案

学習指導者 T 1 宗田活季

T 2 京兼 密

1 単元名 「榎井の自慢を知らせよう！～まるお商店のひみつ～」

(領域：交流とにぎわい，伝統・文化・自然)

2 単元について

- (1) まちづくり科の基礎確立期（小1～小4）の目標は、「地域と家族や自分について知り，友だちとともに地域や家族について調べ，郷土の福祉や観光についての基礎的な知識を身につけるとともにまちづくりの基礎となる身近な体験をする」としている。

3年生では，主に自分たちが住む榎井校区を何度も探検することによってまちの自慢を見つけ，それらについてくわしく調べたり，地域の人話を聞いたりすることを通して，まちの人の思いや願いに共感し，自分が住んでいる「まち」について愛着をもつことをねらっている。

1学期は自分たちが住む校区榎井に自分たちで自慢を見つけようと東西南北に分けて探検し，見つけてきた「古いもの」（史跡等）「水」（自然）「麦」（農作物）などをマップに表してきた。その中で，「古い商店街」に目を付けると，何代も続いた店が多く，他の地域を調べても昔のまま残っているのは珍しいということが分かり，中でも特に古く，由緒のある「丸尾商店」のひみつを調べることにした。

丸尾商店は現在「凱陣」というお酒の名で知られる酒屋「丸尾本店」と丸尾醤油とこんびらみそを造る「丸尾醸造所」の二つの店に分かれており，どちらも昔からこの地区の豊富な地下水を利用して栄えてきた。丸尾商店の建物は，幕末から明治にかけて満濃池修復工事に尽力し，日柳燕石，桂小五郎とも親交のあった長谷川佐太郎の旧家でもある。長谷川佐太郎は，榎井の豪農で造り酒屋「新吉」に生まれ，幕末から明治の激動の時代を生き，満濃池修復の大事業に家財を傾けて完成させた榎井の偉人である。その長谷川佐太郎の旧家である「丸尾商店」をまちの自慢として取り上げ詳しく調べることは，琴平町榎井の歴史やよさを知り，そのよさに共感したりして自分の町を大切にしようとする態度につながると考える。

(2) 事前のアンケート

(9月7日実施 男子10名，女子15名，計25名)

○自分のことが好きですか

好き 14名 まあまあ好き 9名 どちらかといえば好きではない 2名 好きではない 0名

○榎井の町が好きですか

好き 16名 まあまあ好き 8名 どちらかといえば好きではない 1名 好きではない 0名

○榎井は自慢できるものがあると思いますか

とても思う 13名 思う 11名 あまり思わない 1名

○長谷川佐太郎を知っていますか

よく知っている 0名 だいたい知っている 4名 あまり知らない 5名 ほとんど知らない 16名

○丸尾商店を知っていますか

よく知っている 11名 だいたい知っている 8名 あまり知らない 5名 ほとんど知らない 1名

○丸尾醤油を使っていますか 8名 (以前使ったことがある2名)

児童は1学期に校区を探検し，「古いもの」（史跡等）「水」（自然）「麦」（農作物）が榎井の自慢であることを見つけた。その中の一つ，古い商店街にある丸尾商店について知っていると感じたのは18名であるが，「なぜ古いのか」「どのくらい古いのか」ということや「何を売っているのか」

はほとんどの児童が知らない。他の地域にない古い建物が「ある」ということは知っているが、まだ愛着・共感するまでにはいたっていない。また、丸尾商店とつながりがあり、満濃池の修復などに尽力した榎井の人物長谷川佐太郎について知っているとしたのは4名である。不思議なことや知りたいことを意欲的に見つけ、自分たちで解決する方法を身につけさせることで主体的に学習する態度を身につけさせたい。

(3) 単元を通して以下のようなことに気をつけて指導し、資質や能力を育成する。

① まちやまちづくりに対する興味・関心を育成するために

自分たちが何度もまちを探検し、調べたり見つけたりしたまちの自慢から、一番古い建物である「丸尾商店」を取り上げる。そして、自分たちが知りたい疑問を一つひとつ解決していく過程を大切に「丸尾商店のよさ」に共感させる。また、個々の疑問をKJ法などで整理して「昔」と「今」に分けたり、2つの疑問を関連させたりして学習問題をつくり、何を何のために調べるかを明確にすることで、「調べたい」「確かめたい」という意欲をもたせる。

② 他者とかかわろうとする意欲とコミュニケーション能力を育成するために

問題を解決する方法を自分たちで考えさせ、お店の人、家族、親せきや学校の先生・上級生・近所の人にインタビューをしたり、アンケートをとったりする活動を取り入れる。その際国語(3年)で学習するインタビューの仕方やメモのとり方、社会(3年)で学習した質問用紙の作り方などの技能が使えるようにする。また、自分たちが知らせたい『まるお商店のひみつ』をパンフレットでまとめたり、試食会をしたりするときに、相手によく分かるように小見出しを使った構成の仕方や話し方ができるようにする。

③ 実践化に向かうようにするために

一人ひとりの疑問を一つひとつ解決していく過程を大切に、榎井のまちのよさに共感し、「丸尾商店」は文化財に指定される古い建物であること、発展に尽力した長谷川佐太郎の旧家であること、昔からの伝統の製法を守りつつさらなる新しい醤油をつくるために工夫してきたことなど分かったことの「すごい」という思いを積み重ねて、丸尾商店を榎井の自慢に認定し、「これからも大切にしよう」という気持ちをもたせる。そして、そのために自分たちは何ができるか考えさせ、「伝統あるまるおしょうゆのおいしさを知らない人に知らせよう」という気持ちから試食会をするという活動を取り入れる。「自分たちで」「5, 6年生に」「全校生や地域の人たちに」と対象を広げ3回試食会をすることで、試食会のもちかた、試食の仕方、説明の仕方などを改善する過程を通して「自分たちでできた」「知らせることができた」など達成感・満足感を味わわせる。そのことが、自分から「~のためにまたやってみよう」という参画態度につながる。

3 単元の目標

- (1) 丸尾商店の「昔」「今」を友だちと意欲的に調べ、長谷川佐太郎やお店の人の思いや願い、くらしの様子に共感することを通して、自分の町を大切にしようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) めあてをもって調べたことから歴史ある榎井の商店の特色やよさを考え、伝えたいことを選ぶことができる。(思考・判断)
- (3) 丁寧で分かりやすい言葉でインタビューしたり、レイアウトや小見出しを工夫してパンフレットを作ったりすることができる。(技能・表現)
- (4) 歴史ある榎井の商店の特色やよさ、長谷川佐太郎などの働きを理解する。(知識・理解)

4 単元計画（全32時間）

第1次 学習計画を立てよう。

- 自慢マップや写真を使って自分たちが見つけた自慢を思い出す。 (2時間)
- 横井に残る古い商店街の写真から、丸尾本店・丸尾商店に焦点を当てる。 (1時間)
- 丸尾本店・丸尾商店について知っていることや知りたいことを発表し、調べの計画を立てる。 (2時間)

第2次 丸尾本店・丸尾商店について調べよう。

- 「長谷川佐太郎」について、資料やインターネットを使って調べたり年表にまとめたりする。 (2時間)
- 「長谷川佐太郎」と丸尾本店・丸尾商店の関係を資料を使って調べる。 (2時間)
- 醤油の作り方を資料を使ってまとめたり、社長さんにインタビューしたりして丸尾商店について調べまとめる。 (5時間)
- これまでの学習から、なぜ醤油を作るようになったのかを話し合う。 (1時間)
- 丸尾醤油は人気があるのか、家の人に聞いたり、アンケートを取ったりして調べまとめる。 (2時間)
- 人気がある理由を、醤油を使った簡単な料理を食べたり、実際に食している人や作っている人の話を聞いたりして考える。 (本時1時間)

第3次 自分たちができることをしよう。

- 丸尾商店の醤油を使って、さめきうどんを食し、おいしさを実感してアピールしようという意欲をもつ。 (7時間)
- 学習したことから、必要なものを選んで、パンフレットにまとめたり試食会などで醤油をアピールしたりする。 (4時間)
- 丸尾商店さんにお礼の手紙を書く。 (2時間)

※ 他教科とのつながり

- 3年国語「知ってほしいな自分のこと」(スピーチをする)
- 3年国語「どちらが好き」(メモを取りながら聞く)
- 3年国語「私のお気に入りの場所」(インタビューをする)
- 3年国語「つなひきのお祭り」(紹介文を書く)
- 3年国語「私の研究レポートを書こう」(学習したことをまとめる)
- 3年国語「じゅんじょを考えて」(文書を読み返す)
- 4年国語「お礼の手紙を書こう」(お礼の手紙を書く)
- 4年国語「ウミガメのはまを守る」(パンフレットにまとめよう)
- 3年算数「かさ」($ml \cdot l \cdot dl$)
- 3年算数「表やグラフに表そう」(分かりやすく整理する)
- 3年社会「スーパーマーケットで働く人」(質問用紙の作り方)
- 4年社会「山ろくに広がる用水」(村人たちのねがい)
- 5年社会「自動車を作る工場」(消費者のもとに運ばれる車)
- 5年社会「地域を結ぶさまざまな工業」(身近な冷凍食品)

5 本時の学習指導

(1) 目標 醤油を使った料理を実食したり、よく使っている人の話を聞いたりしておいしさを実感し、おいしさのひみつを考えることにより作っている人の気持ちに共感し、校区を誇りに思う気持ちをもとうとする。

(2) 学習指導過程

学習活動	予想される児童の反応	支援・評価 T1	支援・評価 T2
1 前時学習したことから、本時の学習課題を確認する。	北海道・東京・大阪の人にも売られているよ	T1 前時に学習したことから、本時の課題を確認させる。 T2 発表内容に合わせ資料を提示して既習事項を思い出させる。	発) 丸尾のうま味醤油が人気があるひみつを調べよう。 T1 調べる意欲を高めるために2種類の醤油を見せる。 ・ 醤油を使った料理を家庭で調べておき、醤油の使われ方をイメージさせておく。 ・ 丸尾醤油のよさや他社の醤油との違いが分かるように「うどん」にかけて、比較させて味見をさせる。 ・ 味見の方法を全員に理解させるために、言葉や動作で表す。 ・ 班ごとに実食できるように醤油とうどんの容器をセットで用意しておく。 T2 ワークシートや消毒液の用意をする。 ・ 味見をする前に机の上(時間前)や手を消毒させておく。 ・ 丸尾醤油を味見した時、他社の醤油との違いをはっきりさせるために先に他社の醤油を味見し感想を書くようにする。 ・ 自分の意見を持つことができるように、どちらがうどんに合うかワークシートに印をつける。 T1 主に1, 2, 3, 4班の児童に助言する。 T2 主に5, 6, 7班の児童に助言する。 ・ 人により好みが違うことに気づかせるためにうま味醤油を選ばなかった人もいる理由を問いかける。 ・ 今まで学習したことやつくっている人の気持ちに目を向けさせるために「なぜおいしいのか」問いかける。 ・ 社長さんからのボイスレターを用意しつくる人の気持ちに共感できるようにする。 ・ 自分たちの自慢であると確認できるように「自慢認定マーク」を用意しておく。
2 醤油を使った料理を発表し、調べ方を話し合う。	うどん屋にたくさん使われていたよ		
	うちの人もおいしいと言っていたよ		
	丸尾のうま味醤油は、榎井以外の人にも人気があるのが分かったよ。		
	なぜ丸尾のうま味醤油が人気なのだろうか、ひみつを調べよう。		
	おいしいからかな いろいろな料理に合うからかな		
	うま味醤油を使った料理を味見すると分かるよ。		
	丸尾醤油を使っている人に聞いてみるといいよ。		
(1) うどんに醤油をかけて実食し、おいしさを調べる。	丸尾のうま味醤油とAの醤油をうどんにかけて食べ比べてみよう。		
	・ こっちの方がおいしく感じるな。 ・ 少し甘みがあってうどんに合うな。		
	・ ちょっとうすいかな。 ・ いつもと違うなあ。 ・ どっちもおいしいな。 ・ こちらの方が辛いな。		
(2) 丸尾の醤油を愛用している人の話を聞く。	Bの丸尾のうま味醤油をかけた方がうどんに合うと感じた人が多いな。		
	本屋敷先生はおいしいから他のメーカーから丸尾のうま味醤油に変えて使っているんだ。		
	お家の人にもうま味醤油をおいしいから使っている人がいたね。		
	おいしいからこんなに人気があるんだ。		
	なぜ丸尾の醤油はおいしいのだろう。		
3 丸尾醸造所の社長さんのボイスレターを聞いておいしさのひみつを知る。	昔から作り続けているからかな。 材料や作り方に工夫があるからかな。		
	伝統があって昔から作っているからおいしい。		
	いろいろな工夫をしているからおいしいんだ。		
	お客さんのために心をこめて作っているからおいしいんだ。		
	たくさんのおいしい醤油を食べてもらうために、材料や作り方を工夫しておいしいものを作っているんだ。		
4 自慢認定を行い、本時の感想を書く。	だから、おいしくて人気があるんだ。すごいな。		
	丸尾商店のよいところは、昔からおいしい醤油を作り続けたためにいろいろ工夫してきたことだ。丸尾醤油は榎井の自慢になるな。		
	評) 学習したことをもとに分かったことや丸尾商店のよさを書くことができたか。 A 作り手の工夫や願いから、おいしい理由が書ける。 B 人気があつておいしいことが書ける。		

? 人気があるのか

○インタビュー
・アンケート

○売られている場所
・香川県地図

・日本地図

○京兼先生の話

学 なぜ丸尾のうま味しょう油は人気なのか、ひみつを調べよう。

おいしい 伝とう うどんに合う

① 味見 使っている人に聞く 社長に聞く

	醤油 A	醤油 B
感想		

3年生
先生

○人
○人

○人
○人

おいしいと
思う人が多い

本屋敷先生

○使っていたしょう
油を丸尾の醤油にか
えた。

おいしい!

ま 昔からおいしい醤油をつくるために工夫をしている。

? なぜおいしいのか

○昔からつくってい
る
○作るのが上手
○協力して作ってい
る
○材料がよい



すごい!

○ 1890年からおいしい醤油
を真心をこめて作ってきた
○ 12年間かけて材料や作り方
を工夫してきた。

時刻	教師の支援 (発問・助言など)	子どもの反応
9:25	T1:昨日までの学習問題は何でしたか。 T1:そのために色々な方法で調べてきました。どんな方法で調べてきましたか。 (T2:インタビュー結果を貼る。) T1:うちの人も聞きましたね。他には? (T2:京兼先生の話を貼る。) T1:京兼先生の話を聞きましたね。 T2:どこに売ってるかだった? (T2:日本地図と香川県地図を貼る。) T1:3つ色々な方法で調べてきました。調べた結果、みんな丸尾醤油は人気か? T1:人気があるということになりました。 T1:じゃあ今日は何をしますか。今日の学習問題は何かですか。 T1:もう1回言ってください。	- 丸尾醤油は人気があるか調べようです。どうですか。 - 同じです。 - 丸尾醤油にインタビューに行きました。どうですか。 - 先生たちにインタビューしました。 - 京兼先生の話を聞きました。 - 地図に色を塗って調べました。 - はい。 - ある。 - なぜ丸尾醤油のうま味は人気があるのか、秘密を調べようです。どうですか。 - 同じです。 - なぜ丸尾醤油のうま味は人気があるのか、秘密を調べようです。どうですか。 - 同じです。 - なぜ丸尾のうま味醤油は人気なのだろうか、秘密を調べよう。 - 全国とかで売られているから人気があると思います。 - 京兼先生の親戚があんなに喜んでいたら。「とてもおいしかった。」と言っていました。 - 思いがこもっているからだと思います。 - 一生懸命です。 - 協力しているからです。 - 工夫をしているからです。 - 明治から作っているからです。 - 味見です。どうですか。 - 同じです。 - 使っている人にも聞きます。どうですか。 - 同じです。 - 社長さんに聞くです。どうですか。 - 同じです。 - 味見です。どうですか。 - はい。 - やったあ。 - 味見新聞? - うま味醤油の濃い口です。どうですか。 - 同じです。 - マルキンと丸尾醤油だ。 - 先生1回開けてみて。 - おいしい。
9:27	T1:そうしたら全員で言ってみましょう。 (T1:学習問題を貼る。) T1:人気があるんでしょうか。予想。人気があるんだけど何で人気があるのか。 T1:そう全国で売られているから。なぜ人気があるのか。 T1:何って言うてたかな。 T1:おいしいから人気があるんじゃないかな。(T1:板書) T1:思いを込めて作っているから。 (T2:指名) T1:一生懸命作っているから。 T1:最後 T1:昔から明治から作っていたよな。 T1:今日はどんな方法で調べますか。見通しです。	
9:30	T1:じゃあ1番最初に何をしますか。何がしたいですか。 T1:味見をしたいですか。 じゃあ味見をしましょう。 T1:実はこんなものを作ってきました。みんなのワークシートに貼っている分です。ワークシートにあるのと一緒です。名付けて「味見新聞」です。(表を貼る。) T1:何と何の醤油でやる?何の醤油を使う? T1:もう1つはみんなのおうちで使っている醤油です。 T1:みんな、醤油がここに2本あります。シールを貼ってますね。こっちにもシール貼っています。(醤油を隠した2本の箱を出す。) T1:いやいや。どっちが丸尾醤油か?おいしいって予想が出たんだったらみんな分かるやろ。	
9:31	T1:そうしたら味見をしてみたいと思います。まず班の形になります。班の形にな	

	ったら手を消毒しましょう。班で1人取りに来て終わったら持って来ます。ではそこまでやってください。 (T2:うどんと醤油の用意) 9:33 T1:一度しか言いません。よく聞いてください。うどんのカップが2つあります。緑とピンクです。いいですか。醤油も? T1:緑とピンクです。みんなのは乗っています。セットになっていますから緑の醤油を緑のカップに入れてお箸で食べてみてください。お醤油の味を。お醤油の味だよ。お醤油の味をよく見て味見ができたかどうか感想を書きましょう。どんな味がしたか感想を書きましょう。できそうですか。 T1:そこまでしたら「ストップ」と言いますから、時間は短いですよ。はいじゃあどの班から取りに来てもらおうかな。7班はいいらしい。6班。5班。4班。1班。2班。3班。 T1:いいですか。色を間違わんようにしてください。(T2:うどんセットの配布) 9:35 T1:はいまずは緑です。緑の醤油、緑のうどん。 (T2:緑の醤油とうどんが用意されているか確認して回る。) T1:感想を書くまでです。1分で感想まで書いてみてください。 T1:いいですか。位置について用意どん。 T1:あと30秒です。感想まで書いてください。 T2:もう30秒しかないよ。大丈夫? T1:感想書けていますね。 T2:感想まだの人書いてくださいね。 9:37 T1:はいそうしたら聞いてみます。お箸を置きましょう。感想を発表してみてください。 (T2:板書) T1:辛かった。他に?もう1人か2人いこうかな。 T1:後からの味がちょっとだけだった。 T1:味が濃かった。いいです。みんな書けてますね。 9:38 T1:次、ピンクのうどんにピンクのお醤油をかけて味見してみてください。 (T2:お箸の新しいものを配布) T1:はい位置について用意始め。 T1:はい書けましたか。書けたかな。 9:41 T1:お箸を止めましょう。感想を聞きます。 T1:納豆のだれだった。 T1:味が長持ちしました。 T1:ちょっとしたら甘くなった。 T1:ああかけすぎても大丈夫。なるほど。 T1:緑より甘かった。どうですか。みんなも同じような意見を持てましたか。 T1:そうしたら聞いてみましょう。どっちがみんなおいしかったですか。今すぐ決めれる? 9:42 T1:じゃあちょっとだけ時間があります。もう一度確かめてみてその後聞くよ。ちょっとペロンってなめていい。 T1:はい、聞きます。 T2:箸をしっかり置いて。 T1:まだです。手を挙げてもらいますから。	(班の形にする。手の消毒をする。) ・ 2種類 ・ はい (良い姿勢で待つ。) (緑のカップと緑の醤油さしと割り箸を一人ずつ取る。) ・ えっ早。(味見する。) ・ からい。 ・ 全部かけてしもうた。 ・ 辛いけどおいしかった。 ・ 思ったよりも辛かった。 ・ 後からの味がちょっとだけした。 ・ 味が濃かったです。 ・ うまい。 ・ 甘い。 ・ こっちの方がおいしい。(間違いない。こっちが丸尾醤油だ。) ・ まだ欲しいよ。 ・ 納豆のたれだった。 ・ 味が長持ちしました。 ・ ちょっとしたら甘くなりました。 ・ かけ過ぎても大丈夫。 ・ 緑よりちょっと甘かったです。 ・ 決めれる! ・ やったあ。(もう一度なめてみる。)
--	---	---

	T1:緑の方がおいしかった人?はいストップ。 (T2:板書) T1:はいピンクの方がおいしかった人? T1:ちょうど27人ですね。 T1:みんなはこっちの方がおいしいと思う人が多かったですね。 T1:実は職員室の先生にも同じことをやってもらいました。どうだったと思う? T1:ピンクを選んだ人が多いんやろか?緑の人もおるんやろうか。じゃあ結果を紹介します。 T1:まずは緑。17人中1人でした。 T1:ということはピンクを選んだ先生は16人でした。 T1:こっちを選んだ人の方が多かったな。こっちの方がおいしいと思った人がみんなの中には多かったですね。 T1:はいそしたらまだ紹介してなかった。どっちが丸尾醤油だと思う? 9:44 T1:ピンクだと思う人? T1:緑だと思う人? T1:ジャカジャカ…ジャン (箱を2つとも取る。) T1:どっちが丸尾醤油でしたか。指指して。 T1:はいこっちですね。丸尾のうま味醤油でした。 T1:みんなが多かったピンクの方が丸尾醤油だったということですね。 T1:そうしたら片づけをします。重ねてお箸をまとめて班で誰か持って来ましょう。 9:45 T1:30秒です。用意どん。 (T2:タイマーセット。片付け。) T1:はい机前向けます。 T1:味見が終わりました。次は何で秘密を調べますか。 9:46 T1:使っている人。 T1:おうちの人に聞いてみる。 T1:お客さん使いよるかな? T1:今日実はこの教室に来てくれています。使っている人が。 T1:はいみんな拍手! T1:では静かに使っている人の話を聞いてみましょう。 9:47 GT:本屋敷先生は使っています。じゃあん。実は使っているのですが、使い始めたのはちょうど去年、今の4年生とこのお勉強をして「わ!おいしいや。」と思って使い始めました。そしておうちでうちの旦那さんもね、娘もね、おひたしとかあんまり好きじゃない。でもこれをかけると「うわ!おいしいやん!」と言ってほうれん草のおひたしをパクン。娘も「お母さん、おいしいやん!」と言い出してからずっと1年間これを腐るんですよ。それはまたお母さんに聞いてね。ちゃんと使っています。これは先生も学校へ来てとても人気です。いいですか? 実はこれもあるんで。これはいいですね。こっちは濃い口。こっちは薄口です。以上です。 9:48 T1:本屋敷先生は何と言っていましたか。 (T1:板書 T2:指名) T1:家族に人気がある。	(7人) ・はい! (20人) ・ピンク! ・緑もおる。 ・ええ!じゃああと16人ピンク? ・いえい! ・ピンク!ピンク! (3/4くらいの人が挙手) (1/4くらいの人が挙手) ・右を指す。 ・ええ赤い方は嫌だ。 (片付け) ・使っている人に聞くです。どうですか。 ・同じです。 ・授業参観に来ている親に聞いてみる。 ・お客さんに聞いてみる。 ・お客さんは使ってなかったら…。 ・ええ!分かった。お客さんだ。 (拍手する。) ・誰?なあんだ。本屋敷先生か。もっとすごい人かと思った。 ・うわ!でか。 ・腐る。 ・はい ・そっちは薄口やで。 (拍手) ・家族で人気があると言っていました。どうですか。 ・同じです。 ・去年使い始めたです。
--	---	---

	T1:去年使い始めた。「勉強して」って言ってたな。勉強して「おいしいな。」と思って前の醤油と換えて使っている。去年。T1:なるほど。これを使うとおひたしが好きになった。楽夏さん何て言ったっけ。	・おひたしがみんな嫌いだったけどそれを使い始めたら好きになった。 ・好きになった。 ・言ったっけ？ ・言ったよ。
9:49	T1:になったと言っていましたね。 T1:本屋敷先生がこういうお話をしてくれました。 T1:みんなが「おいしいな。」と思ったのも丸尾醤油でした。ということはこういうこと、こういうことから合わせて考えると丸尾醤油は？ T1:人気があつて？ T1:とてつもなくおいしい。 T2:楽夏さん、もう一度言って。 T1:おいしいということでみんないいですか。いいと思う人は拍手。 T1:本まにいいやな？本まにいいやな？ T1:先生ここですごく1つちょっと疑問に思ったことがあるんやけど。おいしいん？本まにいいやな。 T1:先生すごく今疑問なんやけど。 T1:だってみんなは「おいしい。」 T1:おいしいんやな。すごく不思議。みんな不思議じゃない？すごく気になるんやけど。	・人気がある。 ・大人気。 ・とてつもなくおいしい。 ・おいしいです。どうですか。 ・同じです。 (拍手) ・はい間違いなく。 ・嫌や。丸尾醤油何か甘い。 ・おいしいよ。 ・本まにいい。 (・何でおいしいん？) ・人の好み。 ・何で？ ・なぜおいしいのかと思います。 ・なぜおいしいのだろう。 (挙手) (ワークシートに予想を書く。)
9:51	T1:なぜおいしいんやろ。(板書)読んでみましょう。 T1:何でだと思いますか。手^が挙がってるんだけど、まずワークシートの横書く所がありますね。表の下に「なぜおいしいのだろう。」を書いて自分の予を書いてみてください。何でおいしいん？2分間で。用意始め。	
9:52	(T1 T2 : 机間指導) T1:予想書けましたか。発表してください。	
9:55	T1:なぜおいしいのか予想。 T1:全部言ってください。 (T1:板書 T2:指名) T1:思いを込めて。一生懸命。清潔に。琴平のきれいな水。 T1:みんなにたくさんの人に買って欲しいな。昔からの作り方。 T2:人の好みに合わせて T1:たくさん出ました。みんなとっても素敵なことが書けていました。すごい予想でしたね。 T1:じゃあこの予想をどうやって確かめますか。 (T1:「使っている人に聞く」へ○をする。) T1:社長さんに聞いてみますか。 T1:せえの。 (T1:ラジカセの布を裏返して社長さんの写真を見せる。) T1:見覚えのある顔がありますね。これ誰ですか。社長さんに今日は来てもらいました。	・全部ですか？ ・思いを込めて一生懸命作っているから。協力し合って一人ひとりが気を抜くことなく作っているから。昔からの作り方だから。清潔に作っているから。琴平のきれいな水を使っているからです。 ・思いを込めて作ったから。社長さんが「買って欲しいな。」と思って作ったから。昔から作り方が変わっていないからです。 ・人の好みで甘いのが好きか辛いのが好きか。 ・社長さんに聞きます。どうですか。 ・同じです。 ・はい ・社長さん！(拍手) ・あっ！ ・社長さん (・だから隠しとったんだ。みんなの期待には

9:59	(T2:社長の写真を貼る。) T1:今日は社長さんはこの中に来てくれています。こんな風な秘密かどうか、みんなの予想が社長さん話してくれるのでしっかり聞いてなぜおいしいかの秘密を聞いてみてくださいね。いいですか。	ずれるんや。)
10:00	T1:社長さん何て言っていましたか。 (T1:板書 T2:指名) T1:すごい。なるほど。昭和43年から12年間な。 T1:喜ばれるように。 T1:うどん屋さんでお客さんの中にも売ってるんやな。うどん屋さんにも。 T1:真心を込めて。 T1:お客さんのことを考えて作りよなやな。お客さんに合わせて。 T1:というように丸尾さんの「こんな気持ち(ハートを描く)で作っているんだよ。」というお話が聞けましたね。みんなよく聞けましたね。こういうことからみんな何が分かった?丸尾醤油は? T1:になりそうですね。(矢印を描く。) T1:そしたら今日の勉強で分かったこと、思ったことを感想の所に書きましょう。どうぞ。 10:03 (T1 T2 : 机間指導) T1:はい書けた人発表してください。ちょっと待ってよ。 T1:そしたら発表してください。 10:06 T1:「おいしいな。」と思った。 10:07 T1:あとじゃあ1人か2人にします。 T1:詳しいことが分かりましたね。 T1:みんなとてもいい感想が書けていました。みんな丸尾商店、丸尾醤油さんはどうですか? 貼ってもいい? (「すごい」を貼る) 10:08 T1:すごいですね。 T1:これはどうする。(自慢シールを見せる。) T1:貼りたいですか?これ何だっけ? T1:せえの。 T1:自慢シールな。後ろにもいくつか貼ってありますが、何て言って貼るんだったか覚えていませんか? T1:ではみなさん一緒に。せえの。 T1:で良さそうですね。じゃあまたあそこに貼っておきましょう。じゃあ続き書いてない人は書いてください。しっかり書いておきなよ。 10:09 10:10 それでは終わります。	(・録音してくれてるんや。) (テープの社長さんの話を聞く。) (拍手) ・うま味醤油の濃い口は社長さんが12年間かけて作ったと言っていました。 ・昭和43年から55年です。 ・喜ばれるようにです。お客さんに喜ばれるようにです。 ・うどん屋さんで使われるようになりました。 ・真心込めて作っています。 ・お客さんにちょうどいいように色々なことをしています。 ・ハートだ。 ・人気。 ・おいしい。 (感想を書く。) ・丸尾社長さんがお客さんたちに思いを込めて作り続けていたからおいしいと思いました。 ・社長さんがお客さんのことを思っで作っているということが分かりました。 ・私がすごいと思ったことはお客さんの好みに合わせたり工夫したのがすごいと思います。 ・丸尾社長さんが12年かけて作ったうま味の濃い口だと分かりました。 ・僕は今日の勉強で分かったことは、うま味醤油の濃い口は社長さんが昭和43年から昭和55年の12年間かけて作った醤油だと思いました。真心を込めて作っていることも分かりました。 ・すごい!! ・はい! ・貼る! ・自慢シール ・自慢シール! ・自慢! ・自慢!

第4学年 まちづくり科学習指導案

学習指導者 T1 本屋敷和恵

T2 近藤あけみ

- 1 単元名 「榎井の自慢をアピールしよう！～歴史あるまち 榎井の自慢 写真展～」
(領域：交流とにぎわい、伝統・文化・自然)

2 単元について

- (1) まちづくり科の基礎確立期(小1～4)の目標は、「地域と家族や自分について知り、友だちとともに地域や家族について調べ、郷土の福祉や観光についての基礎的な知識を身に付けるとともにまちづくりの基礎となる身近な体験をする」である。

3年生では、古い商店街の中の古い建物を取り上げ、まちのために力を尽くした長谷川佐太郎や昔から作られていたしょう油に視点をあてて榎井の自慢を見つけ、学校の上級生や家の人に伝える学習をしてきた。自分たちで調べ体験することを通して、榎井のよさは「古いもの」が多く残されていることとおいしいしょう油や酒などを作るための「水」があることだと気づくことができた。4年生では、さらに古いものが多く残っている理由や出水などの水の秘密について調べ、まちのよさやまちの人々の思い・願いに共感させ、自分でできることをしていこうとする態度を育てる。

「呑象楼」は日柳燕石の別宅で、幕末の志士高杉晋作が幕吏に追われた時、燕石がここに匿ったことで知られており、別名「からくり屋敷」とも言われる。当時は、「旧高松街道」の終点(今の旗岡神社)から西に200mほど先の琴平と榎井の境の興泉寺の前にあり、「金刀比羅宮」への全国からの参詣客などで賑わっていた琴平の街が見渡せた場所でもあった。燕石の別宅の二階で酒を呑むと、盃に金刀比羅宮がある象頭山がぼっかりと浮かぶところから「象頭山を呑む」意気を示す「呑象楼(どんぞうろう)」と名づけられたと言われる。燕石は、ここで勤皇の志をもった吉田松陰、桂小五郎など天下の志士と交わり、幕吏の追跡を受けた長土諸藩の志士を匿うなど国事のために私財を投げ出して尽力した。

本単元では、「呑象楼」「日柳燕石」やそれに関連した「ものや人やこと」について調べることを通して、日本の新しい国づくりのために働いた人が榎井にいたことに誇りをもたせる。そして今も古い物が数多く残っているのは、全国から多くの人が集まっていたことだけではなく、それらを大切に残していきたいという榎井のまちを愛する地域の人々の思いや願いがあったことに気づかせる。そして、榎井のまちを自慢に思う児童の気持ちを大切に、他の小学校の友だちにアピールする方法を考え、実行していくことを通して参画態度を培うことができると考える。

- (2) 事前のアンケート (5月10日実施 男子16名、女子9名、計25名)

- | | | | | |
|-----------------------------|------------|--------------------|--------------------|------------|
| ○ 榎井のまちの古いものについてよく知っていますか。 | よく知っている1名 | だいたい知っている17名 | あまり知らない7名 | ほとんど知らない0名 |
| ○ 榎井のまちの古いものについてもっと知りたいですか。 | とてもそう思う17名 | そう思う7名 | あまり思わない1名 | 思わない0名 |
| ○ 榎井のまちの古いものを残していきたいと思いますか。 | とてもそう思う15名 | そう思う7名 | あまり思わない1名 | 思わない2名 |
| ○ 呑象楼について知っていますか。 | よく知っている1名 | だいたい知っている7名 | あまり知らない11名 | ほとんど知らない6名 |
| ○ 日柳燕石について知っていますか。 | よく知っている1名 | だいたい知っている3名 | あまり知らない12名 | ほとんど知らない9名 |
| ○ 自分のことは好きですか。 | 好き7名 | どちらかと言えば好き11名 | どちらかと言えば好きでない3名 | 好きではない4名 |
| ○ 学級のみんなの役に立っていると思いますか。 | 役に立っている0名 | どちらかと言えば役に立っている15名 | どちらかと言えば役に立っていない8名 | |

アンケート調査によると、児童のほとんどが、3年生でのまちづくり科や社会科の学習を通して榎井のまちの古いものに関心を持ち、もっと知りたい、そしてこれからも古いものを残していきたいと思っていることが分かる。一方、呑象楼について知っていると思っている児童は3分の1で、学校の敷地内にあり、目ごろ目にしている建物だが、3分の2の児童はそれがどういうものなのか知らない。日柳燕石を知っている児童はほとんどいない。また、みんなの役に立っているという実感をもてていない児童が多いので、意図的にグループ活動を取り入れるなど、友だちと共に学び合う場をつくり、自己効力感をもたせる学習にしていきたい。

(3) 単元を通して以下のようなことに気を付けて指導し、資質や能力を育成する。

① まちやまちづくりに対する興味・関心を育成するために

自分から主体的に学習に取り組ませるために、「榎井の自慢～古い建物や水～」を写真に残すという活動から「呑象楼」「日柳燕石」などもっと知りたいことを見つけ、学習計画を立てさせる。そして、「なぜ古い建物がたくさん残っているのか」「なぜ日柳燕石の生家は残っていないのに呑象楼は残っているのか」という疑問についてまず自分で考えさせてから、それを確かめるために、資料で調べたり、家の人やゲストティーチャーの話を聞いたりして解決できるようにする。

また、「榎井のよさをアピールできるお気に入りの写真を撮ろう」という目標をもたせ、自分たちが調べたことをもとに、一番アピールしたいことを決めて活動できるようにする。写真を撮るときは「何を知らせるために撮るのか」というめあてをもち、何回か撮ることによって、アピールしたいことがよく伝わるように「お気に入りの写真」を撮れるようにする。

② 他者とかかわろうとする意欲とコミュニケーション能力を育成するために

家の人や地域の人にインタビューすることを通して、自分たちの疑問を解決できるようにする。そのために、どんな質問をすればよいか質問内容を簡潔にまとめさせおく。また、どのように接すればよいか、あいさつやお礼、聞き方などインタビューの仕方も考えさせておく。

古いものについて詳しく知っている方などから話を聞く機会を多くもつ。話を聞く時には、相手を見てしっかり聞き、よく分からなかったことやもっとくわしく知りたいことなどが質問できるようにする。

榎井の自慢のベストショットを撮り、その写真に合った文章を書くときは、他の人が読んで分かりやすいように「はじめ・中・終わり」の3つに分けて書けるようにする。

③ 実践化に向かうようにするために

建物などの「もの」から、お祭りなどの「こと」、そして「もの」「こと」を支えている「人」の気持ちへと考える範囲を広げ、「なぜ～なのか」と深めることにより、まちに対する愛着の気持ちを強め、共感させる。

本時では、「呑象楼」が残されている理由を学習したことをもとに考え、昔から日柳燕石を敬愛し「呑象楼」を残すために努力してきた地域の人々の話を聞くことを通して、「呑象楼を大切にするために」自分たちができることを考え、実践していこうとする態度を育てたい。

3 単元の目標

- (1) 「呑象楼」「日柳燕石」について友だちとともに調べたり、「呑象楼」「日柳燕石」に対するまちの人たちの願いや思いに共感したりすることを通して、自分のまちを大切にしようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 調べたことをもとに歴史ある行事や街並みの特色やよさなどを考え、「お気に入りの写真」を選ぶ。
(思考・判断)
- (3) 地域で伝統を支えている人の気持ちを聞いたり、友だちと調べたりしたことを工夫してマップなどにまとめ、表現する。
(技能・表現)
- (4) まちのお祭りや歴史ある街並みについて特色やよさ、人々の働きを理解する。
(知識・理解)

4 単元計画（全35時間）

第1次 めあてをもち、計画を立てよう

（7時間）

- 写真を使って榎井の自慢について思い出し、めあてを決める。 （1時間）
- デジタルカメラの使い方や被写体などを決めて、計画を立てる。 （1時間）
- 榎井の自慢をデジタルカメラで撮り、新たな疑問をもとに調べの計画を立てる。 （5時間）

第2次 呑象楼について調べよう

（11時間）

- 「呑象楼が何の建物か」について見学したり、役場の人の話を聞いたりして調べる。 （1時間）
- 「日柳燕石」について、家の人に聞いたり、資料を使って年表でまとめたりして調べる。 （3時間）
- どのようにして「呑象楼」に高杉晋作が来たのか道しるべを手がかりに調べる。 （3時間）
- 「なぜ呑象楼が今の時代まで残っているのか」について話し合う。 （1時間 本時）
- 「呑象楼」を大切にするために自分たちができることを話し合う。 （1時間）
- 「呑象楼」「日柳燕石」など「榎井の古いもの」の自慢を写真や文章でまとめる。 （2時間）

第3次 お祭りについて調べよう

（5時間）

- 大井神社や春日神社について、家の人や地域の人に聞いて調べる。 （1時間）
 - 秋の祭りについて調べ、祭りには地域の人々の思いや願いがこめられていることが分かる。 （1時間）
 - 地区ごとに違うちょうさについて調べ、準備・片づけなど保存するために多くの人が携わっていることがわかる。 （2時間）
- 随時 地域の祭りに参加し、その様子や人々の思いを調べる。
- 家の人やお祭りに携わる人の話を聞いたり、話し合ったりして、お祭りに対する地域の人々の願いや思いについて知る。 （1時間）

第4次 榎井のまちの写真展を開こう

（10時間）

- どこを榎井の自慢にするか決め、写真を撮る方法や展示の仕方を考える。 （1時間）
- グループに分かれて、自慢になるなるベストショットを写真枠で考えながら撮ることができる。 （2時間）
- ベストショットのアピール文を書いて発表し合い、榎井のまちのベストショットを選ぶ。 （3時間）
- お世話になった人に礼状や写真展の招待状を書く。 （1時間）
- 写真展を開き、地域の人や他学年の友だちに榎井の自慢を知らせる。 （1時間）

※ 他教科とのつながり

- 4年国語「うみがめのはまを守る」（インタビュー、パンフレットを作る）
- 4年国語「自分新聞を作ろう」（見出しの書き方）
- 4年国語「活動ほう告を書こう」（報告文をまとめる）
- 4年国語「お礼の手紙を書こう」（相手に気持ちが伝わる書き方）
- 4年社会「山ろくに広がる用水」（年表の読み方、郷土を思う心）
- 4年道徳「日本の祭り」（郷土愛）
- 3年国語「いろいろな祭りをしらべよう」
- 3年「しょうたい状を書こう」（相手を考えた書き方）

5 本時の学習指導

(1) 目標

「なぜ呑象楼が残っているのか」についてこれまで学習したことをもとにして話し合い、銘菓「呑象楼」が作られたいわれやゲストティーチャーの話などから日柳燕石を大切にしてきた榎井の人々の思いを知ることを通して、呑象楼を守ってきた人々の思い・願いに気づき、呑象楼を大切にしたいという気持ちをもつことができる。

(2) 学習指導過程

	学習活動	予想される児童の反応	支援・評価
課題把握 自力解決 みがき合い まとめ	1 2つの写真を比較して、学習課題をつかむ。	- 今日は、「なぜ、呑象楼は榎井小に残っているのか。」を考えます。 - 新町のところにあった呑象楼の跡の写真だ。 - 呑象楼は、新町から榎井小に移っているよ。 なぜ、「呑象楼」は今まで残っているのか考えよう。	- 意欲をもたせるために児童の疑問から学習問題を作る。 - 課題を明確にするために「呑象楼の跡」と「呑象楼」の写真をはる。
	2 今までの学習を手がかりに、呑象楼が残っているわけを考える。	「呑象楼」が、日柳燕石の家だったから残っていると思う。 - でも、生家は残っていないよ。 - 特別な家だから残っていると思う。 - からくりがあるからだ。 - 高杉晋作が隠れた家だから残っていると思う。 - 佐太郎の家も高杉晋作をかくしたから残っていると思う。 - 新しい世の中にしようと思っている人がたくさん集まった家だから残っていると思う。	発) なぜ、呑象楼が今まで残っているのか自分の考えを書きましょう。 - 自分の考えをもたせるためにワークシートに書かせる。 - 考えが書けていない児童に対して助言するために、2つに分かれて机間指導をする。(T1, T2)
	(1) ワークシートに書く。		
	(2) 話し合う。	- 日柳燕石は、日本のために財産を投げ打って力を尽くしたからだよ。 - 長谷川佐太郎もみんなのために財産を投げ打って力を尽くしたので佐太郎の生家は残っていたね。 - 日柳燕石は、全国的に有名だから残っているんだ。	助) 呑象楼がどんな家だったか、燕石がどんな人だったか考えるといひね。 - 書けていない児童に対して、ファイルを見直させる。 - 友だちの意見と同じか違うか考えて発表できるように助言する。 「残したい気持ち」に視点を向けさせるために、燕石の人物像や呑象楼の建物と地域の人の気持ちを分けて板書する。 - 榎井の自慢である長谷川佐太郎を思い出させるために、丸尾商店と佐太郎の写真を見せる。
	3 地域の人の気持ちを考える。	- まちの人に大切にしたいという気持ちがあったから残っているのだと思う。 - 残したいという気持ちがあったから残っていると思う。 - 今の人に知らせたいと思って残したと思う。	発) あなたは呑象楼をどうしたいと思いますか。 残したいという思いを実感させるために、銘菓「呑象楼」の包装紙を取り上げる。(T2)
	4 ゲストティーチャーの話を聞く。	- 日柳燕石のために「燕石会」を作ったんだ。 - 春日神社の燕石の石碑は、「燕石会」の人が関係していたんだ。 - 燕石の詩を歌ったり、呑象楼の説明をしたりしているってすごいなあ。 - 掃除もしているって大切にしているなあ。 「燕石会」の人は、燕石のことをすごく大事にしているな。	- 地域の人の気持ちに共感させるために昔から「日柳燕石」のことを調べたり、「呑象楼」を掃除したりしてきた「燕石会」の人にVTRなどでその思いを語ってもらう。 - 呑象楼に対する気持ちや自分の気持ちが書けるように2つの観点を板書しておく。
	5 呑象楼に対する思いをワークシートにまとめる。	「呑象楼」が今まで残っているのは、日本を新しい世の中にしようががんばった人々のために、財産を投げ打って助けた日柳燕石の家だったからだ。 - 日柳燕石は、榎井の自慢の人だから残っているんだ。 「燕石会」の人みたいに「大切にしよう」「残したい」という気持ちが強かったからだ。	評) 呑象楼に対する自分の気持ちが書けたか。 A 大切にするために自分ができること(掃除など)をしようと思うことができる。 B 大切にしたい、大切にするために何かをしたいと書くことができる。
		- わたしも、大切にするために何かしたいな。 - 燕石のことをもっと他の人に知らせたいな。 - ぼくも、掃除をしたいな。	

6 / 24



なぜ、「呑象楼」は今まで残っているのか考えよう。

今の呑象楼

- ・ 日柳燕石のべったくだったから
- ・ 特別だから
- ・ からくりがあるから
- ・ 高杉晋作がかくれた家だから
- ・ 新しい世の中にしようと思った人がたくさん集まったから

呑象楼の跡
日柳燕石

- ・ 日本のために財産をなげうって力をつくしたから
- ・ 全国で有名な人だから
- ・ 榎井のすごい人だから
- ・ 石ひを建てられるくらいすごい人だから

残したい、大切にしたい
伝えたい、知らせたい

呑象楼は

- ・ 燕石会の人や榎井の人が大切にしてきたから残っている。
- ・ 昔の人が大切にしてくれてきたから今の場所に残っている。

自分は

- ・ 昔の人のように大切にしたい。
- ・ ほかに人にも教えたい。
- ・ 自分ができことをしたい。
- ・ 掃除ができるかもしれない。

銘菓
呑象楼

「燕石会」…石ひを作る. 詩吟
呑象楼の説明や掃除

第5学年 まちづくり科学習指導案

指導者 教諭 近藤久晃

1 単元名「こんぴら歌舞伎の歴史を知り、できることを考えよう」(領域：交流とにぎわい)

2 単元について

- (1) 琴平町「まちづくり科」では、教科の目標を「郷土について知り、公共のために役立つ活動やまちづくりの実践等積極的で主体的なかかわりを通して、郷土を愛する心や社会の形成に寄与する心構えを育て、郷土をよりよくしていこうとまちづくりに参画する態度を育てる。」としている。また、学校教育法21条3項には「我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」とあり、これら2つから、町を「知る」という活動から始め、最終的に子どもたち自身がまちづくりに参画していこうとする態度を育てることが「まちづくり科」の大きな目標であると考えられる。

本単元では、こんぴら歌舞伎について町の人々がどう関わり、何のためにしているのかを「知ること」を通して、自分たちもまちづくりに参画していこうとする態度を育てることをねらいとしている。全国に誇ることができる「こんぴら歌舞伎」について詳しく学習する中で、歌舞伎を大切にしてきた町の人の思いを知り、琴平町を思う町民の気もちに気づき、琴平町に対する愛着を高めたり、郷土の社会をよりよくしていこうとする心情や態度を育てたりすることにつながっていくと考えられる。

- (2) (4月12日調査 男子15名、女子13名、計28名 無回答1名)

1 こんぴら歌舞伎を成功させるために町の人に関わっていることを知っていますか	
よく知っている 5.2%	だいたい知っている 21.19%
あまり知らない 26.3%	ほとんど知らない 47.4%
2 こんぴら歌舞伎を成功させるためにどんな仕事をしているか知っていますか	
よく知っている 0%	だいたい知っている 31.6%
あまり知らない 36.8%	ほとんど知らない 31.6%
3 こんぴら歌舞伎を成功させるためにあなたにできることがあると思いますか	
たくさんある 21.1%	どちらかといえばある 21.1%
どちらかといえは無い 31.6%	ほとんどない 26.3%

アンケート調査によると、歌舞伎を成功させるために町の人に関わっていることやどんな仕事をしているかは概ね半数以上の児童が分かっていない。これは、見学などにより歌舞伎の表舞台の華々しい活動は詳しく知ることができるが、裏で支える琴平町の人々の活躍を見たり、思いを知ったりする機会が少ないせいであろう。また、歌舞伎鑑賞をした後の児童の感想には、「小屋の中を初めて見た、どんな仕掛けがあるのか知りたい、なぜあの場所でしているのか」といった後の学習につながるような意見をもっている児童が多かったようである。

参加することに関しては、本単元の初めに「金陵の郷」の清掃を目的も何も告げずにした所、「めんどうくさい」「なぜこんなことをしなければいけないのか」など、ネガティブなイメージをもつ児童が多かった。

- (3) 単元を通して以下のような事に気をつけて指導し、資質や能力を育成する。

① まちやまちづくりに対する興味・関心を育成するために

歌舞伎について興味をもちながら学習が続けられるようにするために、歌舞伎鑑賞や施設見学の際には事前指導をし、一人ひとりに目的を持たせて見学をさせる。また、教師の一方的な教え込みにならないように「ふるさと香川」の資料を用いたり、ゲストティーチャーを招いて話を聞いたりして、興味や関心が持続するようにする。

② 他者とかかわろうとする意欲とコミュニケーション能力を育成するために

外部の人に来ていただき、質問に答えてもらったり準備や片づけの苦勞を語ってもらったりしながら直接的な意見が聞けるようにする。また、その時には画像を用いたり、メモを取らせたりすることを極力控え、聞くことに集中できるようにする。必要であると思われる話は教師がまとめるようにする。

心情について考えさせる場では、二者択一で議論をする場を設け、自分の本音を語ったり、他者

の本音を聞いたりして他者意識を高めて学習に取り組ませる。また、グループでの話し合いをできるだけ設け、少しでも多くの意見交流ができるようにする。

③ 実践化に向かうようにするために

置かれている状況や、社会的・一般的な話の内容を「自分だったらどうするか」「琴平町としてはどうか」というように、自分や町に置きかえながら自分の在り方を考えさせる場面を設ける。そして「できる、できない」の議論だけで終わらず、「する、しない」という意思表示をさせ、琴平町の一人として町づくりに参加していこうとする意欲を高めていく。

3 単元の目標

- 「こんびら歌舞伎」について関心を持ち、そのことを意欲的に調べ、愛着を持って自分たちにできることは何かを考えようとする。(関心・意欲・態度)
- 「こんびら歌舞伎」に関係する周囲の様子から問題意識を持って調べたり学んだりし、調べたことをもとに歌舞伎の成功のために自分たちができることは何かを適切に判断しながら考えることができる。また、それらを参考にしながら、歌舞伎から琴平町全体に目を向けて琴平町のために自分にできることが考えられる。(思考・判断)
- 「こんびら歌舞伎」を支えている人や仕事についてまとめたり、調べたりすることができる。また「こんびら歌舞伎」の成功のために自分にできる行動を起こすことができる。(技能・表現)
- 「こんびら歌舞伎」は町おこしの一つであることがわかり、それを陰で支えている人がいることや、その人たちの思いがわかる。(知識・理解)

4 単元計画 (全40時間)

第1次 こんびら歌舞伎について興味をもち、学習計画をたてよう (12時間)

- ・ 歌舞伎の準備をしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
- ・ 琴平町の春の様子 (金丸座の様子) を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・ 9時間

第2次 こんびら歌舞伎について知ろう (11時間)

- ・ 歌舞伎の人気について知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7時間
- ・ 金丸座やこんびら歌舞伎の歴史について知ろう・・・・・・・・・・・・ 2時間
- ・ 歌舞伎を支える人たちについて知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

第3次 琴平町の人たちのすばらしさを知り、歌舞伎に参加しよう。(6時間)

- ・ 琴平町の人による準備や片付けについて知ろう・・・・・・・・・・・・ 1時間 (本時)
- ・ 歌舞伎のために自分にできることを実践しよう・・・・・・・・・・・・ 5時間

第4次 琴平町のためにできることをしよう (11時間)

- ・ 金丸座の見学をして学習のまとめをし、金丸座やこんびら歌舞伎のすばらしさに誇りをもとう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間
- ・ これまで学習を振り返りながら感謝の気持ちを伝えたり、自分の将来の展望を描いたりして琴平町のことをさらに好きになろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5時間
- ・ 町のためにできることを実践しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間

※ 他教科とのつながり

- 4年社会「きょうどに伝わる願い」
- 5年社会「わたしたちの生活と情報」
- 5年国語「いろいろな角度から考えてかこう」「自分の考えを伝えるスピーチをしよう」
- 6年社会「江戸文化をつくりあげた人々」
- 6年国語「伝え合おうわたしの意見」

5 本時の学習指導

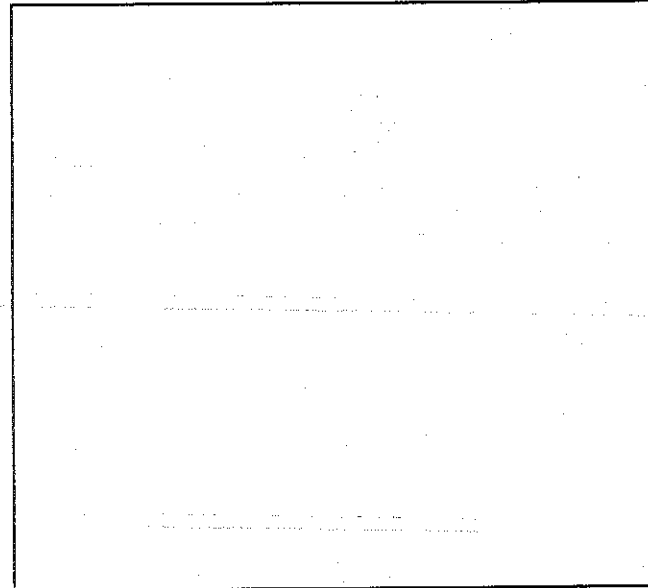
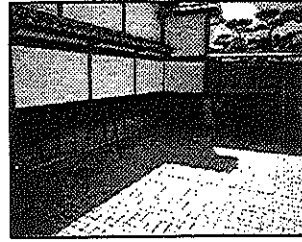
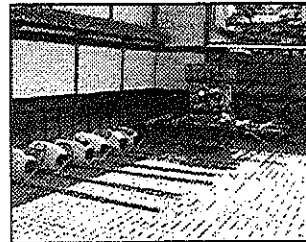
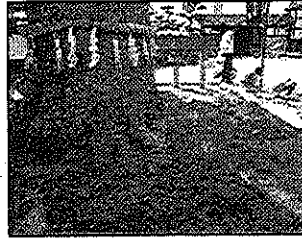
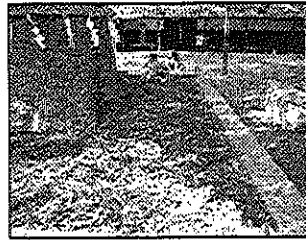
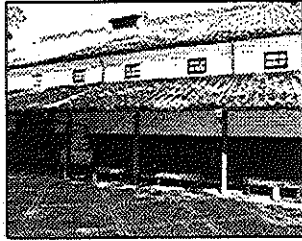
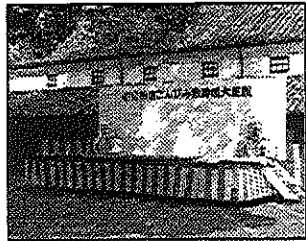
- (1) 目標 こんぴら歌舞伎を盛り上げようとして陰で支えている人の仕事を「自分ならできるか、できないか」を話し合い、その人たちの思いを聞くことを通して自他に対する意識を高め、社会に対する貢献という考えで、自分ができることをしてみようという思いをもつことができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	児童の反応	教師の支援
1 課題をもつ。	・ だれかが準備をしたのだろう。 ・ 他の仕事はボランティアだったから、これもボランティアの人がしているのかな。	・ 2枚の写真（準備の前後）を比べて違いを考えさせ、準備をしたことがわかるようにする。
	準備はだれがしているのだろう	発) このような準備はいつ、だれがしているのでしょうか。
2 裏方としてどんな仕事をしているかを知る。	・ 誰にも気づかれないような仕事を琴平町役場の人たちがしていることがわかった。 ・ 気づかないところでこんなにたくさん仕事があるのだな。 ・ 私たちがやった金陵の郷の清掃もあるよ。	・ 目立たない仕事が多くあることが分かるように、資料を用意する。 ・ 「金陵の郷の清掃」を入れておき、自分たちもボランティアをしたことに気づけるようにする。 ・ ゲストティーチャーに目立たない仕事をしているときの心情を聞いたり、わかりにくい仕事に関して尋ねたりできるように時間をとる。
3 自分ならできるかどうかを話し合う。	できる ・ 琴平町に人を呼ぶのに、準備するのはあたり前だ。 ・ だれかがやらないと歌舞伎が運営できなくなるかもしれない。 できない ・ めんどくだし、自分の時間がもったいない。 ・ 別に自分でなくてもだれかがする。 ・ 気づいてもらえないからいやだ。	・ 同じような仕事が自分たちだったらできるかと問いかけ、立場をはっきりさせて意見交換をし、今の自分を振り返ることができるようにする。 ・ できるという立場の人間には、金陵の郷を清掃したときの感想（めんどくさい、なぜしなければいけないのか）を伝え、できないという立場の人間には歌舞伎が運営できにくくなることを伝えて考えを揺さぶる。
4 ゲストティーチャーから実際に働いている人の気持ちを聞いて自分の考えを振り返る。	・ 多くの仕事を琴平町のためを思っているのだな。 ・ 佐藤さんもしやだなと思うときがあるみたいだけど、全国に誇れる琴平町にするために頑張っていることがわかった。	・ ゲストティーチャーに、実際に仕事をする時には「町のため」という事を考えながらしているということを話してもらい、町のために働くことのすばらしさに気づけるようにする。 ・ するかしないかという2つの立場で再度考えさせ立場をはっきりとさせるが、他の意見に流されないように黒板には表示させない。
	する ・ 全国の人に気もちよく歌舞伎を見てほしい。 ・ ほめられたい。 ・ だれもしないから仕方がない。 しない ・ めんどくさ。 ・ 別に自分には関係ない。 ・ 自分がしなくてもだれかがやってくれる。	評) するという立場をとることができ、町への貢献が感じられる理由をかけたか。 A 他者や社会への貢献を目的として判断している B ほめられたり怒られたりするという賞罰で判断をしている
5 今後の見通しをもつ。	・ 今年は歌舞伎が終わっているから来年できないかな。 ・ 琴平町のためになる仕事は歌舞伎だけではない。いろいろと探してみよう。	・ 今年の歌舞伎が終わっていることを伝え、来年の歌舞伎、もしくは歌舞伎を含めた琴平町全体のことへ意識が向くようにする。

(3) 板書計画

準備はだれがしているのだろう



できる

- ・ 歌舞伎を見に来てくれる人のために
- ・ 琴平町や歌舞伎が好きだから

できない

- ・ 誰にもほめてもらえないのでやっても意味がない
- ・ 時間がかかるから
- ・ 自分がしたいことがある
- ・ めんどくさい



- ・ とても多い
- ・ できそうにない
- ・ 時間がかかりそうだ
- ・ あまり知らない準備が多い

佐藤さんはこう考える！

- ・ 琴平町が好き
- ・ 全国に誇れる町にしたい
- ・ 琴平町が有名になって欲しい
- ・ お客さんに気持ちよく過ごして欲しい

時刻	教師の支援 (発問・助言など)	子どもの反応
1:30	<資料配布> ・気づいたことを言えますか。 30秒隣の人と話し合ってください。 ・みんなの意見をまとめると、何かの準備をしていることが分かります。準備はだれがしているか知ってる? ・今日はそれを勉強します。	・人力車 ・左は落ち葉、みんながきれいにしたから右は残っていない。 ・左は何もない、右は舞台がある。 ・人力車は歌舞伎の役者さんが乗る。 ・金比羅歌舞伎の準備をしている。 ・左は前のこと、右は後のこと。
	準備はだれがしているのだろう。	・金陵の人たち ・舞台の裏方さん ・片岡さん ・地域の人 ・ボランティアの人
1:40	・準備のことをよく知っている佐藤さんに教えてもらおうと思って、来てもらっています。 佐 役場の方でしています。写真以外にもいっぱいあります。 ・準備はどのくらいあると思う? <資料提示・配布> ・63個あります。が、それだけですか。 佐 63個以上あります。 ・仕事を見てどうですか。	・30個。50・・・80・・・? ・かくれてある ・夜とか
1:45	・何人くらいの人でしていますか。 佐 10～15人。	・たくさんの人が働いている。 ・舞台を組み立てるだけでなく、案内する人もいる。 ・弁当を買う人のために食料の買い出しがある。 ・時間が足りなくなる。 ・なぜこんなにするの。 ・もっと盛り上げようとしている。 ・ボランティアの人が多いのでは。 ・ぼくらみんなですてもできない。
1:50	・自分だったら、この仕事できるかな。 ○をつけて、その理由を書いてください。 できた人は、相手の立場の人に対して意見や質問を言ってください。	<名前磁石> できる ・全部は無理、提灯・・・できそう。 ・分からないことは協力して ・分担できる。得意なこと、できること できない ・15人でやっていたら、何回もしなければ終わらない。 ・どの仕事をしたか分からなくなりそう ・クレームの処理は大変。
	・デザインは・・・ 佐 お願いに行く。	

	・佐藤さんは、役場の仕事もして、歌舞伎の仕事もしています。 ・分担・協力といった人、どれならできそう？ ・みんなでできたことが1つあるよ。 〔佐〕 終わってからしている。 ・紙吹雪の掃除 ・できるといった人に質問。 「今度はやりたくない」「嫌だった」「めんどくさかった」「きりがない」「何でこんな事を」という意見がありました。本当にできる？ ・できないといった人に質問。 「できん」と言っていたら歌舞伎が開かれなくなるよ。 ・佐藤さんはどんな気持ちでこの仕事をしているのだろう。	・気分が悪くなった人・・・どうするの ・たくさんありすぎて何が何か・・・ ・分からないものが多い。 ・苦労しそう。 ・違う仕事まで体がついていかない。 ・時間がかかる。 ・力もいる。 ・得意な人がいない仕事は無理。 ・少人数で協力してもできない。 ・嫌になってしまう。 ・うまくいかないと今年はできない。 ・トイレの掃除 ・お願い（役者に、ボランティアに） ・証明のチェック ・お礼 ・提灯を持って歩く ・金陵の里の掃除 ・紙吹雪を作る。
2 : 0 5	〔佐〕 落ち葉の掃除は嫌なことです。みんながしてくれたので、当日少なかった。お練り（全国から1万5千人）までにきれいにすることが早くできた。仕事の内容はお練りのことがほとんど。それ以外にも開催中の仕事もある。役場は準備をするのが仕事。それ以外の人では、何百人も。金丸座は歌舞伎のための芝居小屋。それを見るために全国から来る。琴平町が有名になるように、また来ようという人が増えることが町のためになる。余分に給料はない。ボランティア。嫌と思うこともあるけれど、地域の人のがんばってくれるので。琴平町が大好きなので、町の活気を取り戻すためにしている。みんなもできることからして欲しい。	<メモX、聞くことに集中>
2 : 1 2	・タイトルをつけるなら 琴平町が大好きな佐藤さんは、全国から来た人に、来てよかったと思って欲しい。という気持ちでこの大変な仕事をしています。 ・自分が大人になったときに、こういう仕事が回ってきた。するか、しないか、理由をつけて本音で書いてください。 ・いいなあと思った言葉がありました。 〔 町のために、 琴平町が好きだから、ぼくも、私も	

単元名	「こんびら歌舞伎の歴史を知り、出来ることを考えよう」		
授業者	近 藤 久 晃	記録者	京 兼 密
記 録			
1 はじめに 校長あいさつ・・・「まちづくり科」横断的(他教科との関連)・自分づくり 2 授業者から ① 学習の意図・・・自分が琴平町の一員である。琴平町のために陰で支えている人達が多くいる。 それを知ることは将来の町の一員として役立つ。 ② 子どものデーター・金丸座がすごい。金丸座を守っている人、町がすごい。 3 先生への質問 ① Q 1 参画態度について・・・〇〇のために ② Q2 地図の作り方・・・地域への働きかけ(安全マップ、やさしい町づくり) ③ Q 3 生活科・・・低学年からの発展 →「愛着心」 4 回答 ① Q 1 in・・・～の中で(低)体験させる。 愛着ができる。→自分のいる所・学校 About・・・について 知識(相手方調べる) for・・・のために 参加態度育成、役に立っている。自発 「参画態度」・・・生き物のために、自然のために、人のために コミュニケーションスキル (学校が育てていく) 〇〇のために・・・使いすぎない ② Q 2 地図ポスター・・・タイトル、ポスター化する。 ※ 月刊社会科教育・明治図書 ③ Q 3 「まちづくり科」・・・ 琴平町のオリジナルな、市民意識を取り入れた「総合教育」の 特別版 たんけん → ひみつ → じまん 町の人に自慢する。たがいに交流する。 土着性をもたせて 町に住んでいる人の思い・願い			

記 録

5 本時の授業指導

- ① 指導案について・・・単元計画 → 一目で何をしたか分かるようにする。
- ② 授業・・・2枚の比較写真(準備)変化があつてよかった。(人が写っていない)
教師の机間巡視の丸つけ
- ③ 板書・・・仕事の量63・数字で事実をはっきりさせる。
- ④ 授業のスムーズさ・・・できる、できないの二項対立場を導入することで、子どもの討論を起
こし更に深い考えと導く。
- ⑤ まとめ・・・しない3名いたのでほっとした。
- ⑥ ゲストティチャー・・・児童から佐藤さんへ聞かせる。佐藤さんはどうして・・・。
- ⑦ タイトル・・・キーワードを残して、子どもにタイトルをつけさせる。
- ⑧ 63の仕事・・・児童にできそうなものに丸をつけさせる。
- ⑨ 学習課題・・・きちんと設定され授業が丁寧である。
- ⑩ 学習形態・・・の字の机配置

4 今後に向けて

- ① 地域へ発信する仕方・方法
- ② 関連教材を入れた単元計画を作る。
- ③ 子どもの発表・・・長いフレーズで、主語・述語を入れた発表のさせ方を培っていく。
思考力、語彙力の育成

第6学年 まちづくり科学習指導案

学習指導者 菅原 聡子
本屋敷和恵

1 単元

～人にやさしいまちにしよう「みんなが住みやすい『ええなあ、いい町琴平町』をつくろう」～
(領域：人にやさしいまち)

2 単元について

- (1) 「まちづくり科」の学習では、発達段階の課題に即したまちづくり教育を行い、郷土を愛し、まちづくりに主体的に参画できる子どもを地域と一体となって育てることを目指している。6年生は「自己発見期」にあたり、郷土について深く知り、まちづくりの実践を行う中で、自らの生き方を発見し、まちづくりに参画しようとする態度を育てることを目標としている。

5年生では、榎井校区から琴平町全体に自慢の視点を広げ季節ごとのまちの自慢を見つけさせるようにし、「こんびら歌舞伎」にどのような参加（準備や片付け段階で）ができるか、観光客を増やすための行事はどうすればよいか、「こんびらさん」にもっとだれでも（子ども、障害をもっているお年寄り）があがりやすくするための工夫や方法（石段の掃除、道案内、写真、補助等）などについて考えてきた。その中で、自分たちにもできることがあると気づくだけでなく、観光客にやさしいという観光客の立場に立って見る重要性にも気づくことができた。

本単元は、「児童一人ひとりがどんなまちにしたいか」という願いの中から「小さい子どもからお年寄りまでのすべての人に親切なやさしいまち」に視点をあててテーマを設定した。

「琴平のまちは、障害のある人や高齢者にやさしいのか」という課題をもち、車椅子体験やアイマスク体験、高齢者疑似体験を行ったり、実際に歩いてバリアフリーや段差など危険個所を調べたりして、琴平のまちは物理的には「人にやさしい」と言えないことや地域の人々の温かさに気づかせる。そして、福祉課や社会福祉協議会がしていることについて調べたり、実際にお年寄りと交流する会を開催したりすることを通して、どうすることがお年寄りにとってやさしいまちになるのか自分たちにできることを考え、実践できるようにする。そうすることにより、自己効力感が醸成され、まちづくりに主体的に参画しようとする子どもが育つのではないかと考える。

(2) 事前のアンケート

(5月24日調査 男子10名、女子9名 計19名)

- | | | | | | | | | | |
|---|--|------------|----|-----------|-----|-------------|----|------|----|
| 1 | 琴平町は障がいをもっている人にやさしいと思いますか。 | とてもやさしいと思う | 5名 | やさしいと思う | 9名 | あまり思わない | 4名 | 思わない | 1名 |
| 2 | 琴平町はお年寄りの人にやさしいと思いますか。 | とてもやさしいと思う | 7名 | やさしいと思う | 7名 | あまり思わない | 4名 | 思わない | 1名 |
| 3 | 琴平町は子どもにやさしいと思いますか。 | とてもやさしいと思う | 5名 | やさしいと思う | 6名 | あまり思わない | 7名 | 思わない | 1名 |
| 4 | 琴平町で障がいをもっている人やお年よりの人のためにしていることを知っていますか。 | よく知っている | 1名 | たいたい知っている | 7名 | あまり知らない | 7名 | 知らない | 4名 |
| 5 | 琴平町で子どもたちのためにしていることを知っていますか。 | よく知っている | 1名 | たいたい知っている | 5名 | あまり知らない | 8名 | 知らない | 5名 |
| 6 | 琴平町が人にやさしいまちになるために、あなたは何かしたいと思いますか。 | とてもしたいと思う | 4名 | したいと思う | 12名 | あまりしたいと思わない | 2名 | 思わない | 1名 |

(3) 単元を通して以下のようなことに気を付けて指導し、資質や能力を育成する。

① まちやまちづくりに対する興味・関心をもたせるために

まちに関心をもたせるために、「どんなまちにしたいか」と意見を出し合い、KJ法でまとめるようにする。たくさんの意見の中から、他の学年が学習していない「小さい子どもからお年寄りまでのすべての人に親切なやさしいまちにしよう」というテーマを設定する。

そして、「人にやさしいまちか」という視点で、町内を写真を撮りながら観察し気がついたことや疑問・知りたいことを書かせ、整理しまとめたものを活動を通して解決していくようにする。

② コミュニケーション能力を育成するために

家の人や地域の人にインタビューすることを通して、自分たちの疑問を解決できるようにする。そのために、どんな質問をすれば疑問が解決されるか、質問内容をまとめたり、精選したりして、簡潔にまとめさせる。また、どのように接すればよいか、あいさつやお礼、聞き方などインタビューの仕方も考えさせてインタビューにのぞむようにする。

また、お年寄りとのふれあう計画（会の命名、プログラム、ゲームなど）を児童の話し合いを中心に行ったり、どんなゲームにするか「プレゼンテーション」という方法で決めたりする。その際、相手の意見を尊重した言い方や相手に分かりやすい話し方（分かりやすく話すコツ10）ができるように支援する。

プレゼンテーションの仕方についても、資料（情報）の収集の仕方（本、インターネット、身近なお年寄り、年配の人、福祉の仕事に携わっている人などに聞く、実際に見るなど）、クリップなどの作り方（レイアウト、配色）などの技能もその都度身につけるようにさせる。

③ 実践化に向かうようにするために

「人にやさしいまちか」という視点から、まち探検、車椅子体験、高齢者体験などををして、まちの問題点やよさを見つける。そして、問題点を改善するために自分たちができないか考え、子ども議会でお願いしたり、あいさつや声かけ、お年寄りとのふれあいなど自分たちができないことはないか考えたりする。そして、琴平町ではどんなことをしているか役場の福祉課や社会福祉協議会の仕事について調べたり、その活動に参加したりしてお年寄りとの触れ合いの仕方を考える。そして、「お年寄りが元気になるように 楽しめるように」という願いから、お年寄りとのふれあいの会を計画、実践することを通して、「自分でもできそうだ」という自己効力感をもたせ参画態度を育てたい。

3 単元の見込み

(1) みんなが住みやすいまちづくりに関心を持ち、体験を通して意欲的にまちの問題点や解決の仕方を調べたり、自分たちができることを計画したりして、高齢者と積極的に交流しようとする。
＜関心・意欲・態度＞

(2) 町のよさや改善点を知り、自分たちにできることや町への提案を考える。 ＜思考・判断＞

(3) 自らの体験や調べたこと、資料などから分かることをマップや表にまとめたり、相手に分かりやすいプレゼンテーションをすることができる。
＜表現・処理＞

(4) 高齢者にとって住みやすいまちとはどんなまちか、自分たちにできることはどんなことかが分かる。
＜知識・理解＞

4 単元計画

第1次 テーマを決めて学習計画を立てよう。(3時間)

- どんなまちにしたいか学級の意見をKJ法でまとめ、話し合って決める。(2時間)
- 人にやさしいとはどういうことか考え、調べる計画を立てる。(1時間)

第2次 琴平町は、障害のある人やお年寄り・小さい子どもにやさしいか調べよう。(16時間)

- まちを探索してバリアフリーを見つけ写真に撮り、地図にまとめる。(4時間)
- バリアフリーは、人がよく利用するところや人が多い場所に設置されていることに気づく。(1時間)
- ヘレンケラーや乙武洋匡の本を読んだり、お年寄りにインタビューをしたりして生活上の不便さを知る。(1時間)
- 車椅子体験をして、琴平町の道路・建物などハード面で危険だったり、不便だったりすることや、ソフト面でまちの人がやさしいことに気づく。(4時間)
- 高齢者擬似体験をして、高齢者になったときの体や心の状態を体験して、高齢者の理解を深める。(4時間)
- 車椅子体験や高齢者擬似体験など1学期に学習したことから、「いもまち琴平」づくりで子ども議会に提案することを考えて作文に書く。(2時間)

第3次 自分たちがお年寄りのためにできることをしよう。(19時間)

- 役場や社会福祉協議会の資料を調べたり、実際に行きインタビューをしたりしてまちがお年寄りのためにしていることを知り、自分たちができることを考える。(3時間)
- 高齢者と交流するために「頭のげんき塾」に参加し、ゲームをいっしょにしたり、インタビューしたりして、お年寄りの思いを知る。(2時間)
- お年寄りが元気になる会の計画を立て、ゲームの内容をプレゼンテーションの方法を使って決めたり、ゲストティーチャーのアドバイスをもらって工夫したりする。(3時間)
- お年寄りが元気になるような「覆小キッズいきいき塾」を自分たちで開催し、お年寄りと交流し理解を深める。(3時間)

第4次 小さい子どもたちに自分たちができることをしよう。(2時間)

- 新一年生に覆井校区の危険場所を地図を使ったり、実際に歩いたりして説明する。(2時間)

※ 他教科とのつながり

- 3年国語「招待状を書こう」
- 3年国語「どちらが好き」(メモを取りながら聞く)
- 3年国語「私のお気に入りの場所」(インタビューをする)
- 3年国語「じゅんじょを考えて」(文書を読み返す)
- 4年国語「お礼の手紙を書こう」(お礼の手紙を書く)
- 6年国語「気持ちのよい話し方をしよう」(言葉づかい)
- 6年国語「伝え合おう わたしの意見」(分かりやすく話す)
- 6年国語「依頼の手紙を書こう」(書き方)
- 6年社会「わたしたちの願いを実現する政治」
- 6年社会「市議会をたずねる」

5 本時の学習指導

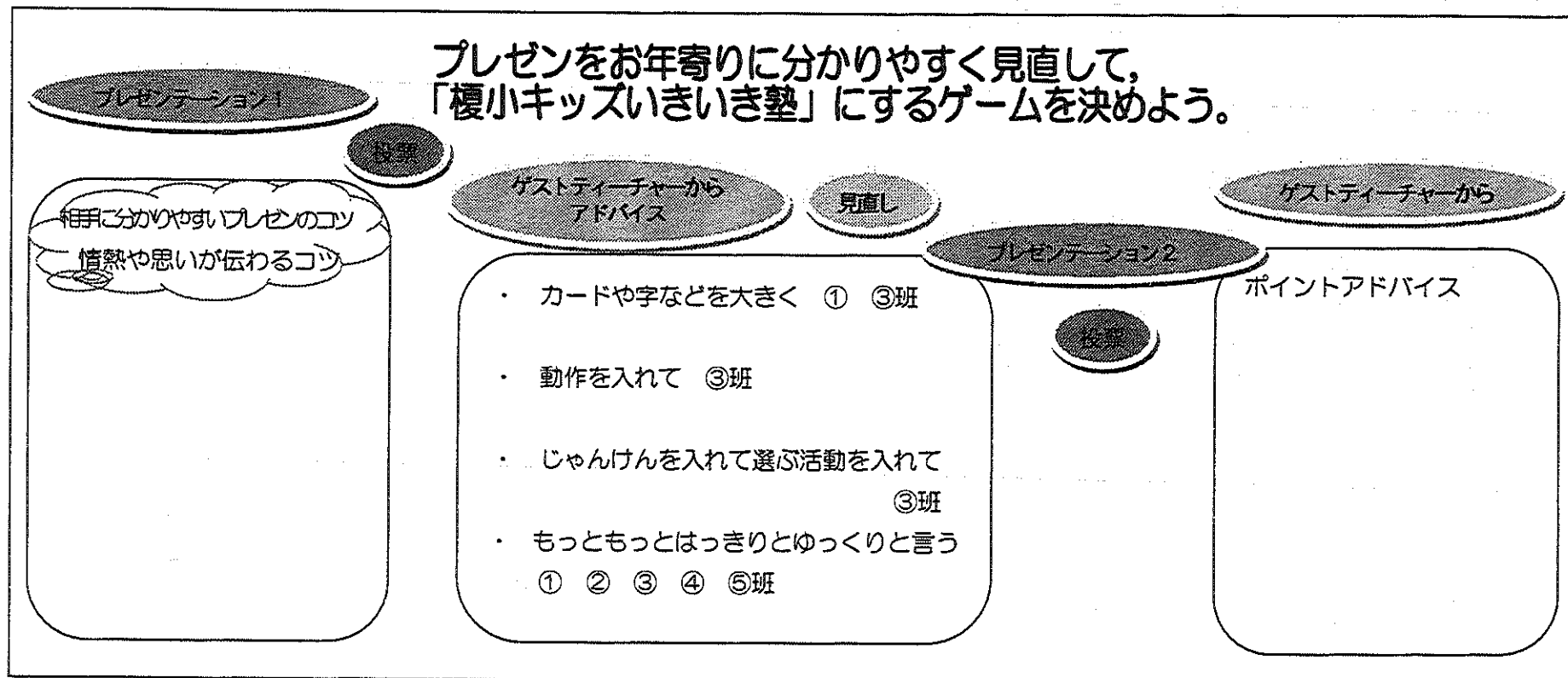
(1) 目標

- 友だちの発表を聞いたり、ゲストティーチャーのアドバイスを取り入れたりして、お年寄りに分かりやすいゲームの内容や説明の仕方に見直すことができる。
- お年寄りに分かりやすいプレゼンのコツを使ってプレゼンができたか。

(2) 学習指導過程

学習活動	予想される児童の反応	支援・評価 T1	支援・評価 T2
1 学習課題を確認し、本時の見通しをもつ。	プレゼンをお年寄りに分かりやすく見直して、 「履小キッズいきいき塾」にするゲームを決めよう。		
2 班ごとにおすすめのゲームをプレゼンする。	わたしは大きい声ではっきり話します。 ゲームの仕方が分かるように、大事なところはゆっくりと間をとって説明しよう。	T1 学習課題を確認させ、見通しをもって活動ができるように1時間の流れを黒板に提示する。	
(1) 自分のめあてを確認する。	気持ちが伝わるように話そう 1班 絵合わせゲーム	発) 相手に分かりやすいプレゼンにするために自分のめあては何ですか？	
(2) 班ごとにプレゼンをする。	2班 ジェスチャーゲーム 3班 新聞文字さがしゲーム 4班 ことわざ言葉ぬきゲーム	T2 分かりやすいプレゼンテーションの仕方を確認させるために提示した資料を指し示す。	
(3) ゲストティーチャーのアドバイスをうける。	5班 お題あてゲーム カードが大きかったので見やすいな。わたしの資料ももう少し大きいものにしよう。	・ 端的に説明できるようにタイマーを使って時間制限(3分以内)をする。	
3 見直しをしてもう一度各班でプレゼンをする。	実際にして見せていたのでとてもよく分かる。ぼくのところもして見せるといいな。 もう少し簡単にした方がお年寄りにわかりやすいな。 動作を入れてお年寄りが動けるといいな。 さっきよりもお年寄りにわかりやすくなったはずだ。ゆっくりと話そう。 お年寄りが少し動いて足が強くなるように頭が使えるように歩いてジャンケンするのを入れたよ。	・ 見直しの意欲をもたせるためにプレゼンの結果から1回目の投票をする。	
4 どのゲームが「履小キッズいきいき塾」にふさわしいか決める。	字が小さいから大きく拡大できるように虫めがねを用意したよ。 4班が1番玉が多いよ。理由は？ 3班ゲームの内容も説明の仕方もお年寄りに分かりやすくして楽しく元気になるようだったんだな。	T2 自分の班のゲームを見直させるために他の班のプレゼンを聞いて、見直したいことやマネをしたいことなどをメモをしたり、評価したりするカードを用意する。	
5 ゲストティーチャーの感想を聞く。	次の時間は「履小キッズいきいき塾」が開くことができるように道具の準備やどんなことをお年寄りに聞かか考えていこう。	・ お年寄りの側に向けた的確なアドバイスをいただくためにゲームの内容、説明の仕方の2つの観点に決めておく。	
		T1 主に1, 2班の児童に助言する。 T2 主に3, 4, 5班の児童に助言する。	
		・ アドバイスしたことがより具体的なものになるようにゲストティーチャーにも各班に入ってもらおう。	
			評) 相手に分かりやすいプレゼンをするために自分のめあてが達成できたか。 A: 情熱をもって自分の言葉で説明することができる。 B: 自分のめあてが達成できる。
			評) アドバイスを受けてよりよいゲームになるように意見交換をしながら見直しができたか。 A: アドバイスにそった意見を言いながら具体的に意見交換ができる。 B: アドバイスにそった意見を言ったり、聞いたりすることができる。
			・ お年寄りや専門家の意見が反映するように一人につき先生方2点、ゲストティーチャー3点で投票する。 ・ ゲストティーチャーの話を聞いて次時の見直しを持たせるために感想を書かせる。

(3) 板書計画



学年	単元名	人材名	内容	連絡先など
1	安全を守ってくれる「子どもSOS」について調べよう。		子どもSOSについての苦労や工夫、やりがいについて	教7
1	昔の遊びを地域の方に教えてもらおう。		昔の遊びについて紹介	琴7
3	榎井のじまんを知らせよう！「まるお商店のひみつ」		丸尾醸造所のうまみしょう油を県外の親戚の人に宅配で送っている。	
3	同じ		うまみしょう油を愛用している。	
3	同じ		丸尾商店の歴史とうまみしょう油の工夫(テープ)	Te F 7
4	歴史の残る榎井の風景		東中のちょうさの歴史や人々の願いについて	7
4	同じ		ポストの歴史について	
6	みんなが住みやすい町をつくろう		車いす体験、高齢者疑似体験、デイサービスの連絡	
6	〃		車いす体験で駅を訪れる際の連絡	
6	〃		戦争体験を聞く	
5	こんぴら歌舞伎の歴史を知り、すばらしさを伝えよう		歌舞伎の準備	
5	琴平町をにぎやかな町にしよう		行事 こんぴらさんへの想い	
全	全学年		昔の榎井の町のこと	

人材バンク表(2)

2010

	単元名	人材名	内容	連絡先など
1	昔の遊びを地域の方に教えてもらおう	横井さん (燕石会の方々)	・昔の遊びを教えてもらう	教 会
1	子どもかけこみ110番		・子どもSOS不審者に話しかけられたときどうする?(実技指導)	教 会
2	地域の祭り		・地域の祭りについて準備や様子、願 望 についてのお話	教 会
3	榎井のじまんを知らせよう! 「まるお商店のひみつ」		・うどん作り講師 ・うどん玉注文	3)
4	榎井のじまん写真展		・燕石会の説明 ・詩吟の紹介、詩吟練習、伴奏など	0 8)
4	榎井のじまん写真展		・呑象楼見学	町 課 務
5	こんびら歌舞伎の歴史		・歌舞伎の裏準備	町 75
5	歌舞伎役者になろう		・木戸芸者の説明と指導	() か
6	人にやさしい町にしよう		・町の取り組みについて聞く ・「げんき塾」に参加する際の連絡	
6	人にやさしい町にしよう		・「いきいき塾」への参加を要請する ・教育委員会河内さんに連絡	